

# 東山古墳群Ⅱ

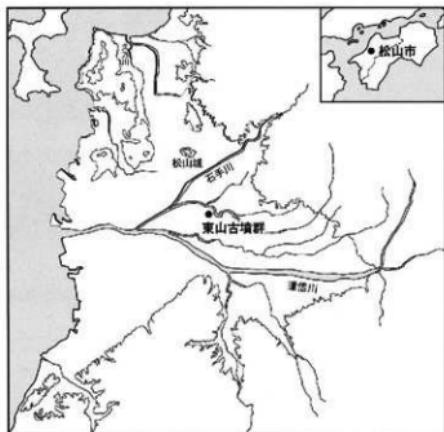
—3次調査・6次調査—

2004

松山市教育委員会  
財団法人松山市生涯学習振興財団  
埋蔵文化財センター

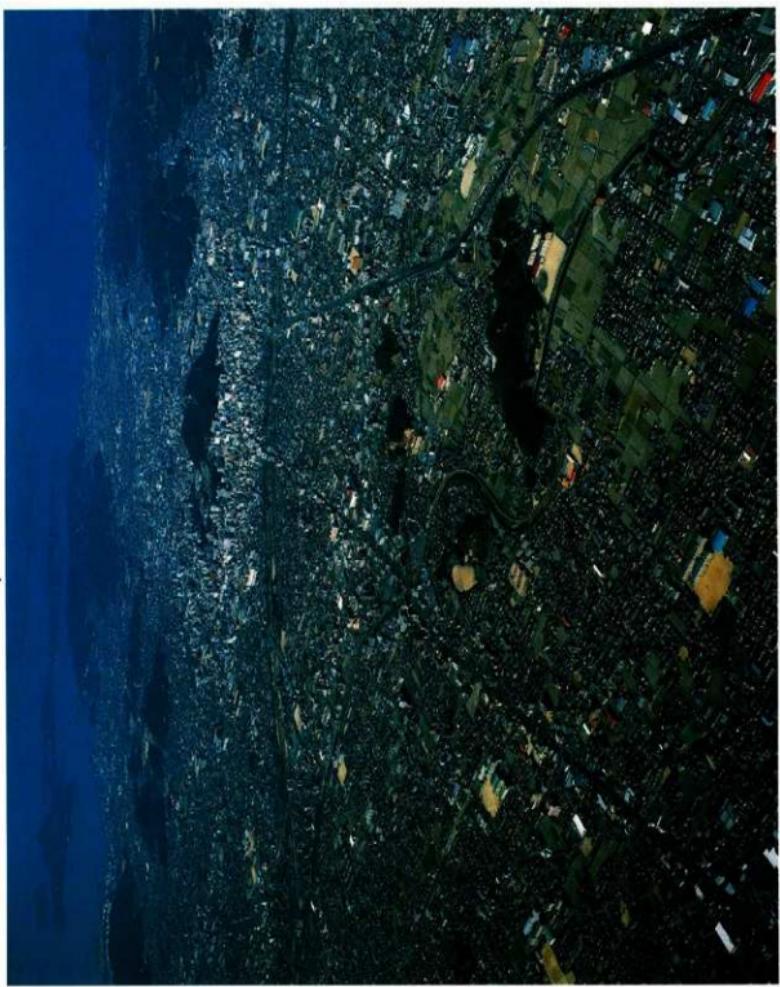
# 東山古墳群Ⅱ

—3次調査・6次調査—



2004

松山市教育委員会  
財団法人松山市生涯学習振興財団  
埋蔵文化財センター



図版1 東山古墳群（南上空より）



卷頭圖版2 29号墳出土鉄鉢・鉄刀

## 序

松山市は、市内東石井の公園整備に伴い、事前の発掘調査を実施しました。本書はその調査成果をまとめたものです。

調査地は松山平野のほぼ中央に位置する独立丘陵で、『伊予国風土記』逸文に記されている「伊予三山」（天山・星岡山・東山）の一つとしてよく知られています。周辺には縄文時代をはじめとして古墳時代から中世にわたる数多くの遺跡が存在しています。とくに、東山は、現在までの調査によって23基の古墳を検出し、松山平野の中でも有数の古墳時代の群集墳であることが判明しています。

今回の調査からは、縄文土器、弥生時代前期の土壙墓、古墳6基、中世の土器を検出した。とくに、古墳6基からは古墳の墳形と石室構造など松山平野全体の古墳形態を考える上で貴重な資料となっています。また、弥生時代前期の土壙墓は松川平野で数少ない出土例である。

このような成果をあげることができましたのも、関係各位の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力をたまわったお陰と心から感謝申しあげる次第です。

なお、本書が埋蔵文化財の調査研究の一助となり、文化財保護、教育文化の向上に寄与でき、今後各方面でご活用できれば幸いに存じます。

平成16年3月31日

財団法人 松山市生涯学習振興財団

理事長 中村時広

## 例　言

1. 本書は、松山市教育委員会文化教育課（現文化財課）と財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが平成元年と平成4年度に実施した松山市東石井 $\angle$ 39-1外所在の松山市市有地内における発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、松山市公園緑地課が公園整備に伴う事前調査として実施された。
3. 遺構の作図・製図、遺物の実測・製図は高尾和長の指示のもと志賀夏行、水口あをい、仙波ミリコ、仙波千秋、東山里美、金子育代、高尾久子、田崎真理、中村紫、宮内真弓が行った。
4. 遺構は呼称を略号で記述した。土坑：S K、溝：S D、性格不明遺構：S Xである。
5. 写真図版は高尾と大西朋子が協議し、遺物の撮影及び図版作成は大西が行った。
6. 遺構の写真撮影は高尾、松村淳、大西が行った。
7. 遺構図と遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。
8. 本書に使用した方位は、すべて磁北である。
9. 本書に関わる遺物や記録類は、松山市立埋蔵文化財センターで保管している。
10. 鉄製品のX写真撮影及び分析では、東山古墳群6次調査出土の鉄鋸・鉄刀は（株）京都科学に業務委託し、東山鷺が森古墳群1次・2次・東山古墳群6次調査出土品と寄贈品は愛媛大学村上恭通、田中謙氏に指導・協力を賜った。記して感謝申しあげます。
11. 本書の執筆は高尾、山之内志郎、梅木謙一が行った。
12. 本書の編集は高尾が行った。
13. 製版 写真図版175枚  
印刷 平版オフセット印刷  
用紙 カラー写真・本文 マットコート110kg  
写真図版 マットコート135kg  
製本 アジロ綴

## 本文目次

第1章 はじめに	高尾	1
1 調査に至る経緯		
2 刊行組織		
3 環境		
第2章 東山古墳群3次調査	高尾	5
1. 調査の経過		
2. 調査		
3. 小結		
第3章 東山古墳群6次調査	高尾	17
1. 調査の経過		
2. 遺構と遺物		
3. 2区の調査		
4. 小結		
第4章 東山燕が森古墳群1次調査・2次調査、寄贈鉄製品	高尾	73
第5章 考察 愛媛県内出土の渡来系遺物	山之内	81
第6章 まとめ	高尾	131
附章 南中学校構内遺跡（1次調査）の調査	梅木	135

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡分布図(縮尺1/25,000).....	3
第2図 東山古墳群調査地位図(縮尺1/5,000).....	4
東山古墳群3次調査	
第3図 調査地位置図(縮尺1/500).....	8
第4図 遺構配置図(縮尺1/150).....	9
第5図 A T 1区遺構配置図・土層柱状図(縮尺1/20·1/80).....	10
第6図 A T 2区遺構配置図・土層柱状図(縮尺1/20·1/80).....	11
第7図 A T 3区遺構配置図・土層柱状図(縮尺1/20·1/80).....	12
第8図 A T 4・5区遺構配置図・土層柱状図(縮尺1/20·1/80).....	13
第9図 B T 3区遺構配置図・土層柱状図(縮尺1/20·1/80).....	14
第10図 B T 4・5区遺構配置図・土層柱状図(縮尺1/20·1/80).....	15
東山古墳群6次調査	
第11図 1区・2区遺構配置図(縮尺1/500).....	19
第12図 1区調査前地形測量図(1)(縮尺1/400).....	20
第13図 1区調査前地形測量図(2)(縮尺1/200).....	21
第14図 1区遺構配置図及び調査後地形測量図(縮尺1/200).....	22
第15図 24号墳石室測量図(縮尺1/40).....	24
第16図 24号墳石室展開図(縮尺1/40).....	25
第17図 24号墳上輪断面測量図(縮尺1/40).....	26
第18図 24号墳床面・遺物測量図(縮尺1/20).....	27
第19図 24号墳石室内出土遺物実測図(1)(縮尺1/3).....	28
第20図 24号墳石室内出土遺物実測図(2)(縮尺1/2).....	29
第21図 24号墳周溝内出土遺物実測図(縮尺1/2·1/3).....	30
第22図 25号墳床面・遺物測量図(縮尺1/20).....	31
第23図 25号墳展開図・出土遺物実測図(縮尺1/2·1/3·1/30).....	32
第24図 S K 101測量図・出土遺物実測図(縮尺1/2·1/20).....	33
第25図 S K 102測量図・出土遺物実測図(縮尺1/4·1/20).....	34
第26図 S K 103測量図・出土遺物実測図(縮尺1/2·1/20).....	35
第27図 S K 104測量図(縮尺1/20).....	36
第28図 S K 105測量図(縮尺1/20).....	37
第29図 S X 101測量図(縮尺1/100).....	38
第30図 S X 101出土遺物実測図(1)(縮尺1/3).....	39
第31図 S X 101出土遺物実測図(2)(縮尺1/3·1/4).....	41
第32図 S X 101出土遺物実測図(3)(縮尺1/3·1/4).....	42
第33図 S X 101川上遺物実測図(4)(縮尺1/3).....	43
第34図 S X 102測量図(縮尺1/80).....	44
第35図 2区調査前地形測量図(縮尺1/200).....	45

第36図	2区遺構配置図及び調査後地形測量図(縮尺1/200) .....	46
第37図	20号埴石室測量図・展開図(縮尺1/40) .....	47
第38図	20号埴床面・遺物測量図(縮尺1/20) .....	48
第39図	20号埴出土遺物実測図(縮尺1/2・1/3) .....	49
第40図	27号埴石室・周溝測量図(縮尺1/60) .....	50
第41図	27号埴石室展開図(縮尺1/40) .....	51
第42図	27号埴床面・出土遺物測量図(縮尺1/20) .....	52
第43図	27号埴石室・羨道部・周溝出土遺物実測図(縮尺1/2・1/3) .....	54
第44図	28号埴測量図・周溝内出土遺物実測図(縮尺1/3・1/40・1/100) .....	55
第45図	29号埴測量図・主体部出土遺物測量図(縮尺1/20・1/100) .....	56
第46図	29号埴主体部出土遺物実測図(縮尺1/3) .....	57
第47図	S K201測量図(縮尺1/40) .....	58
第48図	S D201測量図・出土遺物実測図(縮尺1/4・1/40) .....	59
第49図	S X201測量図(縮尺1/40) .....	59
第50図	S K202出土遺物実測図(縮尺1/3) .....	60
第51図	その他出土地点不明出土遺物実測図(縮尺1/2・1/3・1/4) .....	61
第52図	東山鷺が森古墳群1次・2次調査地遺構配置図(縮尺1/500) .....	73
第53図	東山鷺が森古墳群1次調査地1号墳・3号墳出土鉄製品実測図(縮尺1/2) .....	75
第54図	東山鷺が森古墳群1次調査地4号墳出土鉄製品実測図(縮尺1/2) .....	75
第55図	東山鷺が森古墳群1次調査地6号墳出土鉄製品実測図(縮尺1/2) .....	76
第56図	東山鷺が森古墳群2次調査地8号墳出土鉄製品実測図(縮尺1/2) .....	76
第57図	寄贈鉄製品実測図(1)(縮尺1/2) .....	77
第58図	寄贈鉄製品実測図(2)(縮尺1/2) .....	78
第59図	遺跡位置図(縮尺1/100,000) .....	82
第60図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(1)(縮尺1/3) .....	84
第61図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(2)(縮尺1/3) .....	85
第62図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(3)(縮尺1/3) .....	86
第63図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(4)(縮尺1/3) .....	88
第64図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(5)(縮尺1/3) .....	89
第65図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(6)(縮尺1/3) .....	90
第66図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(7)(縮尺1/3) .....	91
第67図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(8)(縮尺1/3) .....	92
第68図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(9)(縮尺1/3) .....	93
第69図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(10)(縮尺1/3) .....	94
第70図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(11)(縮尺1/3) .....	95
第71図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(12)(縮尺1/3) .....	96
第72図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(13)(縮尺1/3) .....	97
第73図	市場南組1号窓跡関連資料実測図(14)(縮尺1/3) .....	98

第74図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(15) (縮尺1/3).....	99
第75図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(16) (縮尺1/3).....	100
第76図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(17) (縮尺1/3) .....	101
第77図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(18) (縮尺1/3) .....	102
第78図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(19) (縮尺1/3) .....	103
第79図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(20) (縮尺1/3) .....	104
第80図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(21) (縮尺1/3) .....	105
第81図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(22) (縮尺1/3) .....	106
第82図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(23) (縮尺1/3) .....	107
第83図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(24) (縮尺1/3) .....	108
第84図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(25) (縮尺1/3) .....	109
第85図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(26) (縮尺1/3・1/4) .....	110
第86図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(27) (縮尺1/3) .....	111
第87図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(28) (縮尺1/3) .....	112
第88図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(29) (縮尺1/3) .....	113
第89図 東山古墳群調査地位置図(縮尺1/2,500).....	133
第90図 調査地位置図(縮尺1/2,000).....	135
第91図 出土遺物実測図(縮尺1/3・1/4).....	136

## 表 目 次

表 1 溝一覧
表 2 土坑一覧
表 3 性格不明遺構一覧
表 4 24号墳出土遺物觀察表 上製品
表 5 24号墳川上遺物觀察表 鉄製品
表 6 24号墳出土遺物觀察表 装身具
表 7 24号墳周溝内出土遺物觀察表 土製品
表 8 24号墳周溝内出土遺物觀察表 鉄製品
表 9 25号墳出土遺物觀察表 土製品
表10 25号墳出土遺物觀察表 装身具
表11 S K 101出土遺物觀察表 鉄製品
表12 S K 102出土遺物觀察表 土製品
表13 S K 103出土遺物觀察表 鉄製品
表14 S X 101出土遺物觀察表 土製品
表15 20号墳出土遺物觀察表 土製品
表16 20号墳出土遺物觀察表 装身具
表17 27号墳出土遺物觀察表 土製品
表18 27号墳出土遺物觀察表 鉄製品

- 表19 27号墳羨道部出土遺物観察表 土製品
- 表20 27号墳周溝内出土遺物観察表 土製品
- 表21 28号墳出土遺物観察表 土製品
- 表22 29号墳出土遺物観察表 鉄製品
- 表23 S D201出土遺物観察表 土製品
- 表24 S K202出土遺物観察表 土製品
- 表25 その他出土地点不明出土遺物観察表 土製品
- 表26 その他出土地点不明出土遺物観察表 鉄製品
- 表27 東山鳥が森古墳群1次調査地1号墳出土遺物観察表 鉄製品
- 表28 東山鳥が森古墳群1次調査地3号墳出土遺物観察表 鉄製品
- 表29 東山鳥が森古墳群1次調査地4号墳出土遺物観察表 鉄製品
- 表30 東山鳥が森古墳群1次調査地6号墳出土遺物観察表 鉄製品
- 表31 東山鳥が森古墳群2次調査地8号墳出土遺物観察表 鉄製品
- 表32 寄贈品遺物観察表 鉄製品
- 表33 松山平野の古墳時代朝鮮半島系遺物出土遺跡一覧
- 表34 東山古墳群古墳一覧表
- 表35 南中学校出土遺物観察表 土製品

## 写 真 図 版 目 次

- 巻頭図版1. 東山古墳群（南上空より）
- 巻頭図版2. 29号墳出土鉄鋸・鉄刀
- 図版1 1. 東山古墳群遠景（南西より）  
2. 3次調査地現況（南より）
- 図版2 1. A T 1区完掘状況（1）（西より）  
2. A T 1区完掘状況（2）（西より）
- 図版3 1. A T 2区完掘状況（1）（西より）  
2. A T 2区完掘状況（2）（北東より）
- 図版4 1. A T 3区完掘状況（西より）  
2. A T 4区・A T 5区東西ベルト上層状況（北より）
- 図版5 1. B T 3区完掘状況（北東より）  
2. B T 4区・B T 5区完掘状況（北東より）
- 図版6 1. 6次調査地1区現況（北より）  
2. 6次調査地2区現況（南東より）
- 図版7 1. 1区検出状況（北より）  
2. 1区完掘状況（北より）
- 図版8 1. 24号墳石室完掘状況（西より）
- 図版9 1. 24号墳石室・周溝完掘状況（北より）  
2. 24号墳床面検出状況（1）（東より）

- |      |   |   |
|------|---|---|
| 図版10 | 1. 24号墳床面検出状況（2）（東より）<br>2. 24号墳圍塁状況（1）（南より）      | 2. 2区完掘状況（西より）  |
| 図版11 | 1. 24号墳閉塞石除去後状況（東より）<br>2. 24号墳床面検出状況（東より）        | 図版19 1. 20号墳石室内遺物出土状況（南より）<br>2. 20号墳床面検出状況（南より）  |
| 図版12 | 1. 25号墳検出状況（奥）（東より）<br>2. 25号墳床面検出状況（西より）         | 図版20 1. 26号墳・27号墳・28号墳完掘状況（西より）<br>2. 27号墳完掘状況（西より）                                       |
| 図版13 | 1. 25号墳遺物出土状況（西より）<br>2. 25号墳床面検出状況（西より）          | 図版21 1. 27号墳周溝内遺物出土状況（東より）<br>2. 29号墳完掘状況（南より）  |
| 図版14 | 1. S K101・S K102完掘状況（北東より）<br>2. S K101完掘状況（北東より） | 図版22 1. 29号墳鉄鋸出土状況（西より）<br>2. 29号墳鉄刀出土状況（北より）   |
| 図版15 | 1. S K102完掘状況（北東より）<br>2. S K102遺物出土状況（北東より）      | 図版23 1. 24号墳主体部・周溝内（62）出土遺物   |
| 図版16 | 1. SX101・SX102完掘状況（北より）<br>2. SX101遺物出土状況（北より）    | 図版24 1. 25号墳（63～65）・SK102（67）・SK103（68, 69）・<br>SX101（70, 71, 99）出土遺物                     |
| 図版17 | 1. SX102完掘状況（1）（南より）<br>2. SX102完掘状況（2）（東より）      | 図版25 1. S X101出土遺物  |
| 図版18 | 1. 2区検出状況（西より）                                    | 図版26 1. 20号墳（123, 125, 126）・27号墳石室内（128, 130, 132～<br>136）・渠道部（137）・周溝内（139～141, 144）出土遺物 |
|      |   | 図版27 1. 29号墳出土遺物  |
|      |   | 図版28 1. 29号墳（147）・その他出土地点不明（169～173）出土遺物  |

#### 第4章 東山鷦が森古墳群1次・2次調査出土品・寄贈品

- |      |   |
|------|---|
| 図版29 | 1. 東山鷦が森古墳群1次調査地1号墳（1001）・3号墳（1002～1008）・4号墳（1009～1018）出土遺物 |
| 図版30 | 1. 東山鷦が森古墳群1次調査地6号墳（1019～1022）、2次調査地8号墳（1023～1032）出土遺物      |
| 図版31 | 1. 寄贈品（1）   |
| 図版32 | 1. 寄贈品（2）   |

#### 第5章 愛媛県内出土渡来系遺物

- |      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 写真1  | 高环（船ヶ谷遺跡4次調査地）                       |
| 写真2  | 高环（船ヶ谷遺跡4次調査地）                       |
| 写真3  | 壺A（船ヶ谷遺跡4次調査地）                       |
| 写真4  | 壺B（船ヶ谷遺跡4次調査地）                       |
| 写真5  | 壺C（上原古墳群V遺跡12号墳）愛媛県教育委員会蔵            |
| 写真6  | 壺D（船ヶ谷遺跡4次調査地）                       |
| 写真7  | 甕（船ヶ谷遺跡4次調査地）                        |
| 写真8  | 把手付鏡（船ヶ谷遺跡4次調査地）                     |
| 写真9  | 把手付碗（船ヶ谷遺跡4次調査地）                     |
| 写真10 | 甕（上原古墳群12号墳）愛媛県教育委員会蔵                |
| 写真11 | 陶質土器 長頸壺（松山市小野周辺）                    |
| 写真12 | 陶質土器 長頸壺（新倉村櫛の本山遺）（左）愛媛県歴史文化財調査センター蔵 |
| 写真13 | 陶質土器（伊予市猿谷2号墳封土内）愛媛県歴史文化博物館蔵         |
| 写真14 | 陶質土器 小型土器（船ヶ谷遺跡4次調査地）                |
| 写真15 | 陶質土器 壺环・短頸壺（朝倉村城ヶ谷古墳・朝倉村）朝倉村教育委員会蔵   |

- |      |  |
|------|--|
| 写真16 | 陶質土器 短頸壺（宇和町伊勢山大塚古墳）宇和町歴史民俗資料館蔵  |
| 写真17 | 陶質土器 壺环（宇和町伊勢山大塚古墳）個人蔵   |
| 写真18 | 陶質土器 台付長頸壺（宇和町伊勢山大塚古墳）宇和町歴史民俗資料館蔵  |
| 写真19 | 陶質土器 長頸壺（宇和町伊勢山大塚古墳）個人蔵  |
| 写真20 | 陶質土器 長頸壺（宇和町伊勢山大塚古墳）宇和町歴史民俗資料館蔵  |
| 写真21 | 陶質土器 扇形壺（川内町別所、下土壙原古墳群9号墳）<br>（左）川内町教育委員会蔵、（右）愛媛県教育委員会蔵                              |
| 写真22 | 陶質土器 壺（宇和町岩木）個人蔵   |
| 写真23 | 陶質土器 壺（底部）   |
| 写真24 | 朝鮮系統質土器（船ヶ谷遺跡4次調査地）  |
| 写真25 | 朝鮮系統質土器（船ヶ谷遺跡4次調査地）  |
| 写真26 | 算盤玉形鋏鍤車<br>(手前) 瓢・谷2号墳封土内・(左)伊予市片山・太原丸遺跡・(右)佐田遺跡<br>(手前)愛媛県歴史文化博物館蔵・(左)伊予市教育委員会蔵・(右) |

## 第1章 はじめに

### 1 調査に至る経緯

平成元年と平成4年に松山市東石井町に所在する星岡公園（通称、東山）の整備事業に伴う埋蔵文化財の確認願いが松山市公園緑地課より松山市教育委員会文化教育課（以下、文化財課）に提出された。

申請地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の「東山繩文・弥生遺物包蔵地 東山古墳群」内にあり、周知の遺跡として知られている。

また、包蔵地内では東山窓が森古墳群1次・2次調査と東山古墳群4次・5次調査の4度の調査が実施され21基の古墳が調査されている（西尾1978・田城1994）。よって文化財課では、現地踏査を実施した。その結果、申請地には古墳の存在が認められた。

現地踏査の結果を受け、文化教育課と公園緑地課ならびに（財）松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターの3者は遺跡の取り扱いについて協議を行い申請地内の本格調査を実施することとなった。調査期間と担当者を記しておく。

東山古墳群3次調査 面積 500m<sup>2</sup> 平成元年10月26日～ 同年11月20日 松村淳

東山古墳群6次調査 面積1,100m<sup>2</sup> 平成4年11月1日～平成5年3月31日 田城武志・高尾和長

### 2 刊行組織（平成16年3月31日現在）

松山市教育委員会	教育長	中矢陽三
事務局	局長	武井正浩
	企画官	遠藤宗敏
	企画官	石丸修
文化財課	課長	八木方人
(財) 松山市生涯学習振興財團	理事長	中村時広
	事務局長	三宅泰生
	事務局次長	菅嘉見
埋蔵文化財センター	所長	杉田久憲
	専門監兼学芸係長	高本昌陽
	次長兼調査係長	西尾幸則
	担当	高尾和長
		大西朋子

### 3 環境

#### 1) 遺跡の立地

松山平野は、愛媛県のほぼ中央に位置する県下最大の平野であり、高縄山に源を発した河川により形成された沖積平野である。東山古墳群はこの平野の中央に位置する。調査地は、松山平野を西流する小野川がS字状に蛇行した左岸に位置し、低い分離独立丘陵内にある。この、小野川を挟んだ東岸に畠岡丘陵、南側に天山丘陵が所在し、この三つの丘陵を古来より「伊予三山」と呼称している。周辺の主要な遺跡としては、北東部に福音小学校構内遺跡、筋違遺跡、東部に来住廃寺、久米高畠遺跡、西部に東石井遺跡、西石井遺跡がある。

#### 2) 歴史的環境

近年の発掘調査によって、当遺跡周辺には数多くの遺跡が存在していることが明らかとなった。ここでは、調査地周辺の遺跡の展開を時代順に概説していく。

##### 旧石器時代～縄文時代

遺物は、東山鷲が森古墳群でサスカイト製ナイフ型石器1点、天山天王が森遺跡で安産岩製ナイフ型石器1点、釜ノ口遺跡でチャート製ナイフ型石器1点と尖頭器1点が出土している。遺構は検出していない。

##### 弥生時代

前期の遺跡は、筋違F遺跡の上坑内より上器片が出土している。石井東小学校構内遺跡からは、長方形の土壙墓と大型の壺棺墓や木葉文が施された壺型土器が出土している。

中期の遺跡は、福音小学校構内遺跡から竪穴式住居址と土坑を検出している。久米高畠遺跡23次調査地・25次調査地では弥生前期末～中期初頭の大溝が2条並列で確認されており環壕集落の可能性が指摘されている。

後期の遺跡は、釜ノ口遺跡から竪穴式住居址・土坑・溝が検出されている。とくに、釜ノ口遺跡7次調査地からは4棟の竪穴式住居址の炉内からガラス小玉が1点ずつ出土した。その中の1棟SB1は焼失住居であり祭祀的行為が行われたと推測されている。また、釜ノ口遺跡8次調査地では、溝内より破鏡が出土し集落の中心的な位置をしめていたことが明らかになっている。東山の西の地域には、東石井遺跡、西石井遺跡、西石井荒神堂遺跡があり竪穴式住居址・溝などの集落に隣接する遺構を検出している。とくに、西石井遺跡で検出した溝からは、多量の土器が出土している。

##### 古墳時代

集落では、北久米淨蓮寺遺跡から竪穴式住居址、掘立柱建物址、筋違A～C・E～H・K遺跡から竪穴式住居址、福音小学校構内遺跡からは、100棟以上の竪穴式住居址と掘立柱建物址が検出されている。

古墳では、天山、東山、星岡の分離独立丘陵上に数多くの古墳が点在している。なかでも天山神社北古墳からは半円方形帶神獸鏡や鉄剣が出土し、天山天王が森遺跡からは三角縁神獸鏡が出土している。

## 古代

東山の東部に位置する来住台地には、全国的に注目されている久米官衙遺跡群があり7世紀における重要施設が集中する政治の中心地があった可能性が考えられる。同時に白鳳期の寺院である来住廃寺についてもその全容解明に向けて調査が行われている。

## 中世

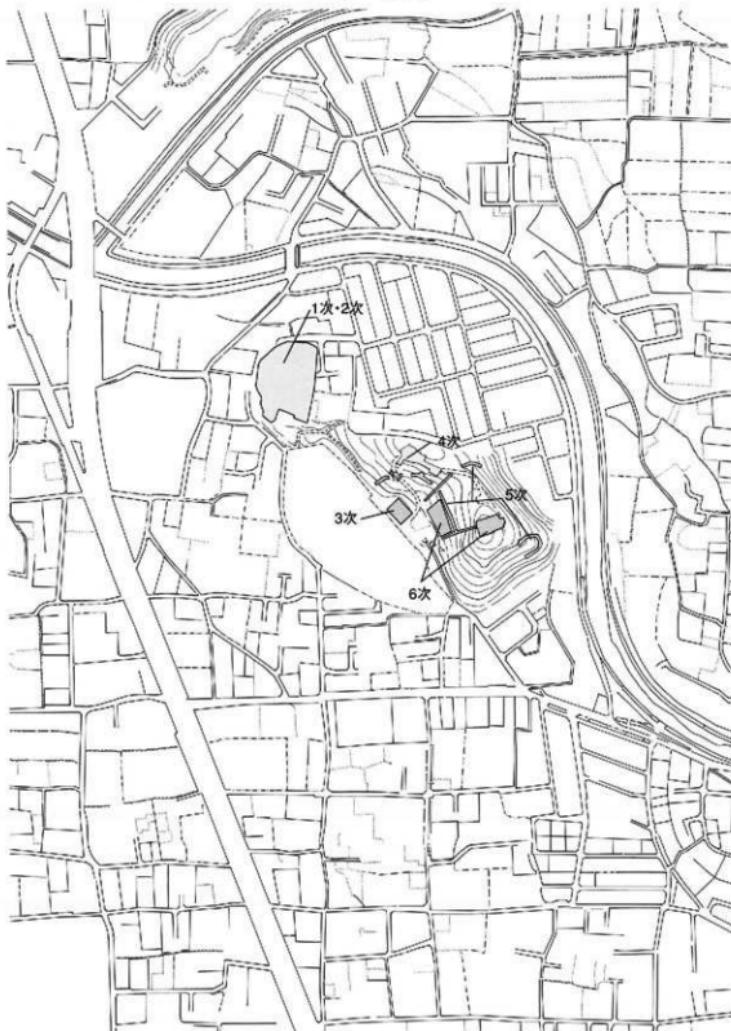
中世では、文献によると南北朝時代の「星岡合戦」に東山において合戦があったことが記載されている。遺構では、米住廃寺21次調査地の大規模な総柱建物群と来住廃寺15次調査地の土塙墓群が検出されている。



## 参考文献

西尾幸則	1981	松山市文化財調査報告書15	河野史知ほか	1998	松山市文化財調査報告書67
田城武志	1994	松山市文化財調査報告書41	橋本雄一ほか	1994	松山市文化財調査報告書42
山之内志郎ほか	2001	松山市文化財調査報告書84	水本光兄ほか	2003	松山市埋蔵文化財調査年報15
樺木謙一ほか	1995	松山市文化財調査報告書50	相原秀仁ほか	2003	松山市埋蔵文化財調査年報15
樺木謙一ほか	1996	松山市文化財調査報告書52			

遺跡の概要



東山古墳群の調査

遺跡名

東山鷺が森古墳群

東山鷺が森古墳群2次調査

東山古墳群3次調査

東山古墳群4次調査

東山古墳群5次調査

東山古墳群6次調査

調査期間

昭和53年9月18日～同年12月19日

昭和54年7月23日～同年8月30日

平成元年10月26日～同年11月20日

平成2年12月23日～平成3年3月31日

平成3年12月26日～平成4年3月31日

平成4年11月1日～平成5年3月31日

調査担当

西尾幸則 松山市文化財調査報告書15

西尾幸則 松山市文化財調査報告書15

松村 淳 松山市文化財調査報告書97

田城武志 松山市文化財調査報告書41

田城武志 松山市文化財調査報告書41

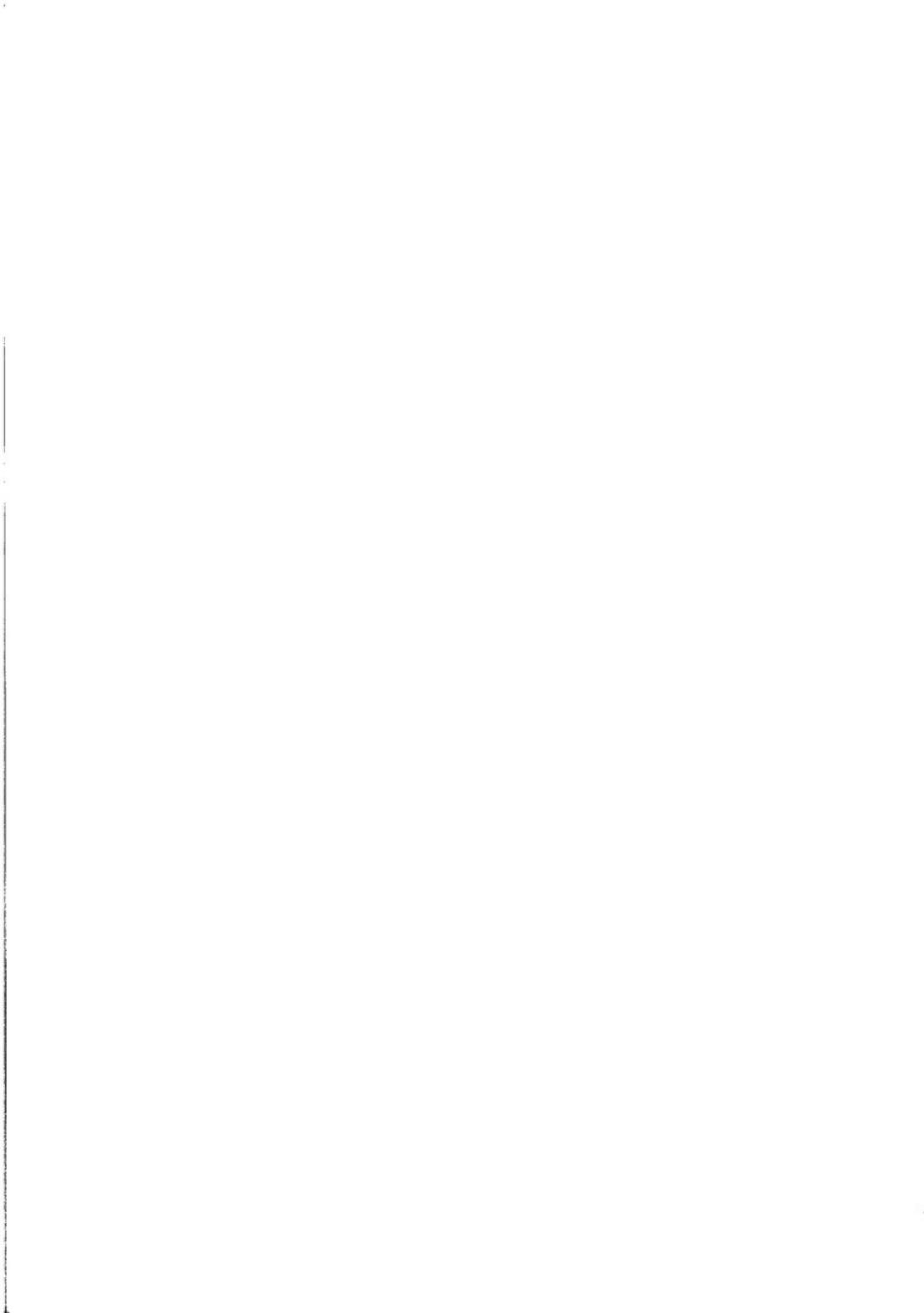
田城武志 松山市文化財調査報告書97

報告書シリーズ番号

第2図 東山古墳群調査地位置図 (S=1:5,000)

# 東山古墳群

—3次調査—



## 第2章 東山古墳群3次調査

### 1. 調査の経過

調査は、公園整備に伴う事前調査である。調査地は、東山丘陵西側の裾部にあたり緩やかな斜面を呈し、中央部には農道が通る。調査区は農道を挟み北側に東より A T 1 ~ A T 5、南側に B T 1 ~ B T 5 とそれぞれ 5 カ所の調査区を設定し掘削を行った。掘削後調査区内の精査を行い、遺構の検出を行った。遺構の範囲確認が不十分の調査区 A T 4、A T 5、B T 3、B T 4、B T 5 については拡張を行った。

### 2. 調査

#### (1) A T 1 区の調査

A T 1 区は、調査地の南東部に位置し、幅 1 m、長さ 10.70 m の調査区である。

##### 1) 土層

土層は、1 層で褐色の耕作土（腐植土）で部分的に暗褐色土がブロック状に混じる。南側裾部は近代に掘削が行われたと思われ真砂土が覆う。検出遺構は柱穴 2 基、性格不明遺構 1 基、溝状遺構 1 条である。

##### 2) 遺構と遺物

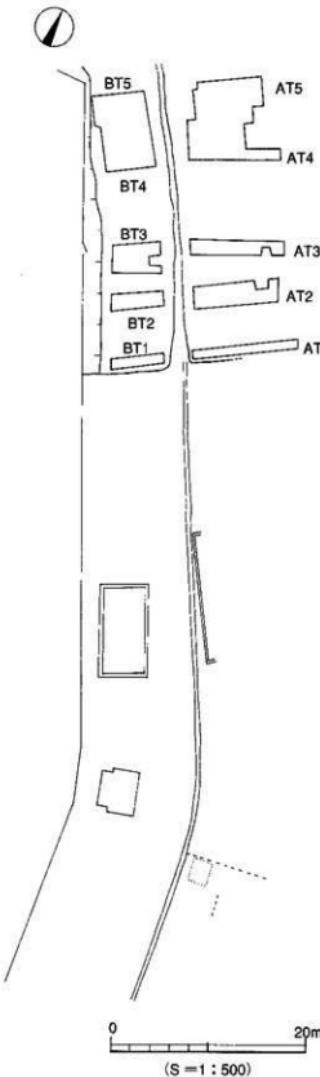
###### ① 溝（S D）

S D 1 は、調査区の中央西壁から南壁に検出した。規模は検出長 5.8 m、幅 50 cm、深さ 40 cm を測る。断面形態は「U」字状である。埋土は暗褐色土である。出土遺物は 10~20 cm の川原石が溝全体より出土した。



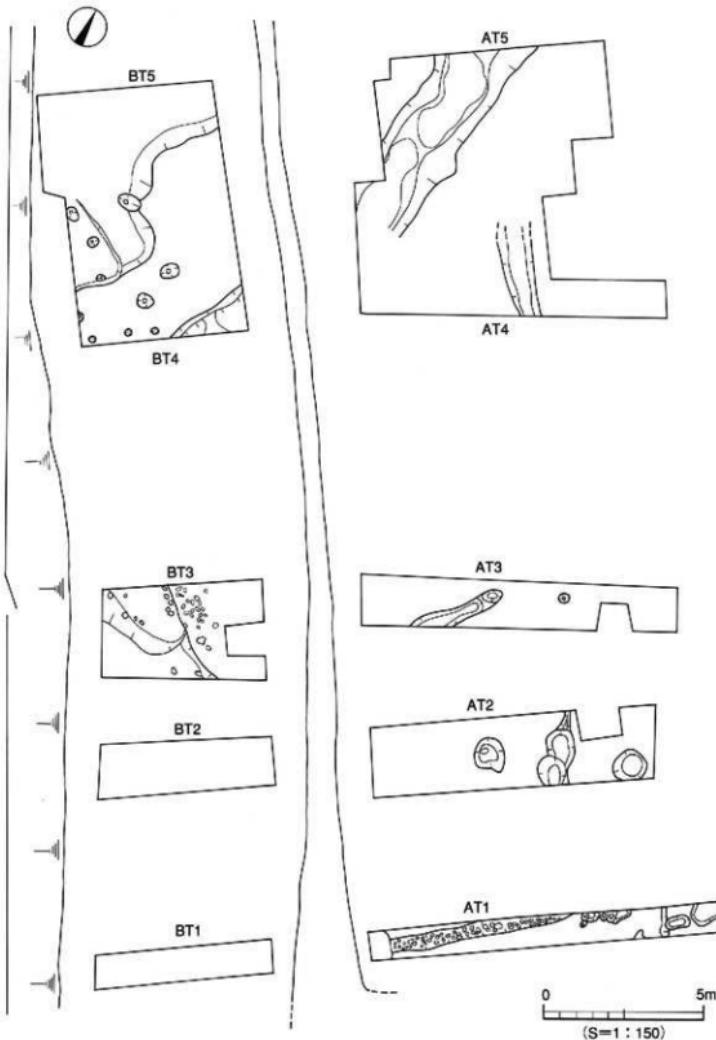
3次調査地現況

東山古墳群 3次調査



第3図 調査地位置図

遺構と遺物



第4図 遺構配置図

## ②柱穴 (S P)

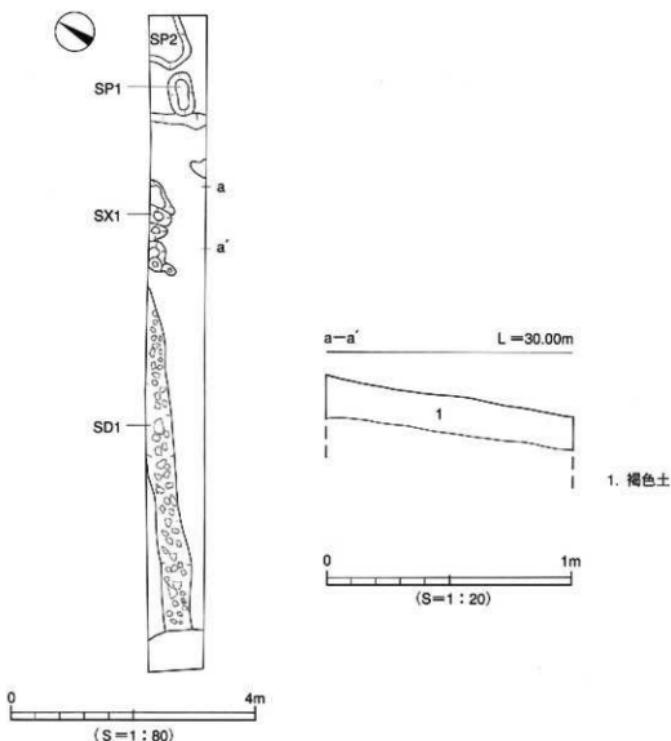
柱穴は東側より2基を検出した。

S P 1 の平面形態は楕円形である。規模は長軸60cm、短軸40cm、深さ6cmを測る。断面形態「U」字状である。埋土は暗褐色土である。

S P 2 は東側が調査区外につづく。平面形態は検出部分から楕円形と思われる。規模は検出長軸60cm、短軸50cm、深さ13cmを測る。断面形態は「U」字状である。出土遺物はS P 1、S P 2共にない。

## ③性格不明遺構 (S X)

S X 1 は調査区の中央東に位置し北側は調査区外につづく。平面形態は円形の柱穴が東西方向に集中する不整形な形状を呈する。規模は検出長160cm、幅40cm、深さ32cmを測る。床面は凹凸している。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。



第5図 AT1区遺構配置図・土層柱状図

## (2) AT2区の調査

AT2区は、調査地の東部に位置し、幅2.7m、長さ8.7mの調査区である。

1) 土層は2層に分層できる。1層褐色の耕作土(腐植土)、2層黄白色土である。検出遺構は柱穴4基である。

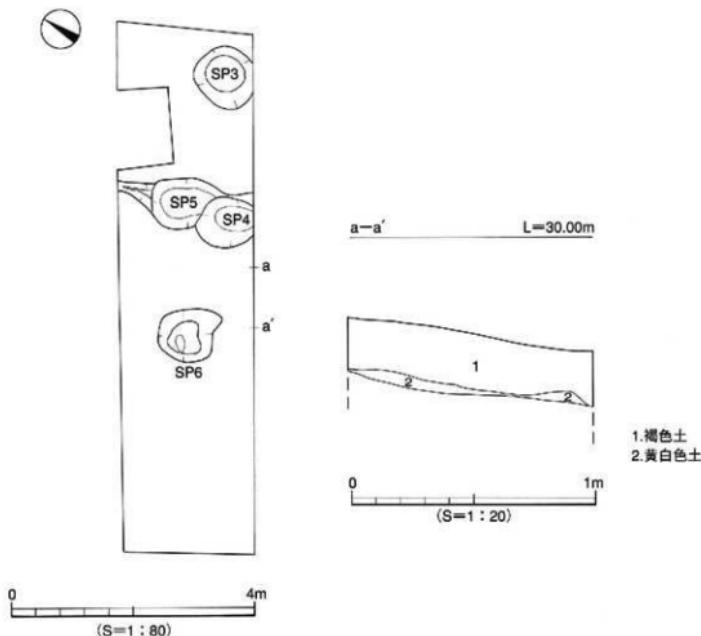
## 2) 遺構と遺物

①柱穴(SP3) SP3は調査区の東部に位置する。平面形態は円形である。規模は径100cm、深さ24cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。

SP4は調査区東部にありSP5を切る。南側は調査区外に続く。平面形態は梢円形である。規模は検出長100cm、深さ32cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。

SP5は調査区の東部に位置しSP4に切られる。平面形態は梢円形である。規模は検出長100cm、幅90cm、深さ9cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。

SP6は調査区の中央部に位置する。平面形態は一部南側が張り出す不整形な形態である。規模は長さ100cm、幅80cm、深さ21cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。



第6図 AT2区遺構配置図・土層柱状図

## (2) AT2区の調査

AT2区は、調査地の東部に位置し、幅2.7m、長さ8.7mの調査区である。

1) 土層は2層に分層できる。1層褐色の耕作土(腐植土)、2層黄白色土である。検出遺構は柱穴4基である。

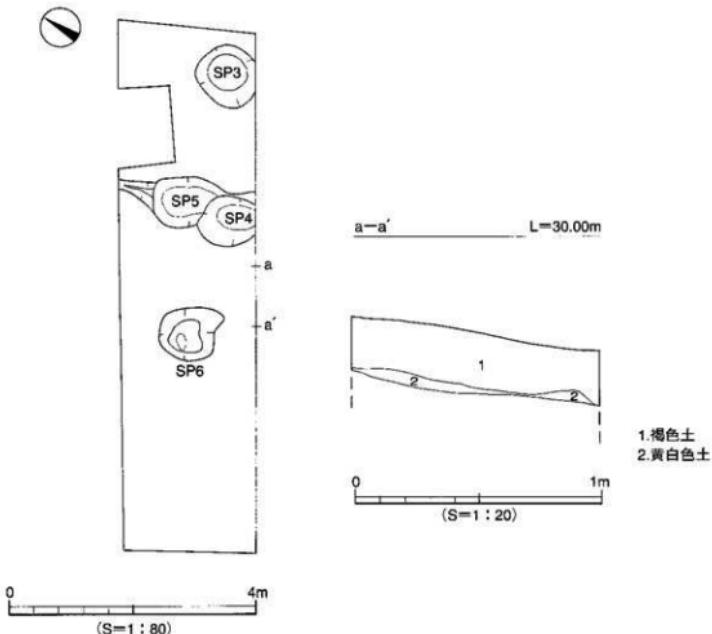
## 2) 遺構と遺物

①柱穴(SP3) SP3は調査区の東部に位置する。平面形態は円形である。規模は径100cm、深さ24cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。

SP4は調査区東部にありSP5を切る。南側は調査区外に続く。平面形態は椭円形である。規模は検出長100cm、深さ32cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。

SP5は調査区の東部に位置しSP4に切られる。平面形態は椭円形である。規模は検出長100cm、幅90cm、深さ9cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。

SP6は調査区の中央部に位置する。平面形態は一部南側が張り出す不整形な形態である。規模は長さ100cm、幅80cm、深さ21cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。



第6図 AT2区遺構配置図・土層柱状図

## (3) AT3区の調査

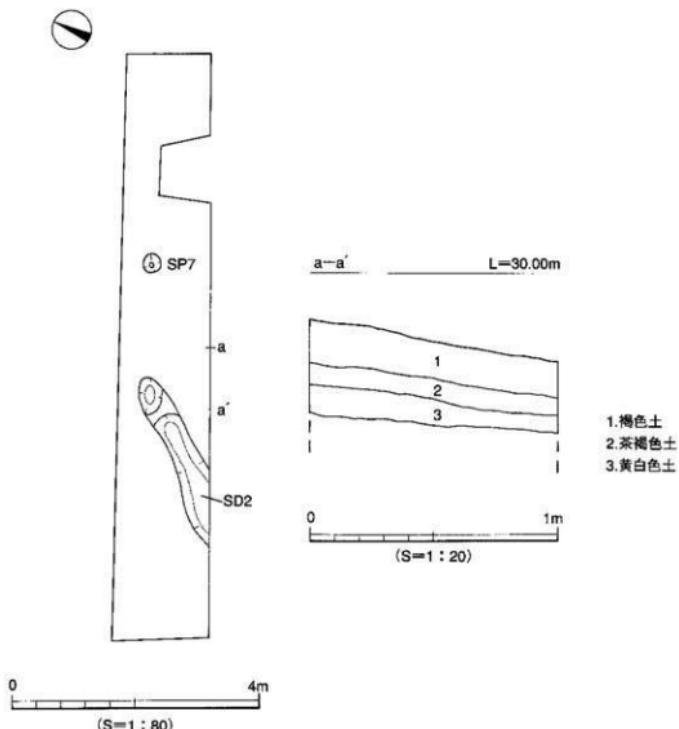
AT3区は調査地の東側に位置し幅1.6m、長さ9.6mの調査区である。

1) 土層 上層は3層に分層できる。1層褐色土(耕作土・腐葉土)、2層茶褐色土、3層黄白色土(地山)である。遺構は3層上面で溝1条、柱穴1基を検出した。

## 2) 遺構と遺物

①溝(SD2) SD2は調査区の西部に位置し、南側は調査区外に続く。規模は検出長3.2m、幅50cm、cm、深さ15cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。

②柱穴(SP7) SP7は調査区の中央部に位置する。平面形態は円形である。規模は径30cm、深さ15cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。

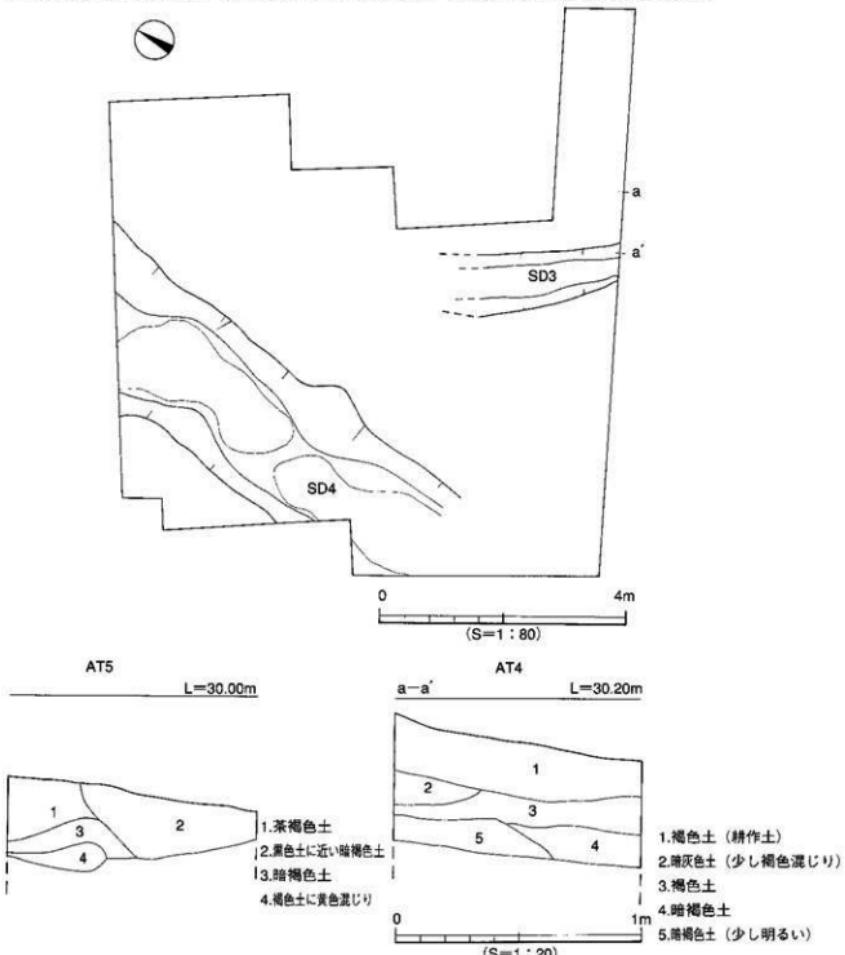


第7図 AT3区遺構配置図・土層柱状図

## (4) AT4区・AT5区の調査

AT4・AT5は掘削時は別々に調査区を設定していたが、古墳の周溝が確認されたため、両区をつなぐ形で掘削を行った。調査区は調査地の北部に位置し、約8m×8mを測る。東壁と西壁は凹凸がある不整形な調査区となった。

1) 土層 土層は5層に分層できる。1層褐色土(耕作土)、2層暗灰色土(褐色混じり)、3層褐色土、4層暗褐色土、5層暗褐色土(少し明るい)である。検出遺構は溝2条である。



第8図 AT4・5区遺構配置図・土層柱状図

## 2) 遺構と遺物

①溝(S D) SD 3は調査区の南東部に位置し、南側は調査区外に北側は削平を受けている。規模は検出長2.5m、最大幅1.0mを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。

SD 4は調査区の東側に位置し、北側と南側は調査区外に続く。規模は検出長7.5m、最大幅2.5m深さ35cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒色土に近い暗褐色土である。出土遺物はない。

## (5) BT 1区の調査

BT 1区は調査地の南部に位置し幅1.0m、長さ5.5mの調査区である。

1) 上層 上層は1層で造成土(真砂上)である。遺構・遺物ともに出土していない。

## (6) BT 2区の調査

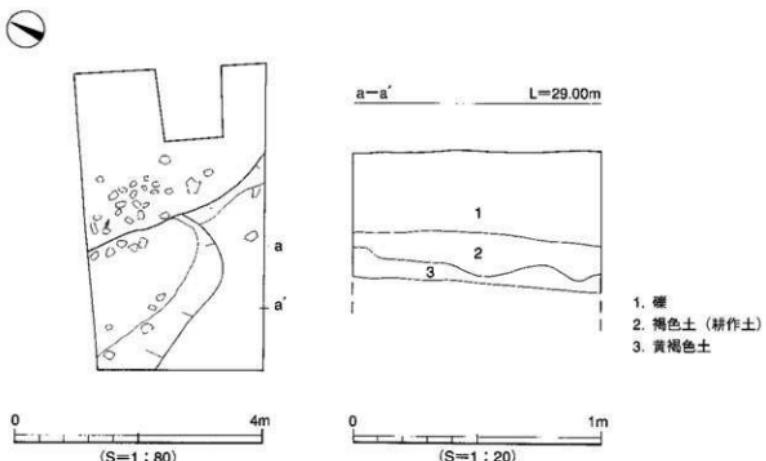
BT 2区は調査地の南部に位置し幅1.5m、長さ5.5mの調査区である。

1) 上層 上層は1層で造成土(真砂上)である。遺構・遺物ともに出土していない。

## (7) BT 3区の調査

BT 3区は調査地の西部に位置し、幅3.2m、長さ5.0mを測る。

1) 土層 土層は3層に分層でき、1層疊、2層褐色土(耕作土)、3層黄褐色土である。遺構は断落ちの地形の変換点を検出した。遺物は疊石と土師器、弥生土器片が出土した。

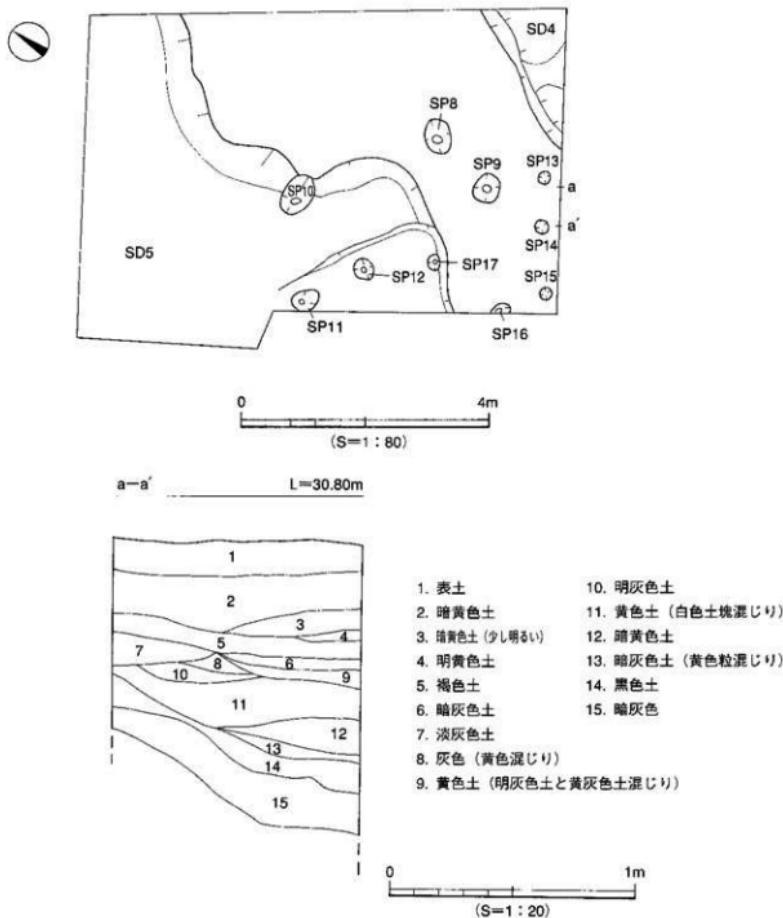


第9図 BT 3区遺構配置図・土層柱状図

## (8) BT4・BT5区の調査

BT4区・BT5区は掘削時は別々に調査区を設定していたが、古墳の版築を確認したため、両区をつなぐ形で掘削を行った。調査区は調査地の北西部に位置し、 $5.5m \times 8.0m$ を測る。

1) 土層 土層は15層に分層でき1層表土、2層暗黄色土、3層暗灰色土（少し明るい）、4層明黄色土、5層褐色土、6層暗灰色土、7層淡灰色土、8層灰色土（黄色混じり）、9層黄色土（明灰色土と黄灰色土混じり）、10層明灰色土、11層黄色土（白色上塊混じり）、12層暗黄色土、13層暗灰色土（黄色粒混じり）、14層黒色土、15層暗灰色土である。遺構は古墳の填丘盛土と周溝と思われる地形の落ちと柱穴10基を検出した。



第10図 BT4・5区遺構配置図・土層柱状図

## 2) 遺構と遺物

①溝（S D） S D 5は調査区の西側に位置し、南側が屈曲する。規模は長さ6.5m、幅4.2mの周溝一部を検出した。断面形状は床面が緩やかに窪む形状である。遺物は出土していない。

S D 4は調査区の東部に位置し西側の方の一部を検出した。規模は長さ2.7m、幅1.2mを測る。S D 4は検出した位置関係からA T 4・5区からつづく溝と思われ総検出長は15mを測る。

②柱穴（S P） S P 8は調査区の中央部に位置する。平面形態は円形で規模は、径70cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

S P 9は調査区の中央部に位置する。平面形態は円形である。規模は径51cm、深さ12cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

S P 10は調査区の中央部に位置する。平面形態は円形である。規模は径65cmを測る。埋土は暗褐色土である。出土遺物はない。

S P 11は調査区の西部に位置する。平面形態は円形である。規模は径38cm、深さ18cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

S P 12は調査区の西部に位置する。平面形態は円形である。規模は径32cm、深さ14cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

S P 13は調査区の南部に位置する。平面形態は円形である。規模は径18cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

S P 14は調査区の南部に位置する。平面形態は円形である。規模は径26cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

S P 15は調査区の南部に位置する。平面形態は円形である。規模は径17cm、深さ10cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

S P 16は調査区の南部に位置し西側は調査区外に統く。平面形態は残存部から円形と考える。規模は径36cm、深さ16cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

S P 17は調査区の南部に位置する。平面形態は円形である。規模は径31cm、深さ13cmを測る。埋土は暗褐色土である。遺物は出土していない。

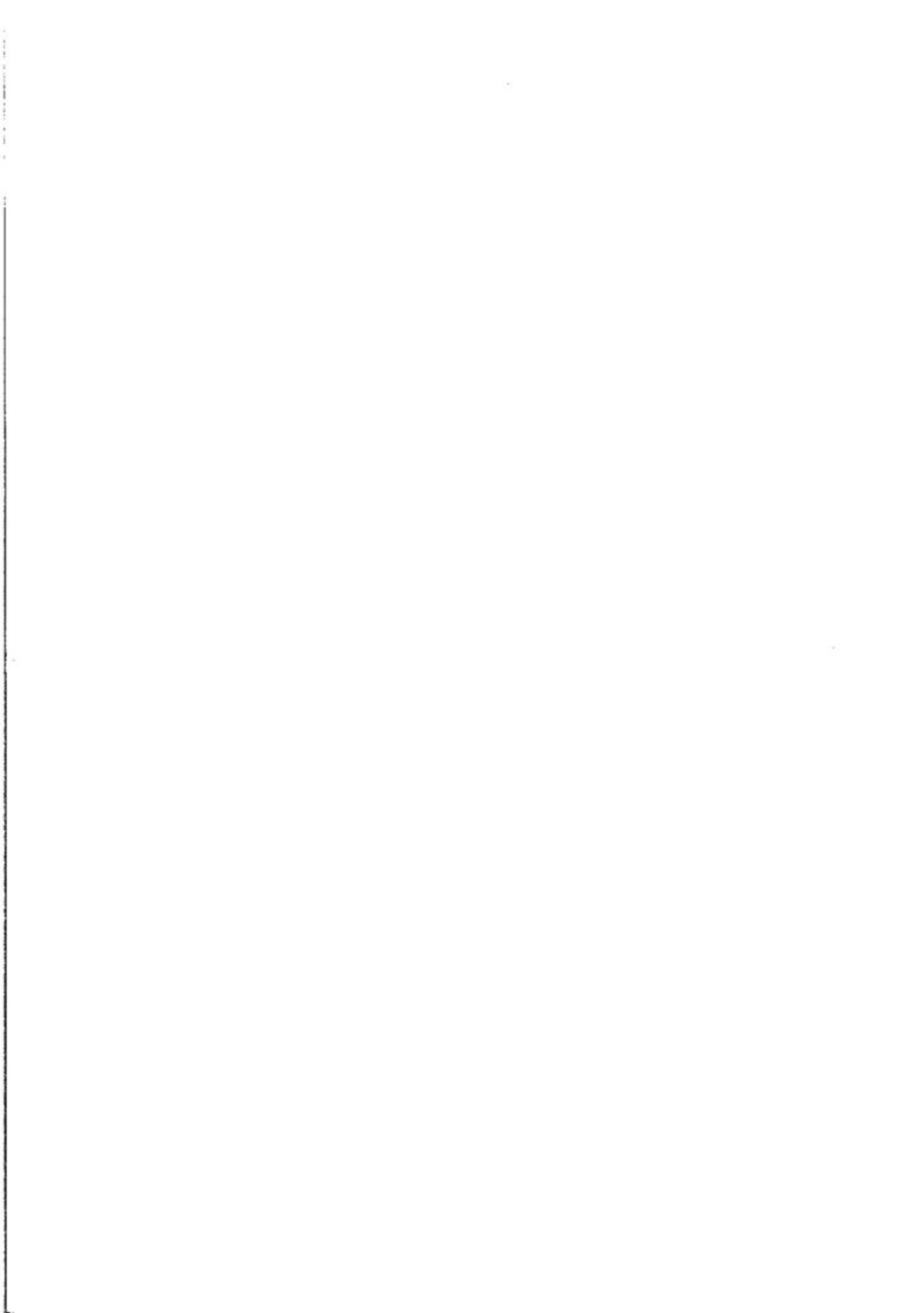
## 3. 小結

本調査地からは、溝5条、柱穴17基、性格不明遺構1基を検出した。

本調査地内からは古墳本体は検出されなかったが、B T 5区から周溝と古墳を構築した版築状の七層を検出し、版築土層の下層より柱穴を検出した。このことから、調査地内において古墳構築以前に生活が行われていたことを示し、また、周溝と古墳の版築を検出したことにより、東山古墳群の丘陵西端部に古墳が広がることが判明した。

# 東山古墳群

— 6 次 調査 —



## 第3章 東山古墳群6次調査

### 1. 調査の経過

#### (1) 調査の経緯

1992(平成4)年11月1日、調査区を設定し頂上部を1区、西斜面を2区として調査前の地形測量を行う。1区の排土置き場を設定し安全対策の為、杭と板で調査区内を囲う。調査は1区より重機による表土掘削を行なった。遺構検出作業の結果、1区からは古墳の石室2基、土坑5基、性格不明遺構2基を検出した。2区からは、古墳の周溝と石室2基、土坑2基、溝1条、性格不明遺構1基を検出す。1区・2区の遺構掘り下げ、遺構測量、写真撮影、遺物の取り上げ後、遺構完掘状況の写真撮影を行い調査を終了する。

#### (2) 調査組織

調査地 松山市東石井乙39-2外

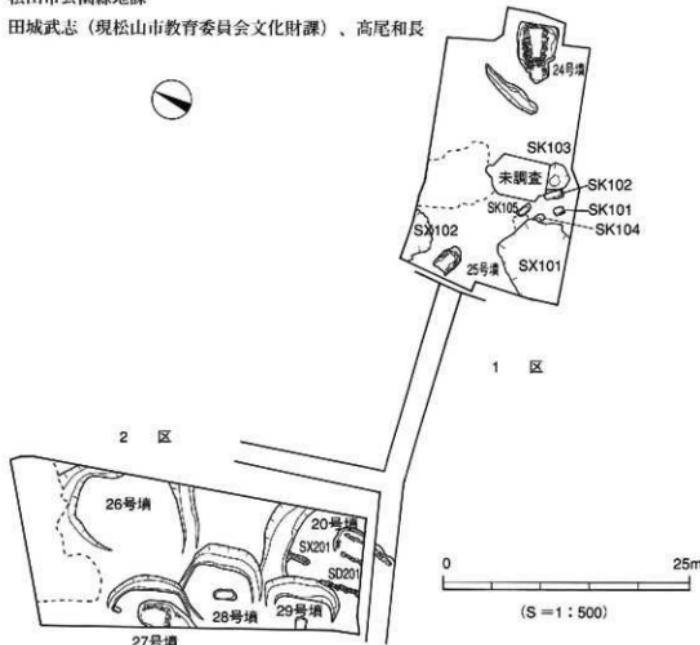
遺跡名 東山古墳群6次調査

調査期間 1992(平成4)年11月1日～1993(平成5)年3月31日

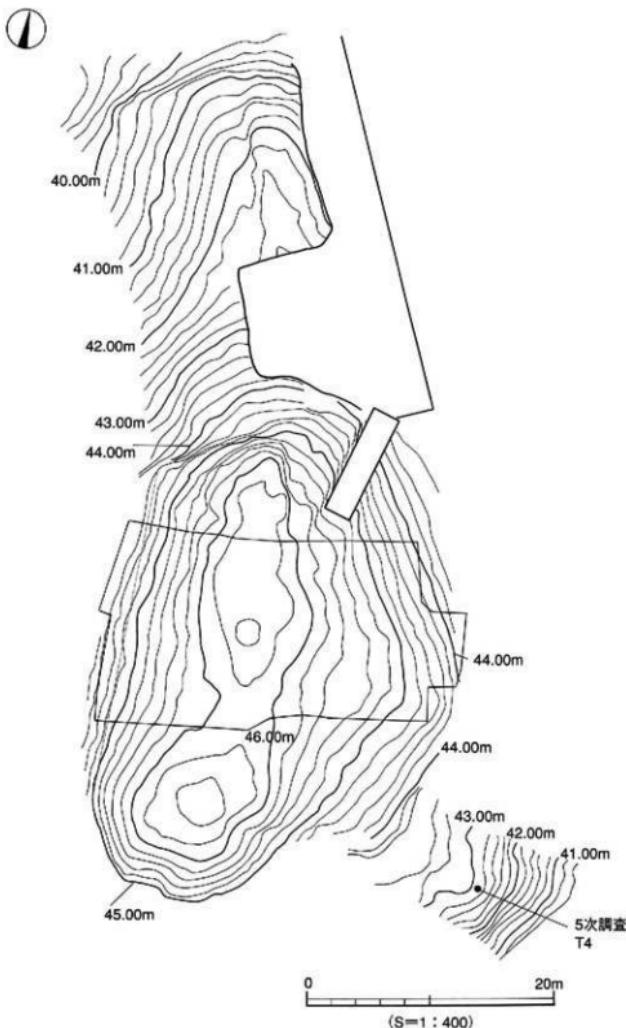
調査面積 1,100m<sup>2</sup>

調査委託 松山市公園緑地課

調査担当 田城武志(現松山市教育委員会文化財課)、高尾和長

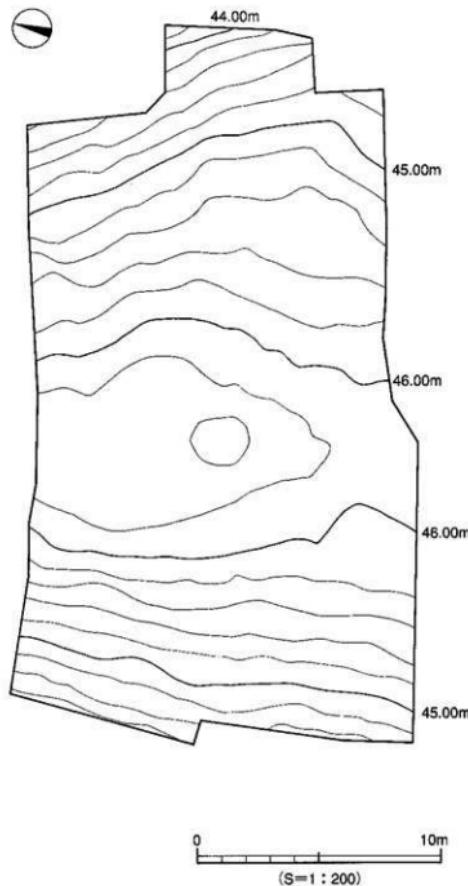


第11図 1区・2区遺構配置図

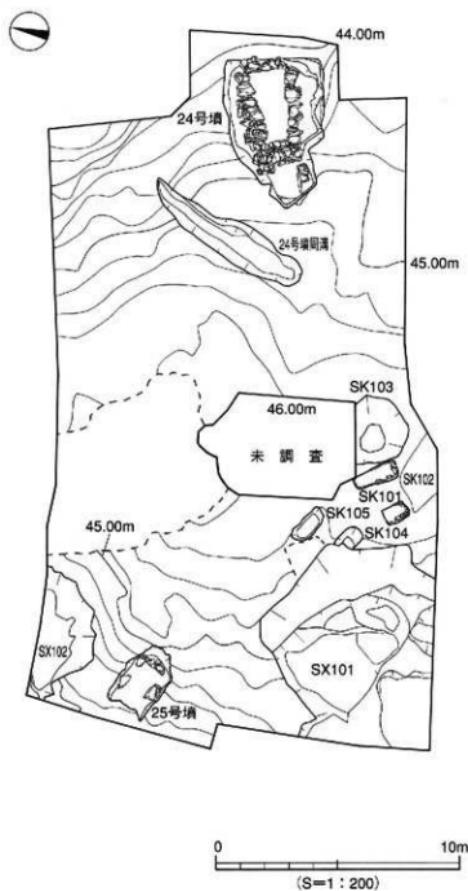


第12図 1区調査前地形測量図 (1)

遺構と遺物



第13図 1区調査前地形測量図 (2)



第14図 1区遺構配置図及び調査後地形測量図

## 2. 遺構と遺物

### (1) 1区の調査

1区からは、弥生時代から中世の遺構と遺物を検出した。検出した遺構は、土坑5基、古墳2基、性格不明遺構2基である。ここでは、調査地が東山古墳群内であるため古墳時代の遺構概説を初めに行うこととする。

#### 1) 古墳時代

遺構は古墳2基を検出した。

##### 1) 24号墳(第15~18図、図版8~11)

調査は現状の地形測量と肉眼観察からは、古墳の存在は確認できなかったため重機による表土掘削を行ったところ、表土掘削時に古墳の石材を検出したため、周辺は人力での掘削作業に切り替えて遺構検出を行った。検出遺構は石室と周溝である。

24号墳は、調査区の東側に位置し、丘陵頂上より尾根に直行する東側に1.0m~2.4m下がった位置に検出した。墳形は墳丘盛り土がすべて削平されているため明確ではないが、一部検出した周溝から判断すると直径10mを測る円墳と考えられる。石室は西側に開口し地形の高い方向に開口していることになる。石室上部は削平されており奥壁と右側壁は2段、左側壁は3段が残存している。袖はなく無袖である。石室掘方の平面形態は羽子板状である。奥壁、左側壁、玄門部側は、ほぼ垂直に掘り下げる。右側壁はなだらかに段を持って掘り下げている。また、羨道部は、階段状に掘り下げを行っている。一見竪穴状の石室を思わせる。閉塞は階段状に掘り廻めた所で行われている。樋は3個の石材を並べている。石室規模は、玄室長3.21m、奥壁幅1.36mを測る。天井石は既になく残存高は、奥壁45cm、東壁56cm、西壁44cm以下が残存しているに過ぎない。石室使用の石材は、敷地内にある花崗岩を横積みにしている。右側壁は直立し遺存状況は良いが左側壁は玄室中央に向かってせり出し「く」の字状に大きく内傾しており遺存状況が良くない。玄室床面は、最下部にやや扁平な人頭人の角礫を敷く、中央部から右側壁部にかけて検出されない部分がある。つづいて拳人の円礫を長軸方向の中心とした部分にまばらに敷いている。玄室入り口部分が多い。周溝は、石室の西側に検出した。規模は、検出長7.0m、幅1.6mを測る。出土遺物は須恵器の坏身、高坏、壺が出土している。

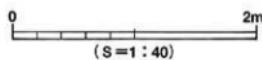
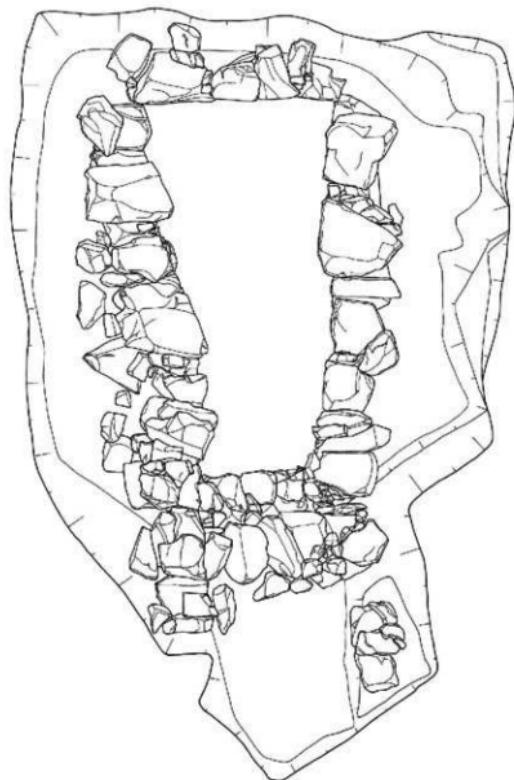
石室内遺物出土状況 遺物は、須恵器、鉄製品、ガラス小玉、管玉、勾玉が出土した。

須恵器は、坏身のほぼ完形品1点が玄門左から出土した。他の須恵器は小片が多数を占め中央部に散在した状態で出土した。鉄製品は、玄門左の坏身の横から2点、奥壁左から2点、中央部の左から1点が出土した。ガラス小玉と管玉は、右奥から出土した。勾玉は中央左から出土した。

##### 出土遺物(第19~20図、図版23)

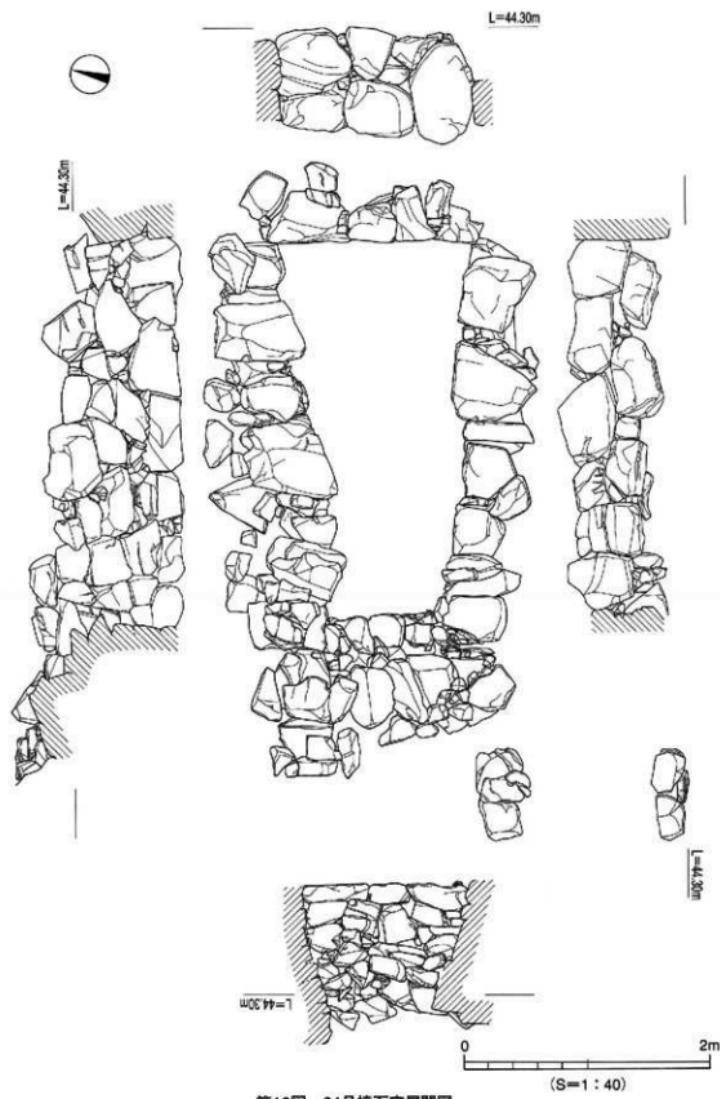
坏益(1・2)1は口径12.7cmを測る。天井部に回転ヘラ削りが施される。口縁部と天井部を分ける稜は見られず、口端部は丸く仕上げられている。2は口径14.8cmを測り、口端部は尖り気味に丸く、天井部に回転ヘラ削り、その他には横ナデ調整が施されている。

坏身(3~5)3は口径12.7cm、器高4.0cmを測る。短く伸びる受部に内傾する立ち上がりをもち、端部は丸い。調整は底部に回転ヘラ削り、その他にナデが行なわれている。4は口径12.4cm、器高4.0cmを測る。短く水平に伸びる受部に、内傾する立ち上がりの端部は丸い。5は口径12.9cm、器高4.3cmを測る。扁平な底部、水平気味に短く伸びる受部とやや内傾する立ち上がりをもつ。口縁部と受部の両端部はともに尖り気味に丸く仕上げられている。



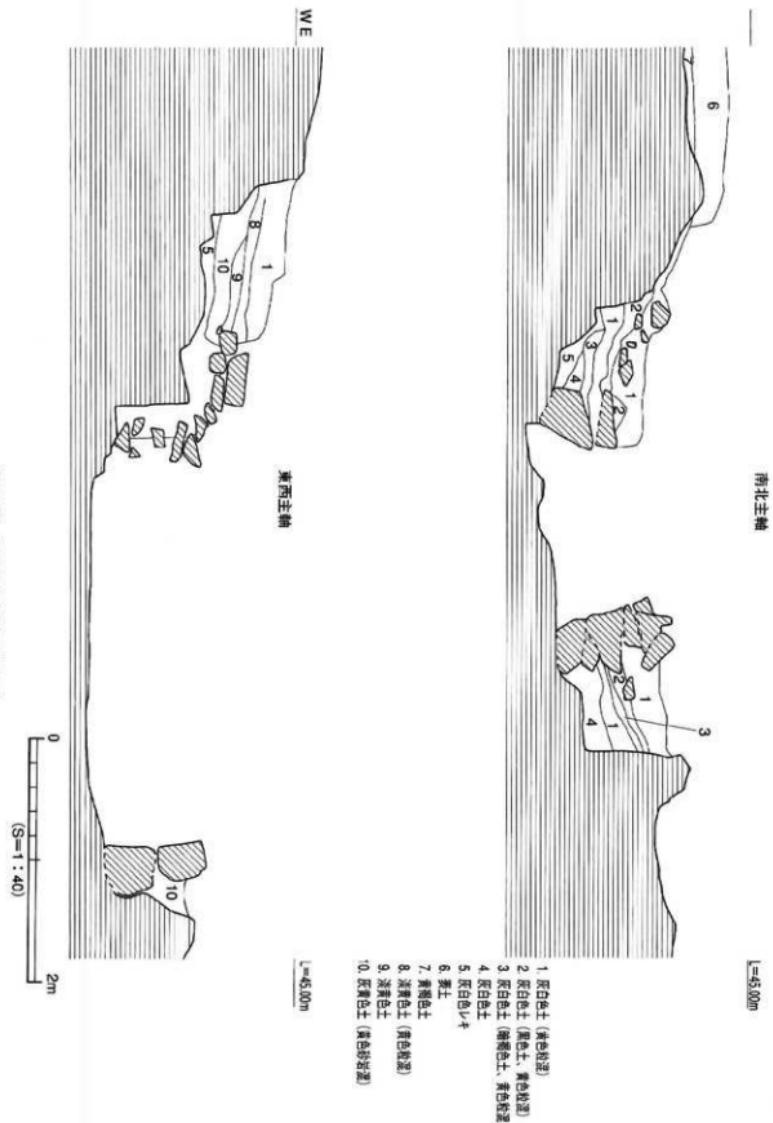
第15図 24号墳石室測量図

遺構と遺物



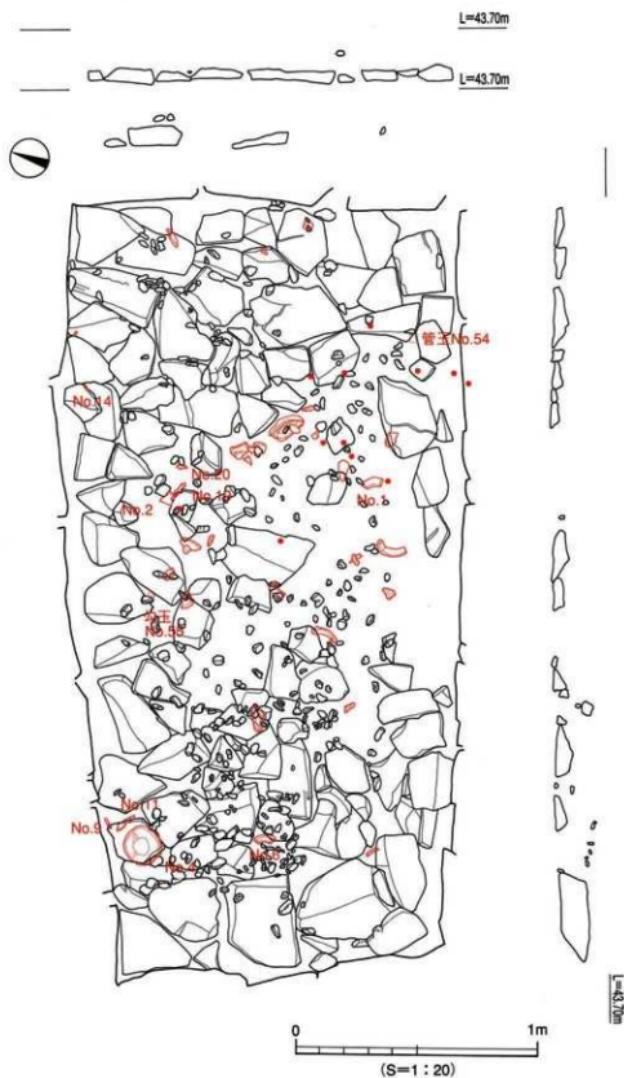
第16図 24号埴石室展開図

東山古墳群 6 次調査



第17図 24号墳主軸断面測量図

遺構と遺物



第18図 24号墳床面・遺物測量図

高坏（6）口径13.0cmを測る無蓋高坏の坏部片である。口縁部中位に2段の段をもち口縁部は尖り気味に丸い。調整は底部に回転ヘラ削りその他には横ナデが施されている。

壺（7・8）7は長頸壺の口縁部。大きく外反する口縁部の端部は肥厚される。中位に幅広の刺突列点文を施す。色調は赤みをおびる。8は短く外反する口縁部の端部は肥厚され丸い。

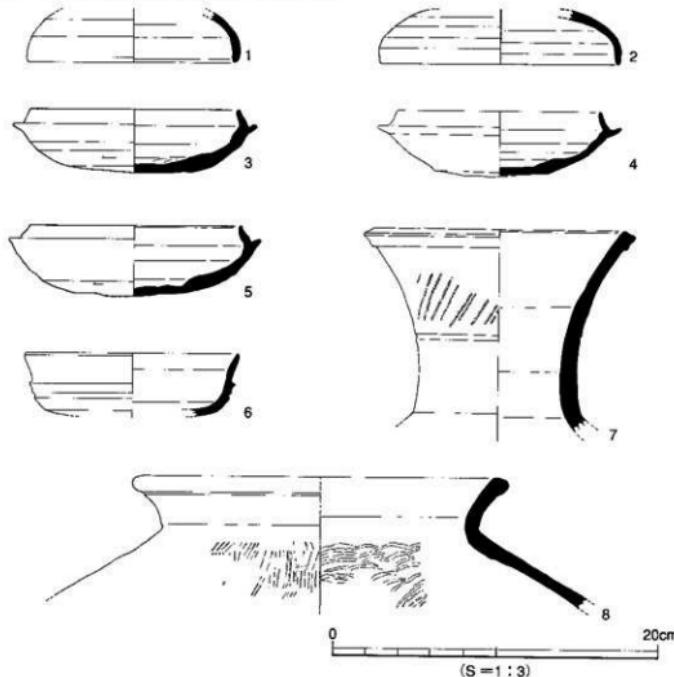
#### 鉄製品

鉄鐵（9～17）9・10は、腸抉式鐵であり茎部に木質の残存がみられる。11は、柳葉鐵で茎部を欠失している。13は、腸抉式鐵の小型品である。14～17は茎部片である。14・15・16の茎部に木質と樹皮の残存がみられる。釘（18）端部を折り曲げている。刀子（19・20）19は切先部を欠くがほぼ完形に近いもので基部に木質が残存している。20は基部に装着していた鹿骨片で木質が残存している。

#### 装身具

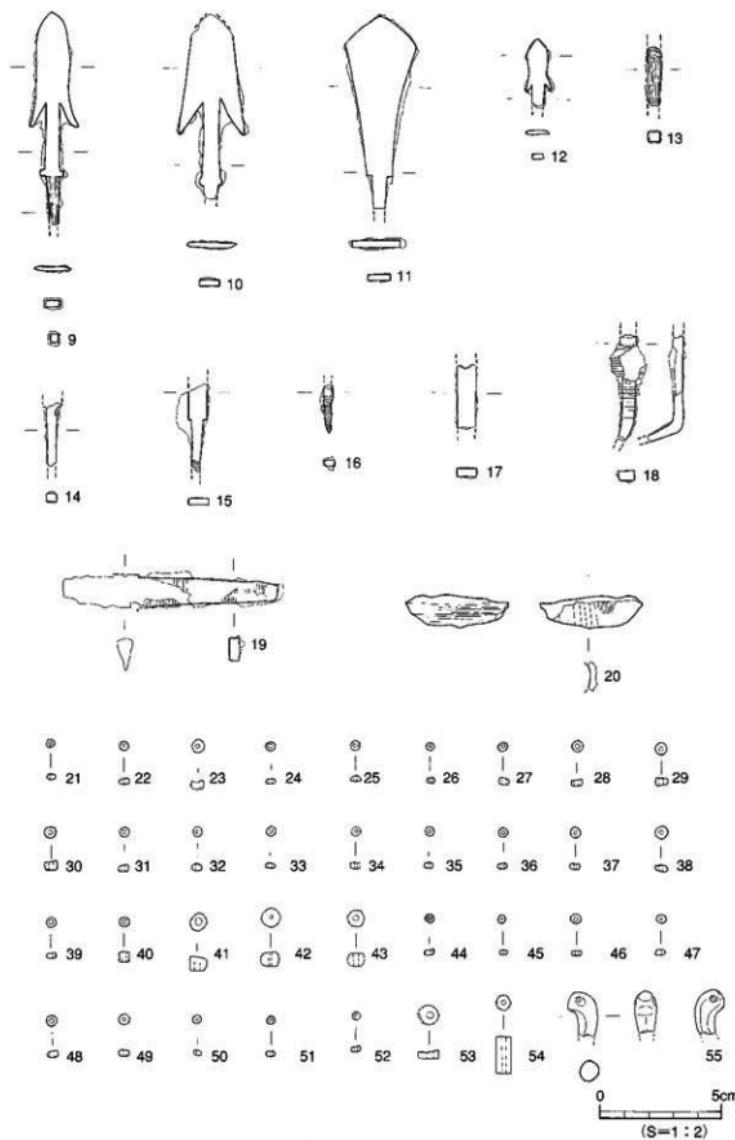
##### 玉（21～55）

21～52がガラス製の小・丸玉、53～55は石製の白玉、管玉、勾玉の計35点出土している。21～26は濃紺色で27～31は紺色である。32～43は青色で41～43は青色の丸玉、44は透明な水色、45～49は緑色、50～52は黄色である。53は直径15.0mm、孔径2.5mm、厚さ3.5mmを測る紺灰色の白玉である。54は直径6.0mm、長さ15.0mm、孔径1.0～2.0mmを測る碧玉製管玉である。55は残存長18.0mm、孔径1.0mm～3.0mmを測る透明な白色の勾玉である。



第19図 24号墳石室内出土遺物実測図（1）

遺構と遺物



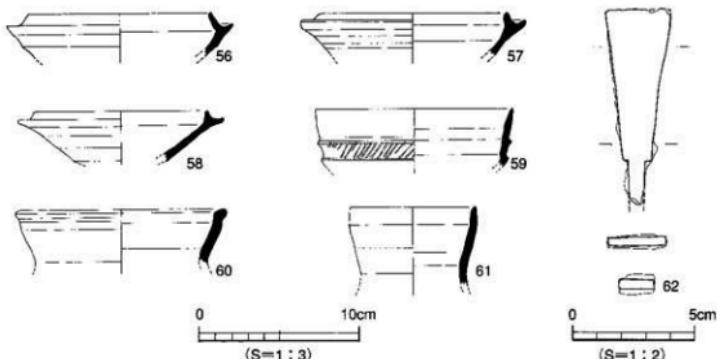
第20図 24号墳石室内出土遺物実測図(2)

## 周溝内出土遺物（第21図、図版23）

56～58は環身片である。56は復元口口径11.0cmを測る。水平気味に外上方に短く伸びる受部に、内傾する立ち上がりをもち端部は尖り気味に丸い。57は外上方に短く伸びる受部に、内傾気味の短い立ち上がりをもつ。58は水平気味に伸びる受部に、直立気味の短い立ち上がりをもつ。59は高環。環部の口端部は尖り気味である。外面に幅広の刺突列点文を施す。60・61は壺の口縁部片。60は復元口径12.6cmを測る。外傾する口縁部の端部は丸く肥厚させ、端部手前に肥厚による段が見られる。61は、外傾し口縁部手前で内湾気味に直立する、口縁部端部は尖り気味に丸く仕上げている。

鉄製品（62）62は鑿頭式の平根鍬で残存長8.1cmを測る茎部を一部欠失している。

時期：石室内より出土した須恵器の形態より古墳時代後期に時期比定する。



第21図 24号墳周溝内出土遺物実測図

## ii) 25号墳（第22・23図、図版12・13）

調査区の頂上より西側に1.6～1.8m下った所に位置する小石室である。調査前の地形測量と肉眼観察からは石室は確認できなかった。埴丘盛り土は削平されており埴形と埴丘規模は不明である。石室は東西方向に主軸をとる。掘方は「コ」の字状で西側は削平を受けている。掘方規模は、検出長軸1.9m、短軸1.6mを測る。石室規模は、横出長1.77m、幅0.93mを測る。床面は最下部に10～40cmの扁平な角礫を敷き、つづいて5cm前後の円礫を全面に敷く。

## 出土遺物（第23図、図版24）

遺物は、須恵器の壺形土器、高環形土器、耳環1点が出土した。壺形土器は正置の状態で壁に接して出土した。高環は環部が破損した状態で出土した。

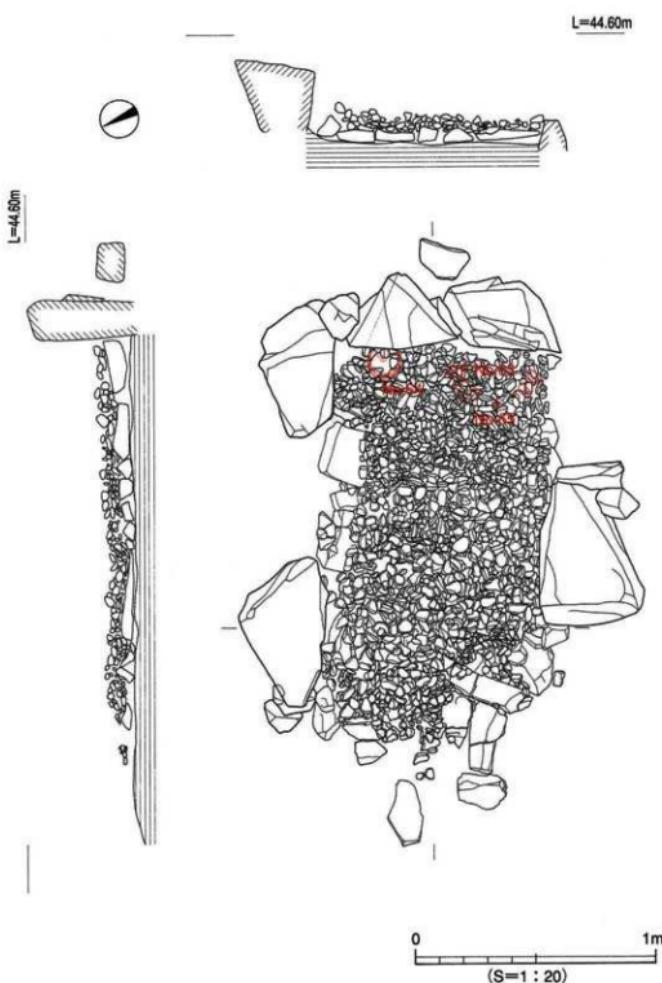
須恵器（63・64）63は口径13.7cmを測る無蓋高環である。脚部は欠失している。環部は内湾しながら開き口縁部の端部は尖り気味に丸い。環部中位に一条の凹線、脚部に二条の凹線が巡らす。口縁部は焼け歪みを生じ変形している。64は長頸壺である。口縁部は欠失している。丸底の底部よりやや肩の張る肩部に、直立気味にわずかに外傾する口縁部をもつ。肩部中位に二条の凹線が巡る。

## 装身具

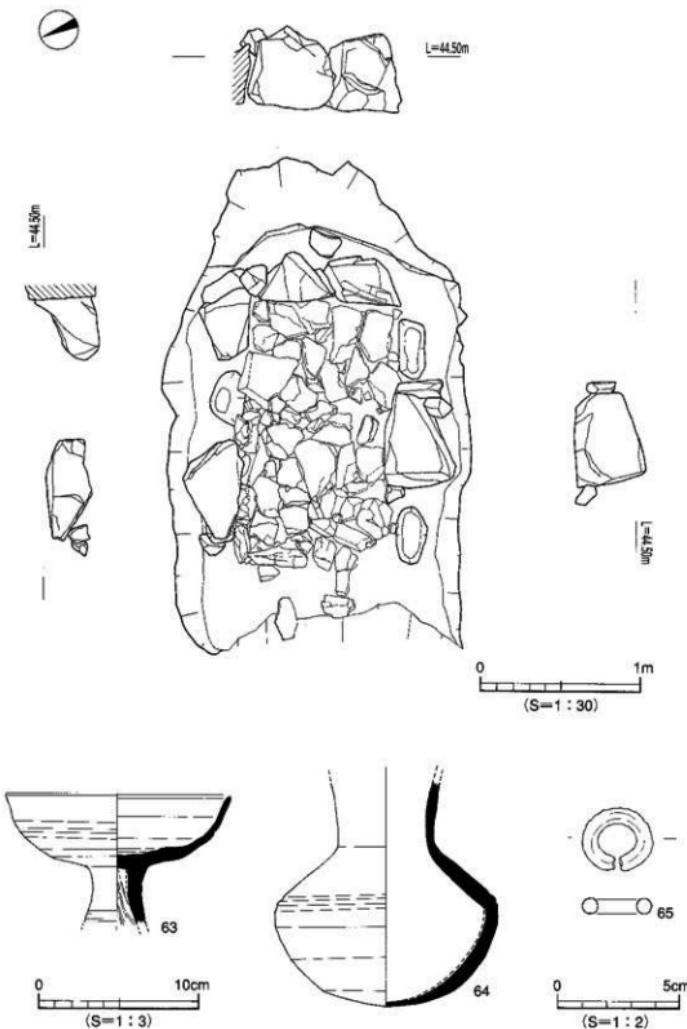
耳環（65）外径2.9cm、内径1.6cmを測る銅芯に薄い銀板を被覆している。

時期：出土した須恵器の形態より古墳時代後期に時期比定する。

遺構と遺物



第22図 25号墳床面・遺物測量図



第23図 25号墳展開図・出土遺物実測図

## (2) 弥生時代

土坑を5基検出した。

## 1) 上坑(SK)

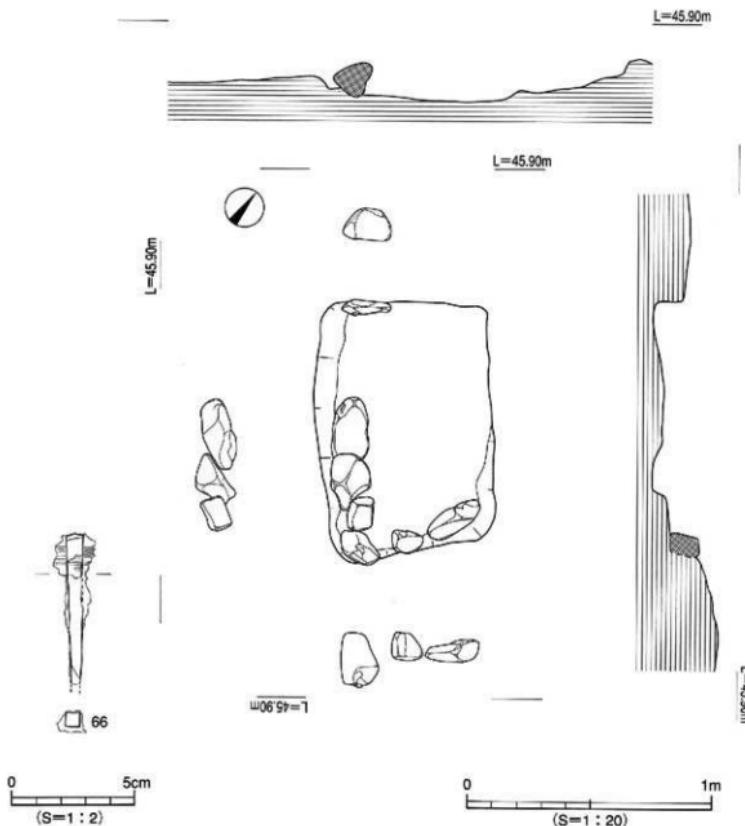
## SK101(第24図、図版14)

調査区中央部に位置する。平面形態は長方形を呈する。規模は長さ1.04m、幅0.72m、深さ10~17cmを測る。床面はわずかに窪む箇所がある。墓壙内には15cm~30cm大の塊石を配している。墓壙内南側に3石と西側に3石、北側に1石を配している。遺物は埋土上層から鉄製品が出土している。

## 出土遺物(第24図)

66は鉄釘、残存長6.2cm、幅1.6cm、厚さ0.9cmを測る。先端部は欠損している。

時期：出土状況からSK102と同時期と思われ、縄文時代晚期から弥生時代前期に時期比定する。



第24図 SK101測量図・出土遺物実測図

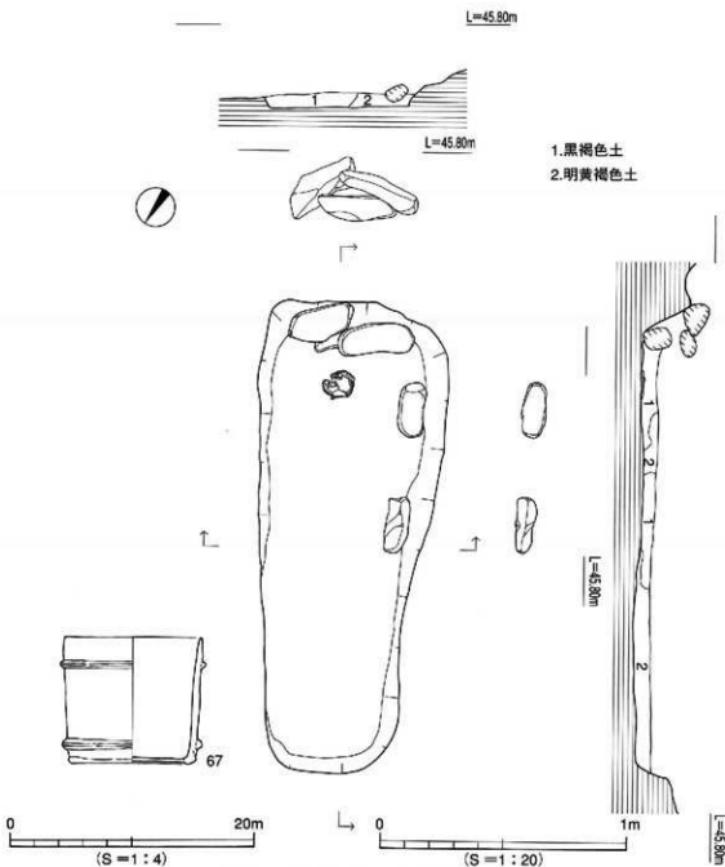
## SK102 (第25図、図版14・15)

調査区南部に位置する。平面形態は長方形を呈する。規模は長さ1.93m、幅0.54m~0.77m、深さ30cmを測る。断面形態は皿状である。墓壇の床はほぼ平坦で南側小口部の幅が広く、墓壇内の南側に3石と西側に2石の塊石を配している。埋土は黒褐色土と明黄褐色土である。遺物は南側床面より上部から押しつぶされた状態で鉢形土器が出土した。

## 出土遺物 (第25図、図版24)

鉢形土器は口径11.1cm、底径10.4cm、器高10.3cmを測る。わずかに上げ底気味の底部より直線的に立ち上がり、口端部は尖り気味に丸い。底上部と口縁下部に貼付による凸帯を巡らし明確ではないがキザミ目を施している。

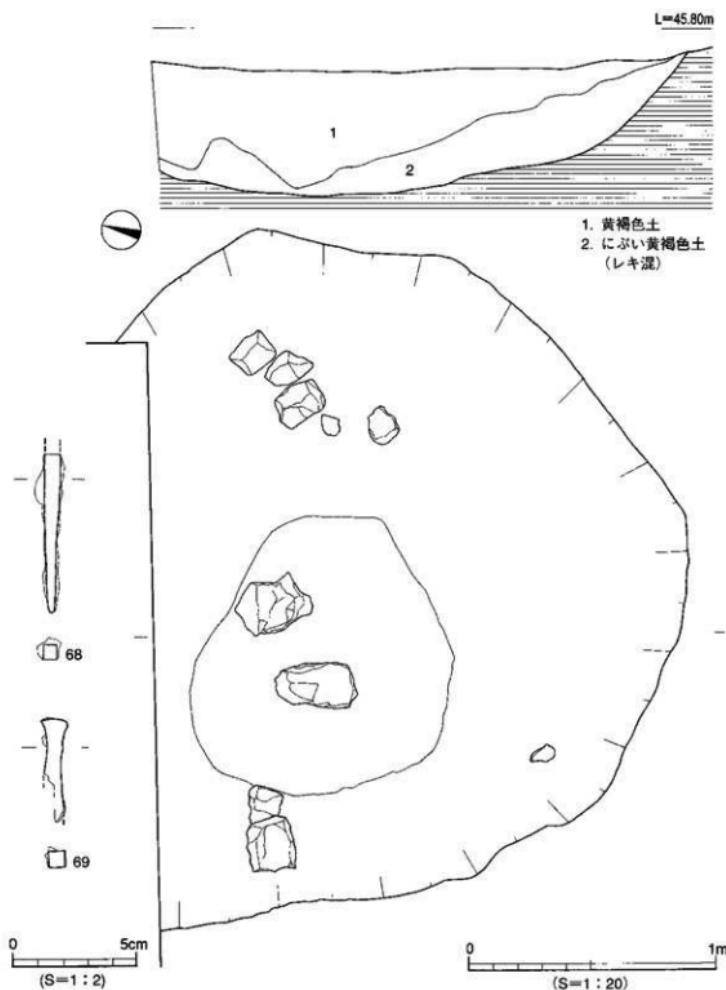
時期：出土した鉢形土器の形態から縄文時代晩期から弥生時代前期に時期比定する。



第25図 SK102測量図・出土遺物実測図

SK103(第26図)

調査区南部に位置し北側は未調査である。平面形態は不整な円形状と思われる。規模は東西2.7m、南北検出長2.1m、深さ0.53mを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黄褐色土とにぶい黄褐色土(疊混)の2層に分層できる。遺物は床面の西側に2石、中央に2石、東側に4石の塊石が出土している。埋土上層からは、鉄製品2点が出土した。



第26図 SK103測量図・出土遺物実測図

## 出土遺物（第26図、図版24）

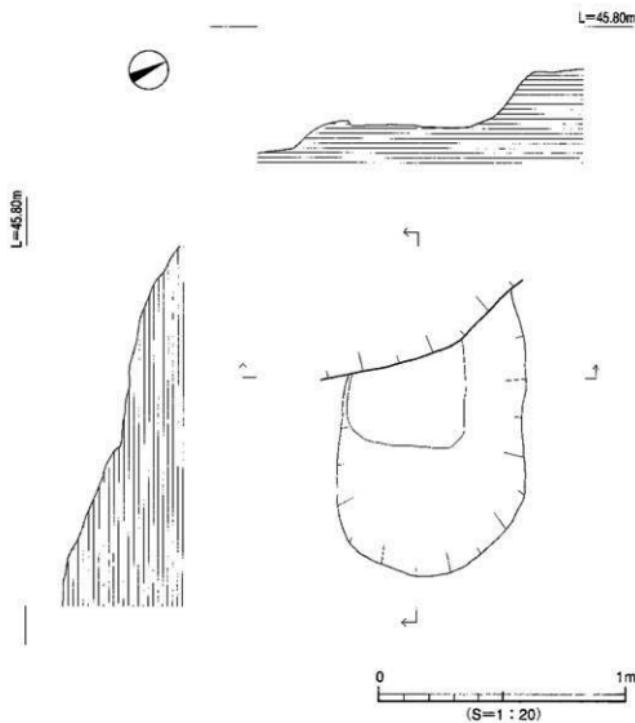
69の端部はたたかれ扁平であるため、鉄釘と思われる。

時期：出土した塊石の状況からSK102と同様に縄文時代晩期から弥生時代前期に時期比定する。

## SK104（第27図）

調査区南部に位置し北西部をSX101に切られる。平面形態は、残存部の形態より長方形と考えられる。規模は検出長1.15m、幅0.74m、深さ0.23mを測る。断面形態は逆台形状である。出土遺物はない。

時期：検出状況からSK102と同時期と思われ、縄文時代晩期から弥生時代前期に時期比定する。



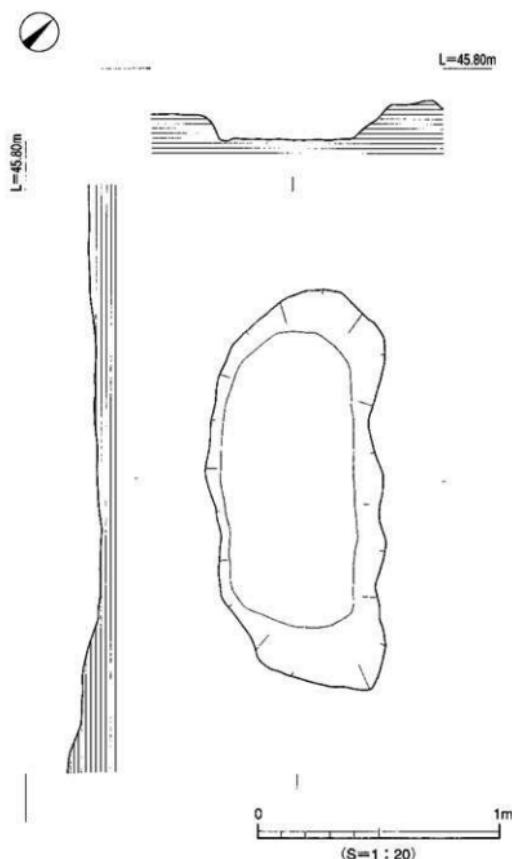
第27図 SK104測量図

## 遺構と遺物

### SK105（第28図）

調査区南部に位置し上部は削平を受けている。平面形態は橢円形状である。規模は長さ1.64m、幅0.73m、深さ0.13mを測る。断面形態は皿状である。小口側の立ち上がりは不明瞭である。出土遺物はない。

時期：検出状況からSK102と同時期と思われ、縄文時代晩期から弥生時代前期に時期比定する。



第28図 SK105測量図

## 3) 中世

性格不明遺構を2基検出した。

## S X101 (第29図、図版16)

調査区の南西部に位置する。西側、南側は調査区外に続く。平面形態は不整形である。規模は検出長8.8m、検出幅7.0m、深さ2.7mを測る。床面は凹凸がある。埋土は褐色土を基本とし下面は疊層である。出土遺物は土師器、須恵器、弥生土器、埴輪が出上している。

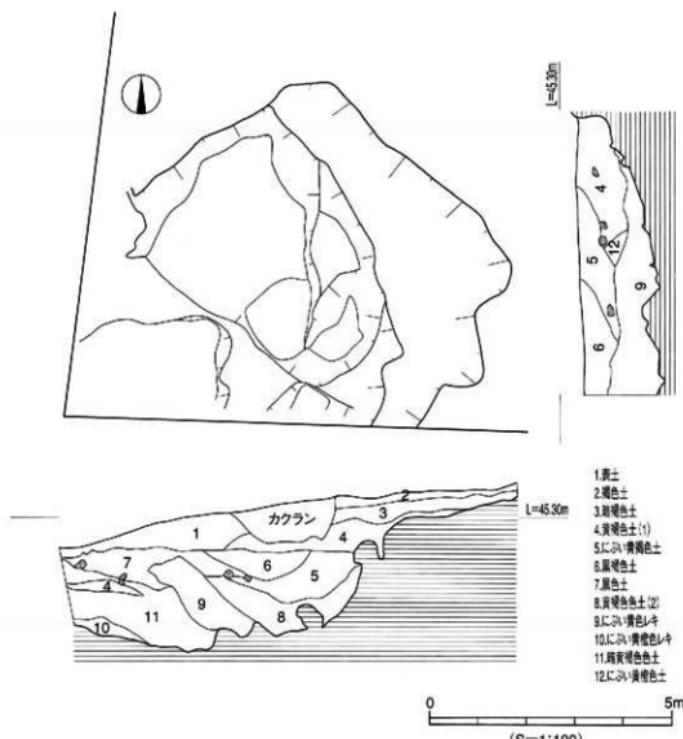
## 出土遺物 (第30図、図版24-25)

## 土師器 (70~100)

壺 (70~79) 70は外上方に伸びる口縁部の端部は尖り気味に丸い。71は口径10.5cm、底径5.9cm、器高4.8cmを測る高台付きの底部に回転ヘラ切り痕、内外面に横ナデが施されている。72~79は高台付の壺である。73~75・77・79は回転ヘラ切り痕が残る。

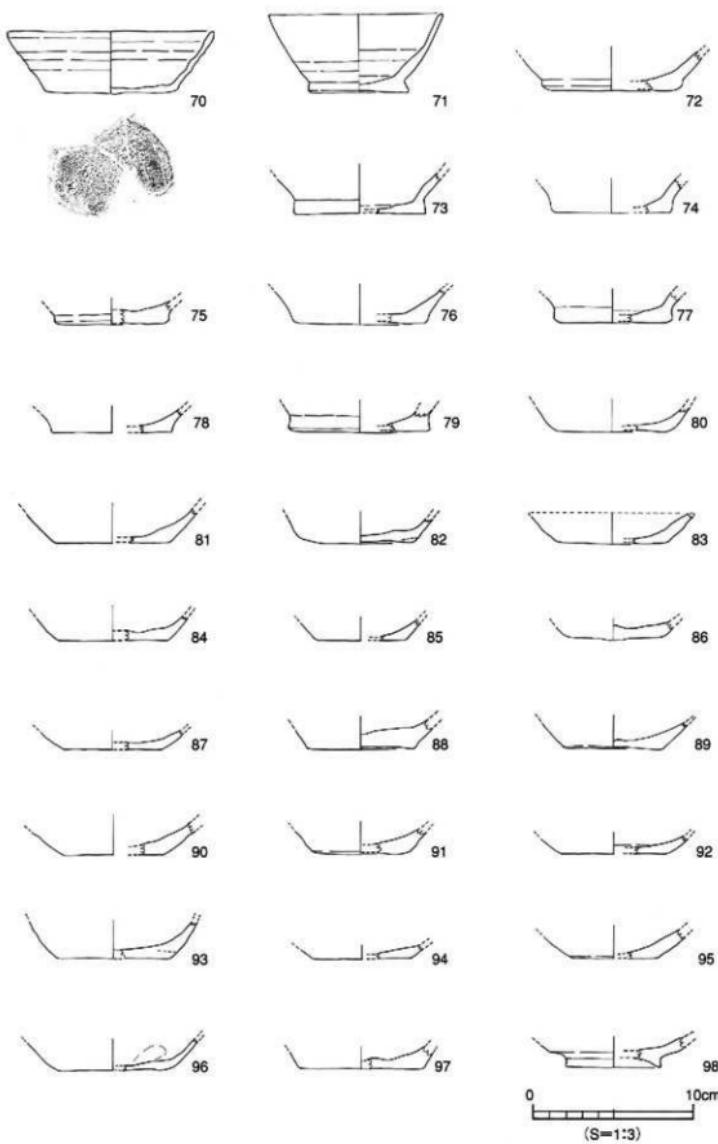
皿 (80~97) 83は口径10.0cm、底径6.8cm、器高1.9cmを測るやや凹む平底に、回転ヘラ切り痕が残る。80・86・92・94・96は回転系切り痕が残る。

碗 (98) 98は底径5.8cmを測る碗の底部片である。断面三角形状の高台を底部に貼り付ける。



第29図 SX101測量図

遺構と遺物



第30図 SX101出土遺物実測図(1)

99は三足付土釜で口径22.2cmを測る。丸底の底部より緩やかに内湾しながら口縁部に続き、口端部に凸帶を一条巡らす。内面にハケ目調整を施す。100は壺。平底で扁平な胴部。

#### 弥生土器

101は壺。短く内湾する口縁部。外面に2条の凹線を施す。102は口径16.2cmを測る壺の口縁部片である。口縁部は短く折り曲げる。103は口径33.2cmを測る器台の口縁部片で口端面に波状文を施す。104は壺の底部。厚い平底の内面にハケ目調整がある。105は壺の底部。底部は凹凸があり不安定である。106はジョッキ型壺。平底で内湾する胴部。

#### 埴輪（第32図、図版25）

出土した埴輪は小破片が多数を占める。その中で復元できたものを図化している。出土した埴輪は、全て土師質で底径12.9cm～20.0cmを測る。

107は底部より17.0cmの所にタガを巡らし、内外面の調整は摩滅のために不明である。108は底部より20.0cmの所にタガを巡らし、内外面にハケ目とヘラによるナデ調整が施されている。109は摩滅のために内外面の調整は不明である。110は底径16.3cmを測る。内面裾部に指頭痕が見られる。

#### 須恵器（第32・33図、図版25）

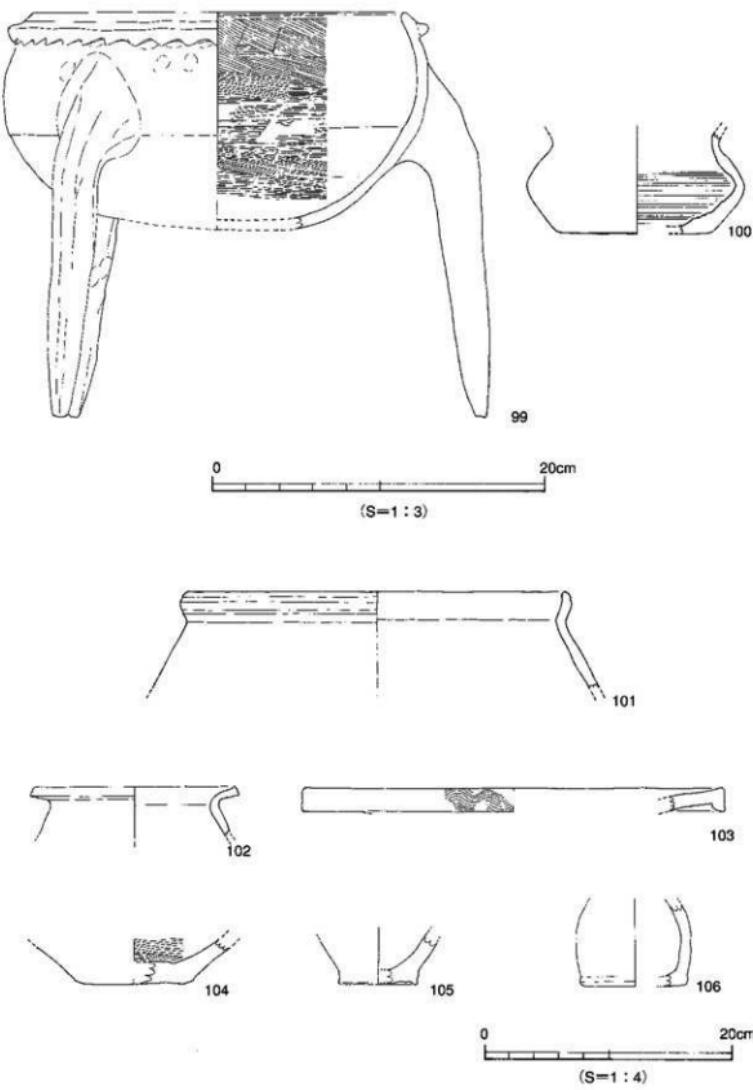
111～113は高环。111と112は坏部と脚断部を欠失している。脚中位に二条の沈線を巡らし上下二段のすかし窓を二方向に切り取る。113は「ハ」の字状に短く開く脚部。壺部は回む。114～116は壺の口縁部から胴部にかけての残存である。114は口径16.7cmを測る。外反する短い口縁部は端部で肥厚せんぐ、外面に平行タタキ痕が見られ全体に施釉がかかる。115は口径16.8cmを測る。短く外反する口縁部端部は尖り気味で内傾する面をもつ。内面に施釉が見られる。116は口端部を欠失している。胴部外面にタタキ痕が見られる。117は長頸壺の口縁部片。口端部は欠失しており外傾して直線的に広がるものと思われる。外面に2本一組の沈線を3条と浅い沈線を1条巡らし沈線間に波状文を施す。118は器台。坏部から胴部の小片である。外面に二条の沈線と波状文を巡らし二段の刺突文と円孔を施す。119は壺。底部から胴部にかけての残存である。胴部最大径9.5cmを測る底部に向転ヘラ削り、胴部にカキ目調整が施されている。

#### 土師器（第33図、図版25）

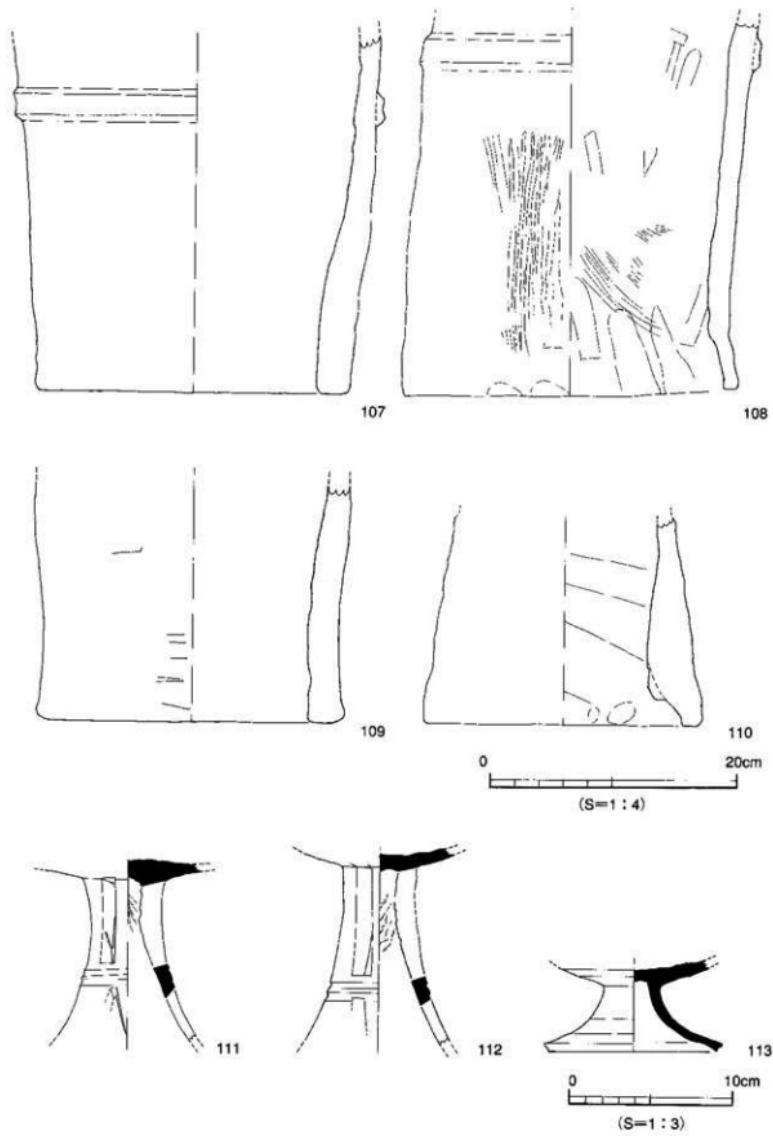
120は把手付き壺と思われ丸底の底部より直立気味に立ち上がり、口端部は尖り気味に丸い。121は壺。口径15.4cm、底径8.0cm、器高4.0cmを測る。高台付きの底部より外上方に開く口縁部の端部は丸い。外面とともに摩滅のため調整は不明である。122は壺。口径12.6cm、底径7.0cm、器高5.0cmを測る。内湾しながら外上方に伸び口縁端部は丸く、高台付きの底部に向転ヘラ切り痕が残り、内外面の調整は横ナデである。

時期：出土した土師皿の形態より中世に時期比定する。

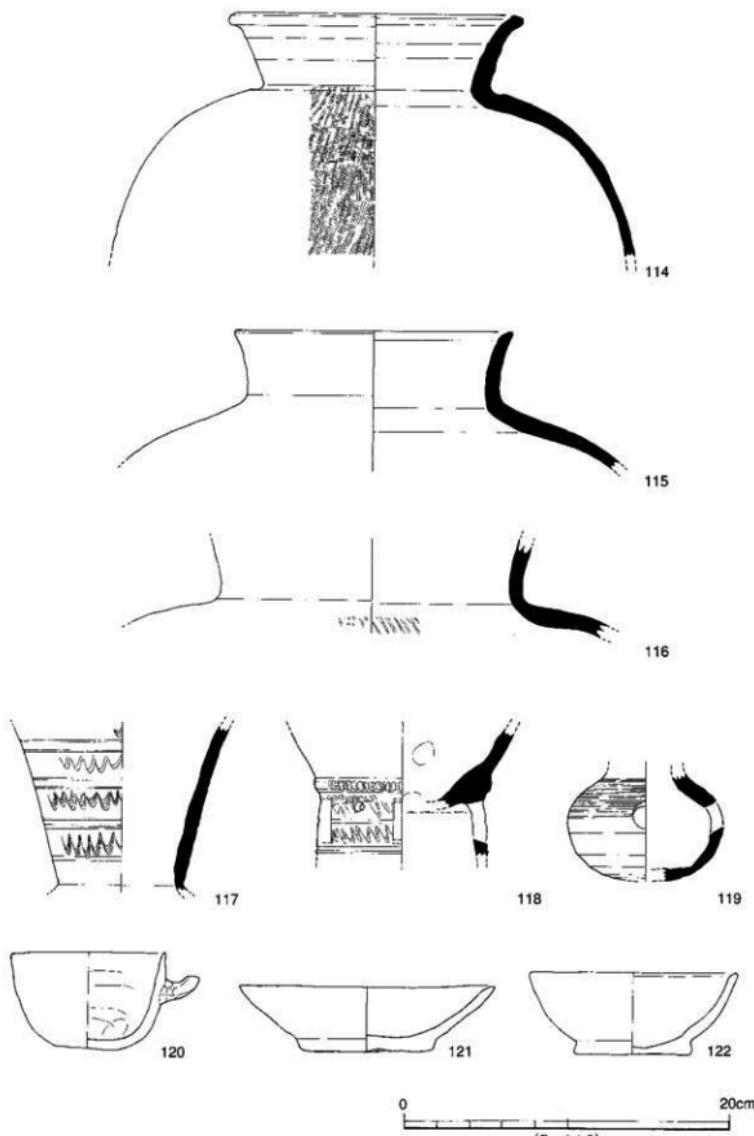
遺構と遺物



第31図 SX101出土遺物実測図 (2)



第32図 SX101出土遺物実測図(3)

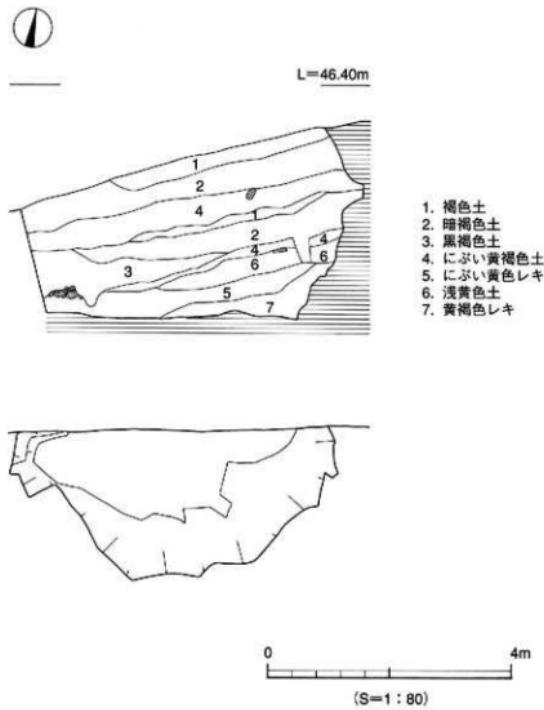


第33図 SX101出土遺物実測図(4)

## SX102 (第33図、図版17)

調査区の北西部に位置し北側は調査区外に続く。平面形態は検出した東側の形態より不整形な円形状と考えられる。規模は検出長5.4m、検出幅2.4m、深さ3.2mを測る。断面形態は東側はフ拉斯コ状、西側は直線的に切り立ち、南側は台形状で床面は水平な面をもつ。埋土は褐色土が基本とし下面は疊層である。出土遺物はない。

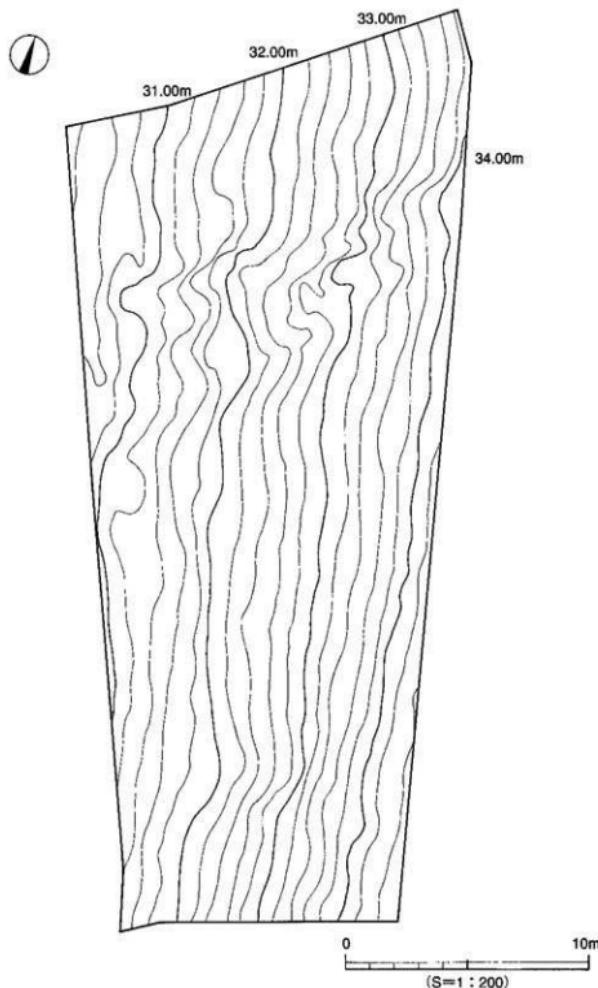
時期：遺構検出状況からSX101と同時期の中世に時期比定する。



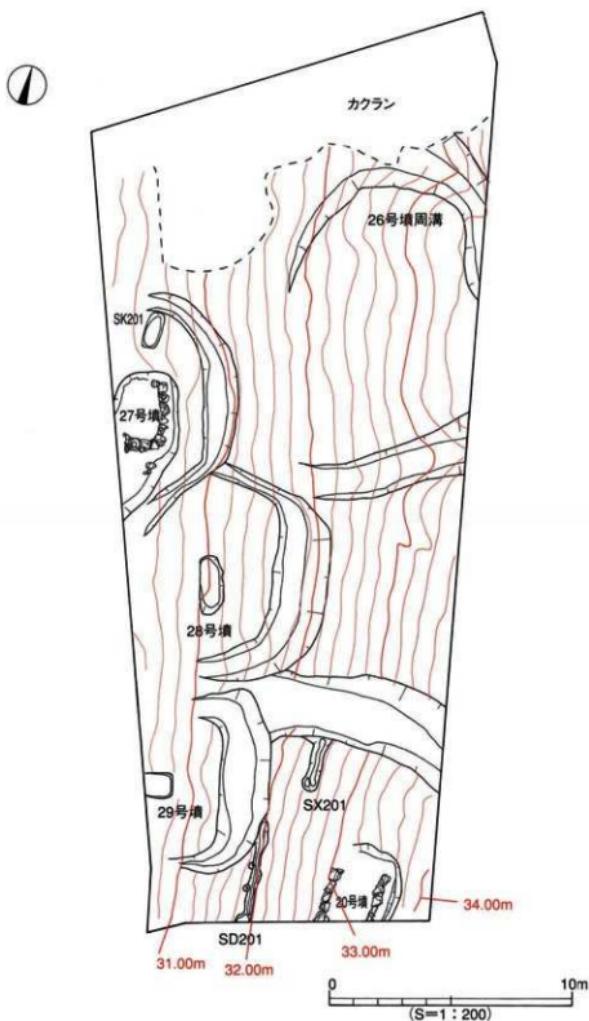
第34図 SX102測量図

## 3. 2区の調査

2区は1区北西の12m低い標高30.40m～34.00mに位置する。調査区は縦11.7m～16.5m、横33.1m～37.5mを測る台形状で高低差3.6mを測る斜面上にある。調査以前は湖塼が行われ果樹園として利用されていたため、肉眼観察と地形測量からは墳丘は確認出来なかったが、調査では、古墳5基と弥生時代の溝1条、上坑1基、性格不明遺構1基を検出した。



第35図 2区調査前地形測量図

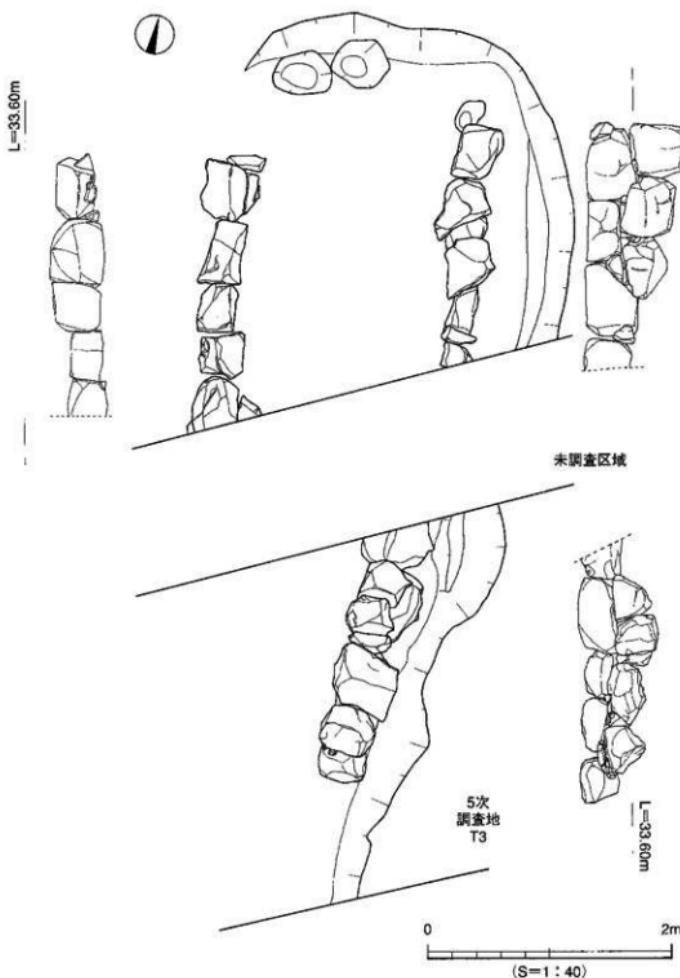


第36図 2区造構配置図及び調査後地形測量図

### (1) 古墳時代

20号墳(第37図、図版19)

調査区南部に位置する。20号墳の南側には東山古墳群5次調査地T3で検出した石列と同一と考えられるため、5次調査地で古墳番号を付した20号墳として調査を行った。



第37図 20号墳石室測量図・展開図

東山古墳群 6次調査



第38図 20号墳床面・遺物測量図

## 遺構と遺物

遺構は石室と周溝である。墳丘盛り土は削平を受けている。墳形は周溝の形状より円墳と考えられる。規模は12m前後を測る。石室掘方は北から東にかけて検出し、右側壁2段長さ2.0m、左側壁1段長さ2.2mを検出した。奥壁は抜き跡を検出した。石室規模は検出長2.6m、幅1.7mを検出した。敷石は下面に10~30cmの扁平な角砾を敷き、上面に2~5cm前後の円砾を敷く。遺物は土師器の鉢、須恵器の环身、耳環1点が円砾上面より出土した。

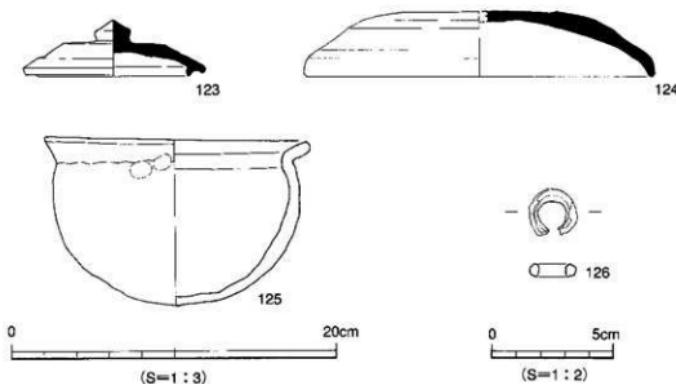
### 出土遺物（第39図、図版26）

坏蓋（123・124）123は口径9.2cm、器高3.4cmを測る完形品である。水平な天井部に摘みが付き、返りは口端部より下方に伸びる。天井部に回転ヘラ削りが行なわれている。124は口径21.4cm、器高4.0cmを測る大型の蓋である。扁平な天井部より緩やかな曲線を描き口端部につづき端部は丸い。天井部に回転ヘラ削り、その他に横ナデ調整が施されている。

鉢形土器（125）口径16.0cm、器高10.4cmを測る土師器の完形品である。口縁部を「く」字状に折り曲げ端部は丸くおさめられている。丸底の底部は凸凹である。内外面ともに摩滅にて調整不明である。

耳環（126）外径1.95cm、内径1.2cmを測る銅芯を薄い銀板で被覆している。遺存状況不良な為、鋳化、剥離が進行している。

時期：出土遺物から古墳時代後期に時期比定する。



第39図 20号墳出土遺物実測図

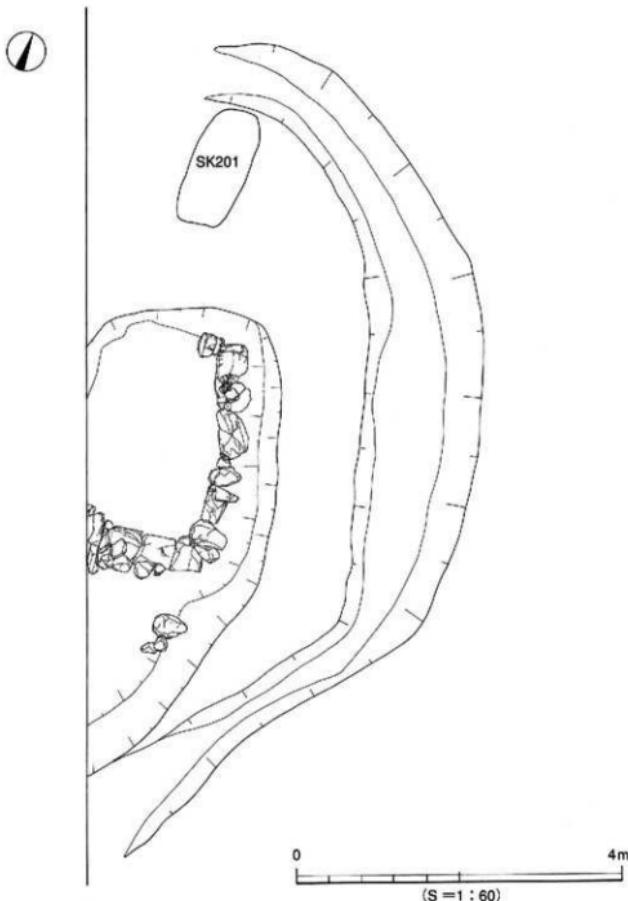
### 26号墳（第36図、図版20）

調査区の北西部に位置し東側は調査区外に続き、北側は近現代坑に切られる。墳丘と主体部は削平を受けている。検出遺構は周溝のみである。墳形は検出した周溝の形状から円墳と考えられる。規模は約11mを測る。周溝内から遺物は出土していない。

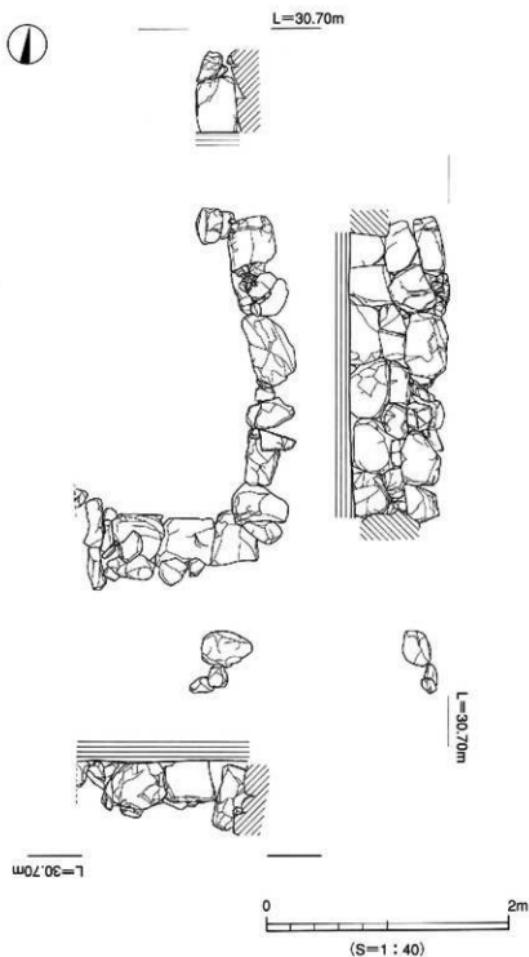
時期：遺物が出土していないため時期不明である。

## 27号墳（第40～42図、図版20）

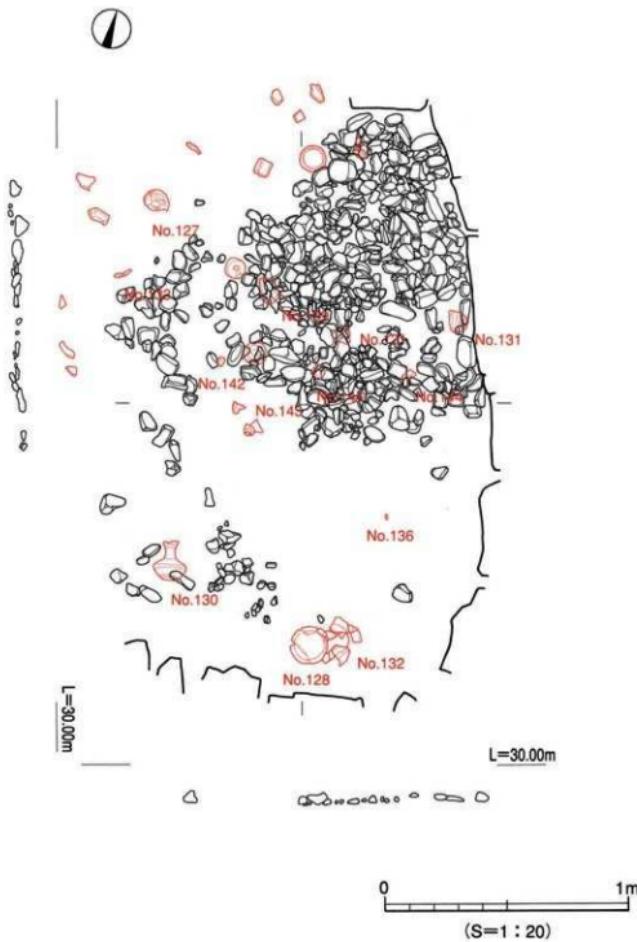
調査区の北西部に位置し埴丘盛り土は削平を受けている。検出遺構は周溝と石室である。周溝は石室の東側に位置し半円状に検出した。規模は径8.45m、幅1.40m、深さ0.20mを測る。主体部は南北方向に主軸を取り南側に開口する。西側は調査区外に続く。掘方の平面形態は長方形状である。石室は奥壁2段、右側壁3段と閉塞石が残る。規模は長さ2.35m、幅(1.28)mを測る。奥壁幅と玄門部の幅が狭く、中央部が広い形状である。床面には5～15cmの礫を敷く。出土遺物は石室内から須恵器の壺、耳環、羨道部から須恵器の壺蓋、周溝から須恵器の壺蓋が出土遺物している。



第40図 27号墳石室・周溝測量図



第41図 27号填石室展開図



第42図 27号墳床面・出土遺物測量図

## 石室内出土遺物（第43図、図版26）

須恵器 127は壺身。口縁部の一部を欠いているがほぼ完形品である。口径10.4cm、器高3.8cmを測る。やや内湾する口縁部の端部は尖り気味に丸い。焼成不良の為に調整は不明である。128は台付き壺で口縁部を一部欠いている。断面四角形の高台が付き口縁部は外上方に伸び端部はやや尖り気味に丸い。色調は焼成不良の為に灰白色を呈している。129は壺の口縁部片で口径19.1cmを測る。外湾する口縁部の端部を上下に肥厚させ段をもつ。130は台付長頭壺、口縁端部と台脚を一部欠いている。口縁部中位や上部に2条、胴部中位に1条の凹線が巡る。131は壺の底部片。厚い底部外面にナデが施されている。

土師器 132は土師器の壺。口径17.4cm、器高5.3cmを測る完形品である。丸味をもつ底部。口縁部は外傾し端部を内側に丸く肥厚させる。

## 鉄製品 133～136は鉄釘と思われる。

## 羨道部出土遺物（第43図）

环蓋137は口径10.5cm、器高3.5cmを測る完形品である。天井部に摘みが付き返りは口縁端部より下方に伸びる。天井部に回転ヘラ削り、その他に回転横ナデが施されている。

环身138は口縁部が外傾し端部は尖り気味に丸い。底部には粘土紐の巻き上げ痕が顕著に残る。

## 周溝内出土遺物（第43図、図版26）

壺蓋（139～144）139は摘み部をもつ小型品である。返りは口縁端部より下方に伸びる。140は摘み部をもつ小型の完形品で返りは口縁端部より下がる。141は摘み部をもつ。返りは口縁端部より下方に伸び接地する。142の大井部は平たく、摘み部を欠失している。口縁端部が接地する。143は丸い天井部の摘み部を欠失し口縁端部が接地する。144は返りをもたない大型品で扁平な摘み部の上部は水平である。

時期：出土した須恵器の形態から古墳時代後期に時期比定する。

## 28号墳（第44図、図版20）

調査区の中央部に位置する。検出遺構は周溝と主体部である。周溝は主体部の東側に「コ」の字状に検出した。規模は長さ14.0m、幅2.2m、深さ0.25mを測る。主体部は石材をもたない土坑である。平面形態は長方形で南北方向に主軸を取る。規模は長さ2.34m、幅1.05m、深さ0.13mを測る。断面形態は逆台形状である。遺物は周溝内から須恵器が1点出土している。

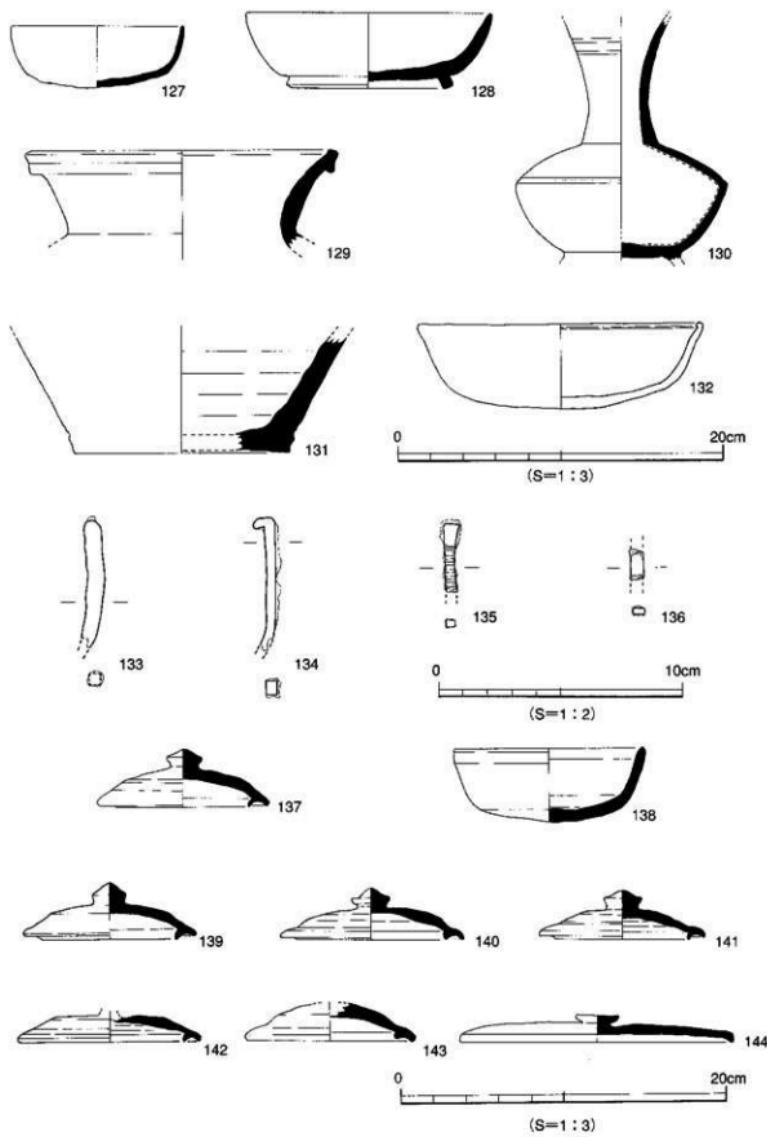
## 出土遺物（第44図）

145は須恵器の壺の口縁部片。外反する口縁部の端部は丸い。

時期：周溝と主体部の形態が29号墳に類似することから、29号墳と同じ古墳時代中期以降に時期比定する。

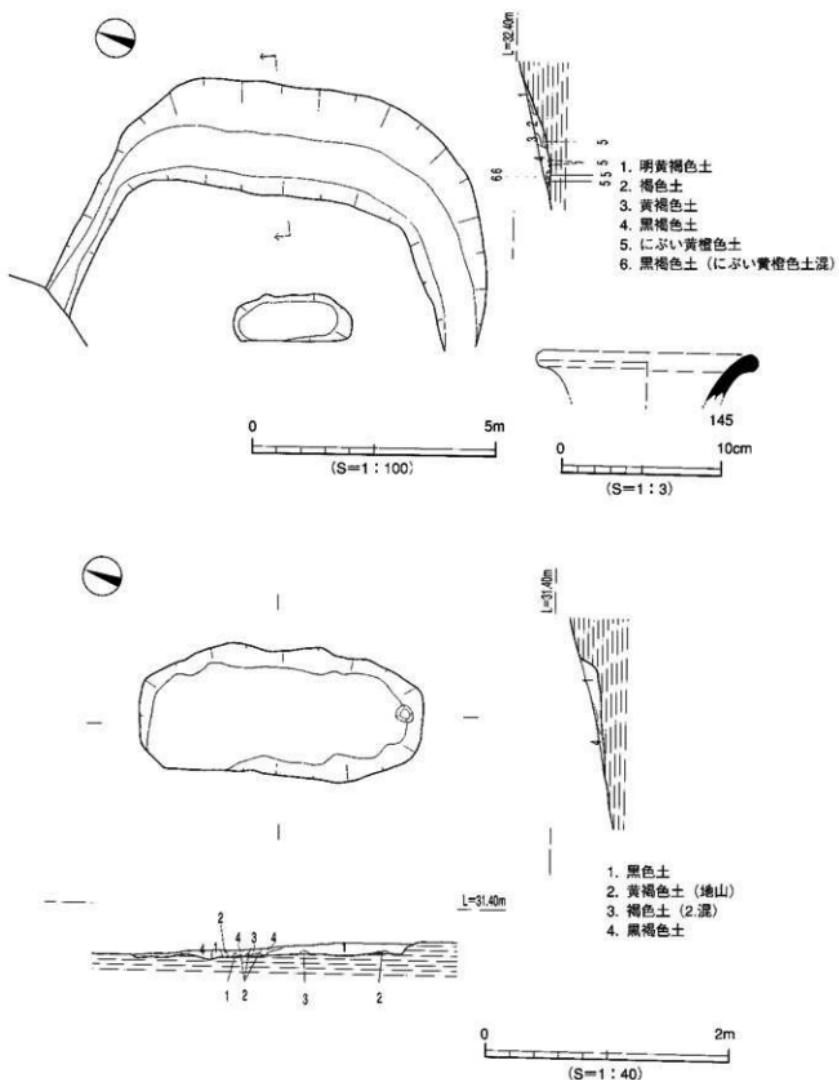
## 29号墳（第45図、図版21）

調査区南西部に位置する。検出した遺構は周溝と主体部である。周溝は主体部の東側に「コ」の字状に検出した。規模は長さ7.8m、幅2.2m、深さ0.32mを測る。主体部は石材をもたない土坑である。平面形態は長方形で東西方向に主軸を取る。規模は長さ（1.25）m、幅1.06m、深さ0.28mを測る。断面形態は逆台形状である。遺物は主体部から鉄製品の鋸と刀が出土した。

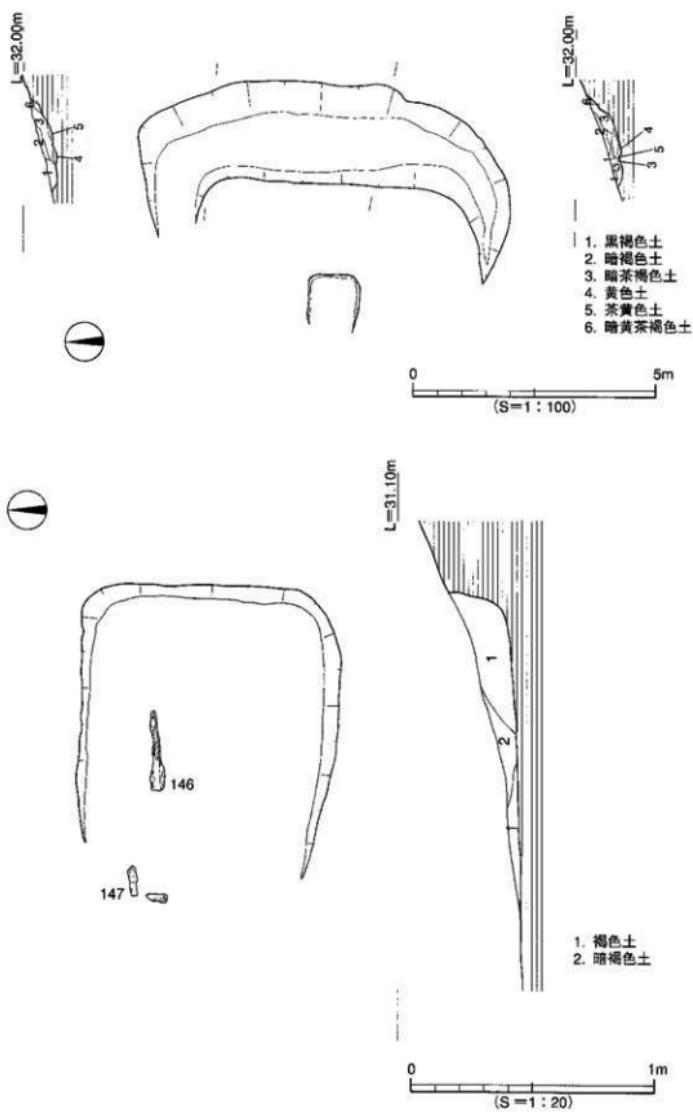


第43図 27号墳石室・羨道部・周溝出土遺物実測図

遺構と遺物



第44図 28号墳測量図・周溝内出土遺物実測図

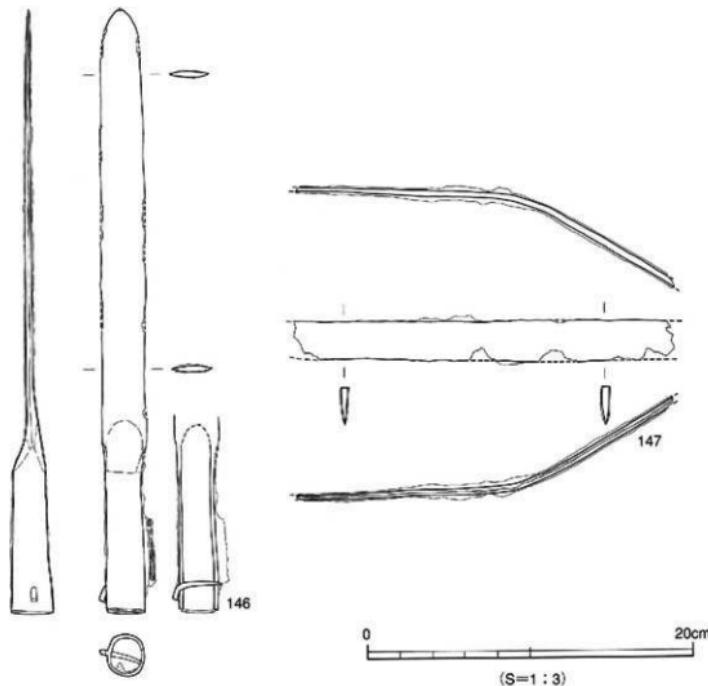


第45図 29号墳測量図・主体部出土遺物測量図

## 出土遺物（第45・46図、図版27・28）

146鉄鉤は完形品である。全長37.1cm、身部全長26.5cm、身部最大幅2.7cm、袋部最大幅2.6cmを測る。袋部に断面方形状の目釘が貫通し端部を下方に折り曲げている。袋部の断面は緩い角をもつ梢円形である。内面に木質、外面に布の付着が見られる。147鉄刀は「く」の字状に折れ曲がり先端部と柄の部分は欠損している。残存長は24.4cm、身部最大幅2.4cm、棟部最大幅0.4cmを測る。

時期：出土した鉄鉤の形態より古墳時代中期以降に時期比定する。



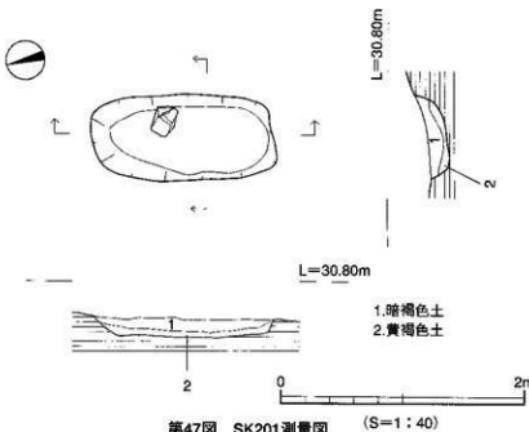
第46図 29号墳主体部出土遺物実測図

## 2) 土坑 (SK)

## SK201 (第47図)

調査区の北西部に位置し27号墳の周溝を切る。平面形態は長方形である。規模は長さ1.48m、幅0.72m、深さ0.19mを測る。断面形態は皿状である。埋土は暗褐色土である。遺物は18cm×23cmの角砾が1点出土した。

時期：古墳時代後期の27号墳を切るために古墳時代後期以降に時期比定する。



第47図 SK201測量図 (S=1:40)

## (2) 弥生時代

## 1) 溝 (SD)

## SD201 (第48図)

調査区の南部に位置し29号墳の周溝に切られる。規模は検出長4.31m、深さ22cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土である。遺物は弥生土器の変形土器、壺形土器、器台形土器が出土した。

出土遺物 (第48図)

甕 (148) 口縁部を折り曲げ端部断面は「コ」字状、胴部内外面にハケ目調整を施す。

壺 (149) 平底の底部から胴部にかけての残存内外面は摩滅のため調整不明。

器台 (150) 基部のみの残存である円孔を8方向に穿つ。

時期：出土した遺物の形態より弥生時代後期後半に時期比定する。

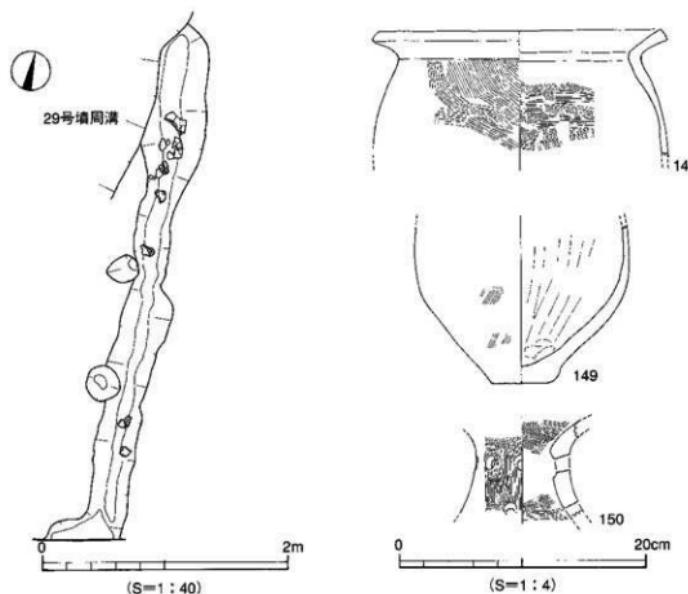
## 2) 性格不明遺構 (SX)

## SX201 (第49図)

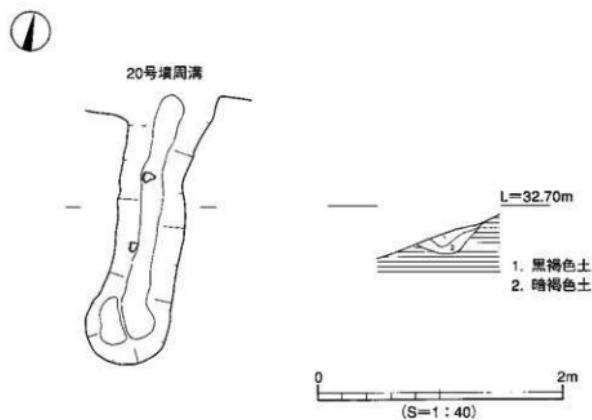
調査区の南部に位置し20号墳の周溝に切られる。規模は検出長2.29m、幅0.59m、深さ19cmを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は黒褐色土と暗褐色土である。遺物は弥生土器の小片が出土した。

時期：出土した遺物と、20号墳の周溝に切られるため弥生時代に時期比定する。

遺構と遺物



第48図 SD201測量図・出土遺物実測図



第49図 SX201測量図

## (3) 中世

## 1) 土坑 (SK)

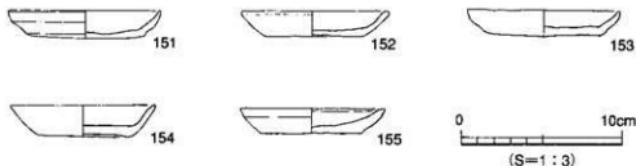
SK 202 (図版20)

27号墳の調査中に石室内北側中央に、径50cmの柔らかい埋土があり、木の根によるものとして掘り下げを行った。しかし、石室床面の敷石がなく上師器の皿が重なり合って出土したため、木の根のカクランではなく遺構が存在していたものであり、出土した土師皿は土坑出土遺物として掲載する。遺構図は作成できず。

土師器 (第50図)

III (151~155) 151は平底の底部に回転糸切り痕が見られ、口縁部は尖り気味に丸く底部内面に凹凸がある。152は凹凸のある平底にやや厚く丸い口縁部をもち、底部は回転糸切り痕である。153の底部は回転糸切り痕、内面に凹凸が見られる。154はやや凹む平底に回転糸切り痕と板状工具痕が見られる。155は口縁外面にナデによるわずかな段が見られる。平底の底部には回転ヘラ切り痕がある。

時期：出土した遺物より中世に時期比定する。



第50図 SK202出土遺物実測図

## (4) その他出土地点不明出土遺物 (第51図、図版28)

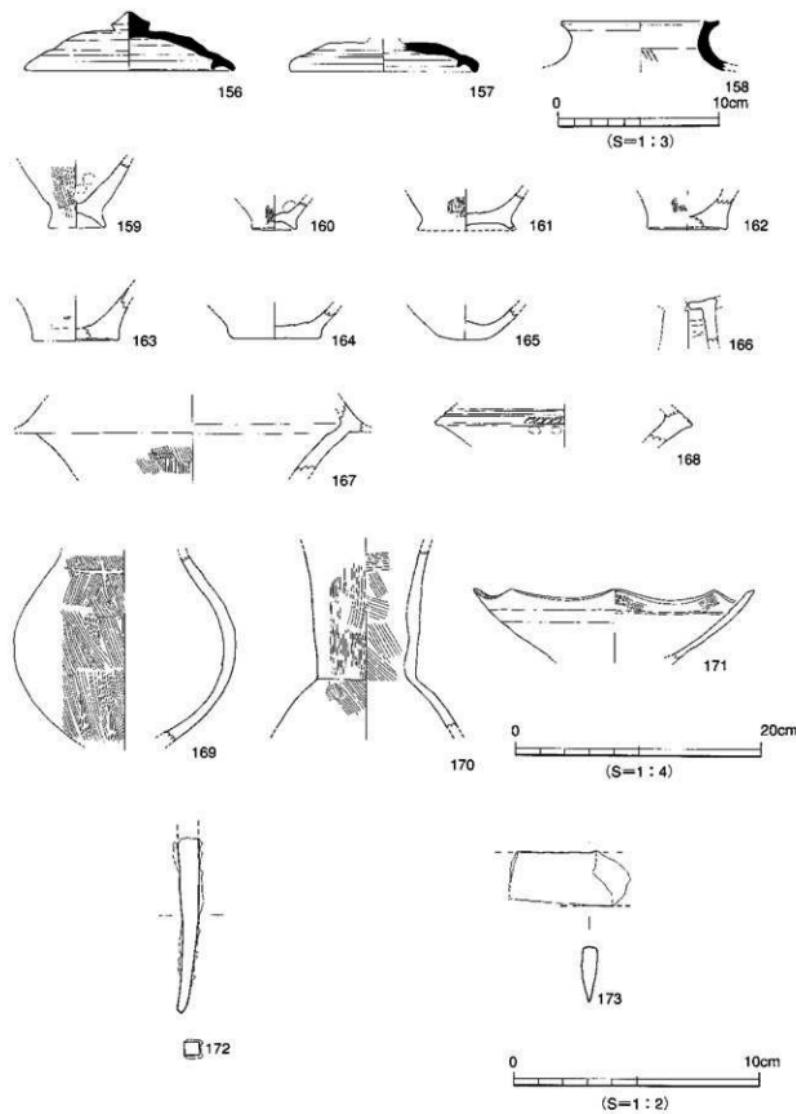
須恵器 (156~158) 156・157は壺蓋。156は口径12.6cmを測る。返りをもつ完形品である。天井部に摘み部をもち返りは口縁端部と同じ高さである。157は扁平な天井部と返りをもち、天井部の摘みは欠失している。返りは口縁端部よりは下がらない。158は壺の口縁部片。短く外反する口縁部の端面は水平で凹む。

弥生土器 (159~170) 壺159~163は底部片。159はくびれの上げ底で器壁は厚い。160はわずかにくびれる上げ底で器壁は薄い。161は上げ底。端部を欠失している外面にハケ目調整を施す。162はわずかに上げ底。外面にハケ目調整を施す。163は内外面にナデ調整を施す。164・165は壺底部。164は平底。165は丸底の底部片。166は高壺の脚部片。167・168は複合口縁壺の口縁部片で口端部を欠失している。168は拡張部に2条の凹線を巡らす。169は壺。口頭部と底部を欠失している胴部片である。外面にハケ、内面にナデ調整、外面頭部下にヘラによる「+」の記号を施す。170は長頭壺の口頭部から胴部にかけての残存である。内外面にハケによる調整を施している。

縄文土器 (171) 鉢形土器。口縁内面下部に1条の凹線を巡らす。

鉄製品 (172・173) 172は鉄釘。173は鉄刀の小片か。

遺構と遺物



第51図 その他出土地点不明出土遺物実測図

#### 4. 小結

本調査からは、縄文時代晩期から中世の遺構と遺物を検出した。遺構では、土坑5基、溝1条、性格不明遺構2基、古墳7基を検出し、遺物では縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、鉄製品が出土した。

縄文時代：遺構は検出されなかったが、2区から縄文時代晩期の浅鉢が1点出土した。資料は1点と少ないものではあるが、縄文時代晩期に調査地の東山古墳群の丘陵部において、生活が行われていたことを示す資料である。

弥生時代：前期の土坑を5基と溝1条を検出した。このうち2基の上坑には注目するものがある。SK101は、 $1.24 \times 0.72$ mを測る長方形土坑である。長軸と短軸の3方向に石組みを配し、出土遺物には鉄製品がある。SK102は、 $1.93 \times 0.54$ mを測る長方形土坑である。長軸と短軸の2方向に石組みを配し、出土遺物に完形の鉢形土器がある。このように、長方形の土坑に石組みを配する土坑の検出例は、東山古墳群4地調査地からSK4・SK5・SK13の3基の報告がある。SK4は $1.62 \times 0.77$ mを測る長方形の土坑に、長軸2方向に石組みを配し、出土遺物には弥生土器の小片がある。SK5は $1.43 \times 0.64$ mを測る長方形土坑に、長軸と短軸4方向に石組みを配し、出土遺物には弥生土器の小片がある。SK13は一部調査区外に統くが出土長 $1.30 \times 0.75$ mを測る長方形土坑には、検出した

さて、土坑のうちSK101からは鉄製釘1点、SK103からは鉄製釘2点が出土しているが、これらは出土状況が表土直下の埋土上部（上層）で、形式的に見ても古代以降の形状を呈し、近隣には中世遺構も存在しているために、土坑の築造期に伴うものではないと判断される。

としていたことを示す興味深い資料である。

古墳時代：古墳7基を検出した。7基のうち主体部構造は4基（20号・24号・25号・27号）が石室、2基（28号・29号）が土塙墓、1基（26号）は削平され周溝のみである。この中で24号墳の石室構造と29号墳出土品に興味深いものがある。

石室構造では、古墳時代後期の24号墳は標高44.80mに位置し、東山古墳群内では一番高い位置で検出された古墳である。石室構造は主軸方向が尾根筋に直行する形で岩盤を成形して墓壁を作り出す。松山平野でよく見られる石室構造は、奥壁は標高が高い方向に構築するが、24号墳では逆に羨道部が奥壁部より標高の高い位置に作られている。石室にはいるときには1.0mの段を降りて入室する状況になる。このように羨道部が標高の高い位置に作られ大きく段を降りて入室する構造は、古墳時代後期の横穴石室の構造を研究する上で貴重な資料となりうるものである。

出土遺物では、29号墳出土品に鉄鉢と鉄刀がある。鉄鉢は東西方向に主軸をもつ長方形の土塙墓から出土した。出土状況は、切先を東に向かって、刃部を床面に垂直に立てた状態で出土した。鉄刀は土塙墓の内側から出土した。鉄刀は先端部と柄の部分を欠失し「く」の字状に折り曲げている。

鉄鉢と折り曲げられた鉄刀出土は、松山平野では報告例のない大変貴重なものであり、松山平野における鉄製品の武具を研究していく上での基礎資料となるものである。

中世：1区SK101・102は岩盤を大きく削り取った様相を示す。今後、周辺遺跡から出土する石材に注目し出土資料の増加によりSK101・102の性格が明らかになると想える。

# 遺構一覧

凡例

遺物観察表

(1) 各記載について

法量欄 ( ) : 復元推定値

調整欄 土器の各部位名称を略記。例) 口→口縁部、頸→頸部、肩→肩部、胴→胴部、底→底部、  
环→環部、脚→脚部、天→天井部。

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記。

例) 石→石英、長→長石、密→精製度 ( ) 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~3) → 「1~3 mmの大石英、長石を含む」

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表1 溝一覧

溝 (SD)	地 区	断面形	規 模 (m) 長さ×幅×深さ	方 向	埋 土	出 土 遺 物	時 期	備 考
201	2	レンズ状	4.22×0.42×0.22		黒褐色土	弥生土器		

表2 土坑一覧

土坑 (SK)	地 区	平面形	断面形	規 模 (m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積 (m <sup>2</sup> )	埋 土	出 土 遺 物	時 期	備 考
101	1	長方	皿状	1.04×0.72×0.10 0.17				縄文晩期～ 弥生前半	
102	1	長方	皿状	1.93×0.54 0.77×0.30		黒褐色土 明黄褐色土	鉢形土器	縄文晩期～ 弥生前半	
103	1	円	レンズ状	2.70×2.10×0.53		黄褐色土		縄文晩期～ 弥生前半	
104	1	長方	逆台形状	1.15×0.74×0.23				縄文晩期～ 弥生前期	SX101に切られる
105	1	横円	皿状	1.64×0.73×0.13				縄文晩期～ 弥生前半	
201	2	長方	皿状	1.50×0.72×0.18			角錐	古墳時代 後期以降	27号墳の周溝を切る

表3 性格不明遺構一覧

特徴 (SX)	地 区	平面形	断面形	規 模 (m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積 (m <sup>2</sup> )	埋 土	出 土 遺 物	時 期	備 考
101	1	不整	不明	8.8×7.0×2.7		褐色土	土師器 須恵器 弥生上層	中世	埴輪
102	1	円形状	不明	5.4×2.4×3.2		褐色土		中世	
201	2	梅円	レンズ	2.29×0.59×0.19		黒褐色土 褐褐色土	弥生土器	弥生時代	

表4 24号墳 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	種類	法量 (cm)	形 態・施 文	調 整		色調 (内面)	胎 土 燒 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
1	环盖	II往 (12.7) 残高 3.1	口縁部は丸い。 内傾する立ち上りの端部は丸い。	回転ヘラケス 回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 ○		
2	环盖	II往 (14.8) 残高 3.4	II側部は尖り気味に丸い。 内傾する立ち上りの端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	淡青灰色	密 ○		
3	环身	口徑 12.7 高さ 4.0	短く伸びる受部、内傾する立ち上りが よりの端部は丸い。	②回転ナデ ③回転ヘラケス 2/3	回転ナデ	灰色	密 ○		23
4	环身	口往 12.4 高さ 4.0	扁平な底部に短い受部、内傾する 立ち上りがの端部は尖り気味に丸い。	①回転ナデ ②回転ヘラケス 1/3	回転ナデ	灰白色	密 ○		23

## 東山古墳群 6次調査

表5 24号墳 出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外側) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
5	环身	口径 12.9 残高 4.3	内側する立ち上がりに短い受部の 器壁は厚い。	回転ナデ 回転ヘラズリ	回転ナデ	灰色	密 ○		23
6	高杯	口径(13.0) 残高 3.9	やや外傾する口縁部、端部は尖り気 味に丸い。	回転ナデ 回転ヘラズリ	回転ナデ	灰色	密 ○	輪付着	
7	長頸壺	口径(15.3) 残高 12.3	大きく外反する口縁部の端部は肥 厚され角い。中位に凹線1条と幅広 の削り文を施す。	ヨコナデ ヨコナデ	ヨコナデ	橙色	長(1~3.5) ○		
8	壺	口径(23.0) 残高 8.0	短く外反する口縁部の端部は肥厚 され丸い。	ナデ タキ	ナデ 同心円文	灰色	右長谷(少) ○		

表5 24号墳 出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	鎌	茎部欠損	鉄製	8.8	1.5	0.4	7.60	木質付着	23
10	鎌	茎部欠損	鉄製	7.5	2.5	0.3	10.84	棘状の籠被	23
11	鎌	茎部欠損	鉄製	8.0	3.1	0.5	13.01		23
12	鎌	茎部欠損	鉄製	2.7	1.0	0.2	1.36		23
13	鎌	茎部	鉄製	2.4	0.5	0.4	1.53	木質付着	23
14	鎌	鎌身部欠損	鉄製	2.6	0.5	0.3	1.36	根巻(木質付着)	23
15	鎌	鎌身部欠損	鉄製	3.6	0.7	0.4	3.96	鐵維質	23
16	鎌	茎部先端	鉄製	2.0	0.4	0.2	0.78	植物質残る	23
17	鎌	茎部	鉄製	2.6	0.8	0.4	2.46		23
18	釘	頭部欠損	鉄製	4.4	0.6	0.5	3.79	木質付着	23
19	刀子	先端部欠損	鉄製	8.8	1.2	0.6	12.40	木質、底角が残る	23
20	刀子柄	柄	骨	4.1	1.3	0.3	0.88	鹿角柄	23

表6 24号墳 出土遺物観察表 装身具

(1)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)		
21	小玉	完形	ガラス	0.21	0.35	0.12	0.03		
22	小玉	完形	ガラス	0.27	0.38	0.10	0.06		
23	小玉	ほぼ完形	ガラス	0.38	0.50	0.16	0.10		
24	小玉	完形	ガラス	0.26	0.40	0.18	0.04		
25	小玉	一部欠損	ガラス	0.25	0.42	0.12	0.05		

## 遺物観察表

24号墳 出土遺物観察表 装身具

(2)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)		
26	小玉	完形	ガラス	0.21	0.35	0.10	0.03		
27	小玉	ほぼ完形	ガラス	0.30	0.40	0.10	0.07		
28	小玉	完形	ガラス	0.25	0.48	0.20	0.07		
29	小玉	完形	ガラス	0.30	0.50	0.18	0.10		
30	小玉	完形	ガラス	0.39	0.50	0.15	0.13		
31	小玉	完形	ガラス	0.30	0.40	0.12	0.06		
32	小玉	完形	ガラス	0.30	0.40	0.10	0.07		
33	小玉	不完形	ガラス	0.20	0.40	0.20	0.04		
34	小玉	不完形	ガラス	0.28	0.40	0.13	0.06		
35	小玉	不完形	ガラス	0.28	0.39	0.10	0.05		
36	小玉	不完形	ガラス	0.25	0.39	0.10	0.05		
37	小玉	不完形	ガラス	0.28	0.42	0.10	0.07		
38	小玉	不完形	ガラス	0.30	0.50	0.13	0.08		
39	小玉	不完形	ガラス	0.24	0.41	0.20	0.05		
40	小玉	不完形	ガラス	0.40	0.40	0.20	0.09		
41	丸玉	ほぼ完形	ガラス	0.58	0.75	0.28	0.35		
42	丸玉	完形	ガラス	0.57	0.78	0.15	0.50		
43	丸玉	完形	ガラス	0.54	0.69	0.20	0.37		
44	小玉	不完形	ガラス	0.25	0.25	0.10	0.05		
45	小玉	不完形	ガラス	0.20	0.35	0.10	0.03		
46	小玉	不完形	ガラス	0.20	0.40	0.18	0.05		
47	小玉	不完形	ガラス	0.28	0.40	0.13	0.06		
48	小玉	不完形	ガラス	0.30	0.44	0.20	0.06		
49	小玉	不完形	ガラス	0.25	0.42	0.10	0.07		
50	小玉	不完形	ガラス	0.21	0.34	0.10	0.04		
51	小玉	不完形	ガラス	0.20	0.36	0.10	0.03		
52	小玉	不完形	ガラス	0.21	0.38	0.15	0.04		

表7 24号墳 出土遺物観察表 装身具

(3)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)		
53	白玉	ほぼ完形	石	0.38	0.82	0.20	0.36		
54	菅玉	完形	碧玉	1.50	0.60	0.19	1.12		
55	勾玉	約1/2	水晶	1.80	0.80	0.18			

表7 24号墳周溝内 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
56	环身	口径(11.0) 残高 2.7	内側する立ち上がりの端部は尖り気味に丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 ○		
57	环身	口径(11.4) 残高 2.6	外上方に短く伸びる受部。内側気味に短い立ち上がり。	回転ナガ	回転ナデ	灰色	密 ○		
58	环身	口径(10.6) 残高 3.2	水平に伸びる受部。直立気味に短く伸びる立ち上がり。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 ○		
59	高环	口径(12.0) 残高 3.6	直立気味に伸びる口縁部の端部は尖り気味である。外側に船底の剥突文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 ○		
60	帯	口径(12.6) 残高 3.5	外側する口縁部、端部は肥厚される。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色	密 ○		
61	壺	口径(7.7) 残高 4.9	口縁部は外側して端部予前で内側気味に直立する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 ○		

表8 24号墳周溝内 出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
62	鎌	茎部欠損	鉄製	8.1	2.7	0.8	20.28		23

表9 25号墳 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
63	高环	口径(13.7) 残高 8.2	环部中位に1条の間線、脚部に2条の凹線。	①回転ナデ ②回転ナガ ③しづら痕 ④回転ナデ	④回転ナデ ⑤しづら痕 ⑥回転ナデ	暗青灰色	密 ○		24
64	長颈壺	残高 13.9	脚部中位に2条の凹線。	⑦-⑧回転ナデ ⑨回転ナデ ⑩ナデ	⑩回転ナデ ⑪ナデ	灰色	密 ○	袖付着	24

表10 25号墳 出土遺物観察表 装身具

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重さ(g)		
65	耳環	完形	銅製	2.6	2.9	0.6	16.13		24

表11 SK101 出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	依存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
66	釘	先端部欠損	鉄製	6.3	0.7	0.6	12.22	本貫付着	

遺物観察表

表12 SK102 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外側) 色調 (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
67	鉢	口径(11.1) 底径 10.4 器高 10.3	わざかに上げ底黒の底部。直立する1壁部の端部は尖り気味。上部と下部に凸凹を施す。		削減のため不明	墨緑のため不明	乳白色	長(1) ○	24

表13 SK103 出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
68	劍	頭部欠損	鉄製	6.50	0.50	0.60	6.49		24
69	劍	先端部欠損	鉄製	4.20	0.80	0.60	5.12		24

表14 SK101 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外側) 色調 (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
70	壺	口径(12.6) 底径 8.0 器高 3.9	外上方に伸びる口縁部の端部は尖り気味に丸い。	④回転ナデ ⑤回転糸切り	④回転ナデ ⑥ナデ	淡黄色	密 ○	黒斑	24
71	壺	口径 10.5 底径 5.9 器高 4.8	高台付の底部に外傾する口縁部。 端部は丸い。	⑦回転ナデ ⑧回転ヘラ切り	⑦回転ナデ ⑨回転ヘラ切り	黄褐色	密 ○		24
72	壺	底径( 7.4) 残高 2.4	高台付。	⑩ヨコナデ ⑪ナデ	回転ナデ	黄褐色	石・長(1~2) ○		
73	壺	底径 7.8 残高 2.5	直立に立ち上がる高台。	⑫ヨコナデ ⑬回転ヘラ切り	ヨコナデ	黄褐色	密 ○		
74	壺	底径( 7.0) 残高 2.1	高台付。	⑭ヨコナデ ⑮剥離のため不明	ヨコナデ	黄褐色	石・長(1~2) ○		
75	壺	底径( 6.6) 残高 1.4	高台付。	⑯ヨコナデ ⑰回転ヘラ切り	ヨコナデ	淡黄色	密 ○		
76	壺	底径( 8.0) 残高 2.2	やや凹む平底。	⑱ヨコナデ ⑲ナデ	ナデ	棕色	石・長(1~2) ○		
77	壺	底径( 6.6) 残高 1.9	高台付。	⑳ヨコナデ ㉑回転ヘラ切り	ヨコナデ	黄褐色	石・長(1~5) ○		
78	壺	底径( 7.4) 残高 1.4	平底。	㉒ヨコナデ	ナデ	黄褐色	長(1) ○		
79	壺	底径( 8.2) 残高 1.4	高台付。	㉓ヨコナデ	ヨコナデ	黄褐色	長(1) ○	黒斑	
80	皿	底径( 6.6) 残高 1.5	やや凹み気味の平底。	㉔ヨコナデ ㉕回転糸切り	ヨコナデ	淡黄色	密 ○		
81	皿	底径( 7.0) 残高 2.1	平底。	㉖ヨコナデ ㉗ナデ	ヨコナデ	淡黄褐色	密 ○		
82	皿	底径 7.0 残高 1.5	やや凹む平底。ヘラ切り底あり。	㉘ヨコナデ ㉙回転ヘラ切り	ヨコナデ	黄褐色	密 ○		
83	皿	口径 10.0 底径( 6.8) 器高 1.9	やや凹む平底。ヘラ切り底あり。	㉚ヨコナデ ㉛回転ヘラ切り	ヨコナデ ㉜ナデ	黄褐色	密 ○		
84	皿	底径( 6.8) 残高 1.5	平底。	㉝ヨコナデ ㉞ナデ	ヨコナデ	淡黄褐色	長(1) ○		

SX101 出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外側) 色調 (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
85	皿	底径( 5.6) 残高 1.3	平底。ヘラ切り痕あり。	⑤唇誠のため不明 ⑥回転ヘラ切り	ヨコナデ	淡黄褐色	良(1) ○		
86	皿	底径 6.0 残高 1.2	底部内外面は凹凸状。糸切り痕あり。	⑦ヨコナデ ⑧回転ヘラ切り	ヨコナデ	淡黄褐色	長(1) ○		
87	皿	底径( 6.0) 残高 1.2	平底。ヘラ切り痕あり。	⑨ヨコナデ ⑩回転ヘラ切り	ヨコナデ	黄褐色	長(1) ○		
88	皿	底径( 6.6) 残高 1.8	やや凹む平底。	⑪ヨコナデ ⑫回転ヘラ切り	ヨコナデ	淡黄褐色 黄褐色	良(1) ○		
89	皿	底径 6.0 残高 1.7	凸凹のある平底。	⑬ヨコナデ ⑭回転ヘラ切り	ヨコナデ	淡黄色	石(2) ○		
90	皿	底径( 6.0) 残高 2.0	平底。	⑮ヨコナデ+ナデ ⑯ナデ	⑰ヨコナデ ⑱ナデ	淡黄褐色	石・良(1) ○		
91	皿	底径( 6.0) 残高 1.6	やや凹み気味な平底。ヘラ切り痕あり。	⑲ヨコナデ ⑳同転ヘラ切り	ヨコナデ	褐褐色	石・良(1) ○		
92	皿	底径( 6.5) 残高 1.1	平底。糸切り痕あり。	㉑唇誠のため不明 ㉒回転糸切り		唇誠のため不明	黄褐色	石・長(1) ○	
93	皿	底径( 6.8) 残高 2.3	平底。	㉓ヨコナデ ㉔ナデ	ヨコナデ	淡黄色	砂粒 ○		
94	皿	底径( 6.1) 残高 0.8	平底。糸切り痕あり。	㉕唇誠のため不明 ㉖回転糸切り	ナデ	褐褐色	長(1) ○		
95	皿	底径( 5.6) 残高 1.9	平底。ヘラ切り痕あり。	㉗ヨコナデ ㉘同転ヘラ切り	ヨコナデ	淡黄褐色	石・長(1~5) ○		
96	皿	底径( 6.8) 残高 1.9	やや凹む平底。糸切り痕あり。	㉙ヨコナデ ㉚回転糸切り	ヨコナデ	褐褐色	石・良(1) ○		
97	皿	底径( 7.6) 残高 1.4	平底。ヘラ切り痕あり。	㉛ヨコナデ ㉜同転ヘラ切り	ヨコナデ	黄褐色	密 ○		
98	壺	底径( 5.8) 残高 1.8	断面三角形状の高台を張り付ける。	㉝ヨコナデ ㉞唇誠のため不明	ヨコナデ	黄褐色	長(1) ○		
99	三足付 土釜	口径 22.2 若高 24.6	口縁下部に凸巻を1条施す。	ナデ (指痕度)	㉟前後2本/cm ㉞唇誠のため不明	茶褐色	石・長(1~3) ○	釉付著 24	
100	壺	底径 9.0 残高 6.2	平底で扁平な剥部。	㉟回転ナデ ㉞ナデ	㉟回転ナデ ㉞剥部ヘラ刈	黄褐色	密 ○		
101	壺	口径(30.0) 残高 8.0	短く内湾する口縁部。外面に2条の凹線を施す。	ヨコナデ	㉟ヨコナデ ㉞唇誠のため不明	淡黄褐色	石・長(1~3) ○		
102	壺	口径 16.2 残高 4.1	短く外反する口縁部。	㉟ヨコナデ ㉞唇誠のため不明	㉟ヨコナデ ㉞唇誠のため不明	茶褐色	石・長(1~4) ○		
103	器台	口径(32.2) 残高 1.9	I II端部に波状文を施す。	ナデ	ナデ	淡黄褐色	石・長(1~6) ○		
104	壺	底径( 8.0) 残高 3.6	厚い底部。	唇誠のため不明	ハケ(8本/cm)	淡黄褐色	石・長(1~2) ○		
105	壺	底径( 6.0) 残高 4.2	底部は凹があり不安定。	唇誠のため不明	唇誠のため不明	茶褐色	石・長(1~4) ○		

## 遺物観察表

SX101 出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外面) 色調 (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
106	タコ型 壺	底径(8.2) 残高 6.7	平底で内湾する胴部。	④回転ナデ ⑥ナデ	ヨコナデ	淡黄色	密 ○	黒斑	
107	埴輪	底径 18.0 残高 22.1	外傾しながら直線的に伸びる体部に タガを1条施す。			磨滅のため不明	磨滅のため不明		25
108	埴輪	底径 20.0 残高 23.1	やや傾く底部より直立する体部にタ ガを1条施す。	ハケ(5木/cm) ナデ(指頭痕)	ハケ(5木/cm)	黄橙色	長(1) ○		25
109	埴輪	底径(17.4) 残高 14.5	直立。気味に伸びる体部。			磨滅のため不明	磨滅のため不明		
110	埴輪	底径(16.3) 残高 12.9	内傾する立ち上がり。			磨滅のため不明	淡黄褐色	長(1) ○	
111	高坏	残高 11.1	脚中位に2条の沈線、3方向に2段の 透かし。	回転ナデ ④回転ナデ		灰色	密 ○	釉付着	
112	高坏	残高 12.1	脚中位に2条の沈線、3方向に2段の 透かし。	回転ナデ ④ナデ、捺り痕 ⑤回転ナデ		青灰色 灰褐色	密 ○		
113	高坏	底径 10.2 残高 5.6	「ハ」の字状に短く伸びる脚部。端 部は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 ○		
114	甕	口径 16.7 残高 14.8	外反する短い口縁部は端部で肥厚 され丸い。	④回転ナデ ⑥平行タタキ ⑦ナデ		灰色	石・長(1~2) ○	釉付着	25
115	甕	口径(16.8) 残高 8.4	短く外反する口縁部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 ○	釉付着	
116	甕	残高 5.9	外上方に伸びる口縁部。口縁部内 面に「」然難がかかる。	④回転ナデ ⑧平行タタキ ⑨タタキ		灰色	長(1~2) ○	釉付着	
117	甕	残高 10.2	2本1組の沈線3条。沈線間に波状 文を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	長(1~3) ○		25
118	器台	残高 7.8	長方形と円形の透かしと波状文を2 条施す。	回転ナデ	ナデ	灰色	密 ○		25
119	匙	残高 6.6	やや膨らんだ体部。	④回転ナデ ⑤目(け)ナデ ⑥ナデ		青灰色	石・長(1~2) ○		
120	壺	口径 9.4 底径 6.0	丸底。口縁部は尖り気味に丸い。把 手が付く。	ヨコナデ (指頭痕)		橙色	密 ○		25
121	环	口径(15.4) 底径 4.0	大きく外方向に聞く口縁部。端部は 尖り気味に丸い。高台付。			磨滅のため不明	磨滅のため不明		25
122	壺	口径(12.6) 底径(7.0) 残高 5.0	内湾しながら、外上方に伸びる口縁 部。端部は丸い。高台付。	④回転ナデ ⑤回転ナデ ⑥ナデ	回転ナデ	淡黄色	密 ○		25

表15 20号墳 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外面) 色調 (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
123	坏蓋	口径 9.2 器高 3.4	辺りは口縁端部より下方に伸びる。 摘みが付く。	④回転ナデ ⑤回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 ○		26
124	坏蓋	口径(21.4) 器高 4.0	扁平な大井部。口縁部はない。	④回転ナデ ⑤回転ナデ	ナデ ⑥回転ナデ	灰色	密 ○		
125	鉢	口径 16.0 器高 10.4	口縁部を外上方に聞く折り曲げる。 端部は丸い。丸底。	磨滅のため不明 (指頭痕)	磨滅のため不明 (ナデ)	褐色	石・長(1~5) ○		26

表16 20号墳 出土遺物観察表 装身具

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
126	耳環	ほぼ完形	銅 製	2.0	2.0	0.6	4.56		26

表17 27号墳 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
127	环身	口径 10.4 高さ 3.8	内湾気味に立ち上がる口縁部は 尖り気味に丸い。	素面のため不明	素面のため不明	灰白色	密△		
128	台付 环	口径 15.1 底径 10.2 高さ 4.7	断面四角形の高台が付く。 口縁部はやや尖り気味に丸い。	素面のため不明	素面のため不明	灰白色	密△		26
129	臺	口径(19.1) 残高 6.1	外湾する口縁部の端部は上・下に肥 厚させ段をなす。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○	輪付着	
130	台付 長頸壺	基部径4.7 残高 14.8	口縁部中位に2条胴部中位に1条の 凹線が巡る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○		26
131	壺	底部(13.2) 残高 7.1	厚い平底の底部。外傾する胴部。	①回転ナデ ②ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	密○		
132	环	口径 17.4 高さ 5.3	外傾する口縁部。端部を内側に丸く 肥厚させる。	ナデ (ケズリ)	ナデ	黄褐色 淡黄褐色	密○		26

表18 27号墳 出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
133	釘	先端部欠損	鉄 製	5.5	0.7	0.5	5.46		26
134	釘	先端部欠損	鉄 製	5.5	0.5	0.6	4.40	木質付着	26
135	釘	先端部欠損	鉄 製	2.8	0.5	0.3	2.27	木質付着	26
136	釘	頭部及び 先端部欠損	鉄 製	1.2	0.5	0.2	0.55	木質付着	26

表19 27号墳 墓蓋道部 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
137	坏蓋	口径 10.5 高さ 3.5	内傾する返り部は口縁端部より下 方に伸びる。	①回転ヘラケズリ ②回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○		26
138	坏身	口径 11.5 高さ 4.5	底部に粘土紐の巻き上げ痕が留着 に残る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○		
139	坏蓋	口径(10.2) 高さ 3.5	返りは口縁部より下方に伸びる。	③回転ヘラケズリ ④回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○		26
140	坏身	口径 11.1 高さ 3.2	返りは口縁部より下方に伸びる。	⑤回転ヘラケズリ ⑥回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○	輪付着	26
141	坏蓋	口径 10.2 高さ 3.0	返りは口縁部より下方に伸びる。大 きめの擦みが付く。	⑦回転ヘラケズリ ⑧回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○	輪付着	26
142	坏蓋	口径(11.2) 高さ 1.6	平坦な天井部。継み部欠損。	⑨回転ヘラケズリ ⑩回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○	輪付着	

遺物観察表

表20 27号墳周溝内 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
143	环盃	口径 10.5 底高 2.5	短く内傾する返り部は接地しない。	④円弧ハラケズ ⑤回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○	輪付若	
144	环盃	口径 16.8 底高 1.7	L字端部はわずかに開口し接地する。 輪み部上部は水平。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○	輪付若	26

表21 28号墳 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
145	盃	口径(12.9) 底高 2.9	L字端部は肥厚されない。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○		

表22 29号墳 出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	遺存状態	材質	法量			備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
146	鉄鉢	完形	鉄 製	37.1	2.7	0.4	173.8	
147	鉄刀	身部	鉄 製	24.4	2.4	0.4	83.1	

表23 SD201 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
148	甕	口径(22.8) 底高 10.5	L字端部は折り曲げ端部の断面は「つ」字状。	④ヨコナデ ⑤ハケ(7本/cm)	②ヨコナデ ⑥ノケ(5本/cm)	黄橙色 淡黄橙色	長(2~3)○		
149	壺	底部 5.0 底高 12.9	平底。外傾しながら内窪して立ち上がる脚部。	磨滅 一部ハケ(7本/cm)	④ナデ上げ ⑤指痕痕	明褐色	長(2~3)○		
150	雷白	底高 8.1	2段の円孔を8方向に施す。	ハケ(7本/cm)	ハケ(7本/cm)	黄橙色	右長(0.5~1.5)		

表24 SK202 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
151	皿	口径 9.0 底径 6.5 底高 1.7	平底。L字端部は尖り気味に丸い。	④ヨコナデ ⑤回転系切入痕	ヨコナデ	黄橙色	密○		
152	皿	口径 8.7 底径 5.8 底高 1.5	平底。口端部は丸い。	④ヨコナデ ⑥回転系切入痕	ヨコナデ	淡黄橙色	密○		
153	皿	口径 9.3 底径 7.0 底高 1.6	平底。底部内外面に凹凸あり。	④ヨコナデ ⑤回転系切入痕	ヨコナデ	黄橙色	密○		
154	皿	口径 8.7 底径 5.5 底高 2.0	やや凹む平底。口端部は丸い。	④底端のあわ木痕 ⑤回転系切入痕	ヨコナデ ナデ	淡黄色 淡黄橙色	右長(1~2)○		
155	皿	口径 8.6 底径 6.0 底高 1.5	平底。口縁手前にナゲによる段が現られる。端部は丸い。	④ヨコナデ ⑥回転系切入痕	ヨコナデ	淡灰黄色	密○		

表25 その他出土地点不明 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		(外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
156	环盃	口径 12.6 底高 3.7	返りのつく杯形。返りは口縁部と同じ高さ。	④円弧ハラケズ ⑤回転ナデ	回転ナデ	灰色	密○		

その他出土地点不明 出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (内面)	胎焼 土成	備考	図版
				外 面	内 面				
157	环	LH径 11.0 残高 1.8	返りは短く内傾する。摘み部を欠損。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 ○		
158	壺	口径 9.6 残高 3.0	短く外反するI字縁。腹部は水平で同心。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密 ○		
159	甕	底径 4.5 残高 5.5	くびれの上げ底。	⑨ハケ ⑩ナデ	ナデ (押圧痕)	明褐色	石・長(1~4) ○		
160	壺	底径(3.6) 残高 2.3	わずかにくびれる上げ底。	⑨ハケ ⑩ナデ	ナデ	明褐色 明褐色灰色	石・長(1~3) ○		
161	甕	残高 2.8	I字縁。底部端部欠損。	ハケ ナデ	ナデ	明褐色 暗灰色	石・長(1~3) ○		
162	甕	底径(6.4) 残高 2.6	わずかに上げ底。	⑨ハケ→⑩/a ⑩ナデ	ナデ	淡黄褐色 淡灰黄色	石・長(1~3) ○		
163	壺	底径(7.0) 残高 4.3	わずかに上げ底。	⑩コナデ ナデ	ナデ	淡黄褐色 暗灰色	長(1~2) ○		
164	壺	底径 6.5 残高 2.4	平底。	磨滅のため不明	磨滅のため不明	明褐色	石・長(1~4) ○		
165	甕	底径(4.2) 残高 1.8	丸底。	ナデ	ナデ	明褐色 淡褐色	石・長(1~3) ○		
166	高環	残高 3.5	柱部。	磨滅のため不明	磨滅のため不明	明黄褐色 黄褐色	石・長(1~4) ○		
167	壺	残高 5.9	複合口縁。	⑩コナデ ⑨ハケ(5本/a)→⑩コナデ	⑩コナデ	明褐色	石・長(1~3)		
168	甕	残高 2.7	口縁並要素部に2条の間縫と刻目を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄褐色	石・長(1~4) ○		
169	壺	残高 15.4	肩上部にヘラ記号「+」あり。	ハケ(7本/a)	ヨコナデ	明褐色 褐灰色	石・長(1~4) ○	黒斑	28
170	長颈甕	基部径(8.0) 残高 14.7	直立気味に伸びる口縁部。	ハケ(6本/a)	ハケ(6本/a)→ナデ	明褐色	石・長(1~6) ○		28
171	浅鉢	口径(22.8) 残高 5.8	I字縁内面に凹線1条。	磨滅のため不明	ナデ	褐色 灰褐色	長(1) ○	調文	28

表26 その他出土地点不明 出土遺物観察表 鉄製品

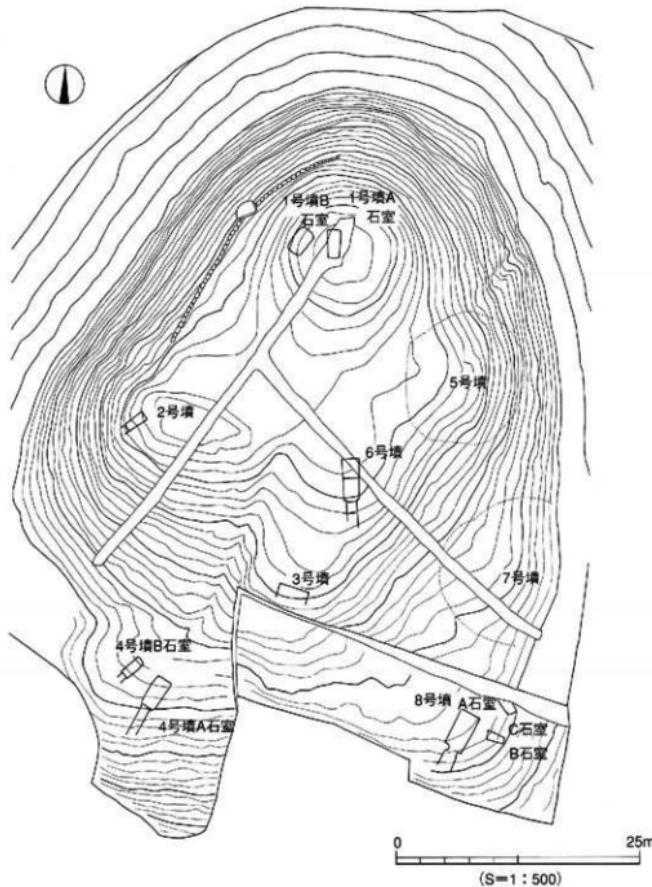
(1)

番号	器種	残存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
172	釘	頭部欠損	鉄 製	7.2	0.8	0.6	9.47		28
173	刀	身 部	鉄 製	4.7	2.3	0.6	11.95		28

## 第4章 東山鳶が森古墳群1次調査・2次調査、寄贈鉄製品

ここでは、昭和53年・54年に調査を行った東山鳶が森1次・2次調査地から出土した鉄製品の内、保存処理の関係から報告書に掲載されなかった34点と、平成元年に調査を行った東山古墳群3次調査の時に、地元住民の方から、東山古墳群内出土遺物として調査地に近接する倉庫に、保管されていた鉄製品26点を寄贈していただいた。

これら60点の鉄製品について整理を行い、遺物実測図と保存処理後の写真図版とX線写真を掲載する。



第52図 東山鳶が森古墳群1次・2次調査地遺構配図

1. 東山鷺が森古墳群1次・2次調査地出土品

1次・2次調査地からは、1号墳1点、3号墳7点、4号墳10点、6号墳4点、8号墳10点の計32点の鉄製品がある。

(1) 1号墳

主体部はA・Bの2つの主体部をもつ。主体部は、壊滅状態であり基底石数個と床面に玉石を一部分残す。出土遺物は須恵器の無蓋高環1点と短頭壹2点の報告がある。

1号墳からは鉄鎌1点である。1001は鉄鎌基部は欠失している。

(2) 3号墳

墳丘規模は、最大径12mを測る円墳である。主体部はほとんど壊滅状態であり、基底石数個と床面に玉石を残す状態である。出土遺物は人骨、土師塊、鋤先、鉄鎌7点、刀子5点、鎌1(不明2)点の報告がある。

3号墳からは鉄鎌4点、鉄刀1点、鎌1点、鋤先1点の計7点である。1002～1005は鉄鎌、両端部を欠失している。断面は長方形である。1006は鉄刀の小片。1007は鉄鎌の小片。1008は鋤先、断面は「V」字状になる。

(3) 4号墳

墳丘規模は、最大径13.7mを測る円墳である。主体部はA・Bの2つの石室をもつ1墳丘2石室の横穴式石室である。A石室は玄室長3.2m、奥壁幅1.8mを測り羨道部をもつ。出土遺物は須恵器、耳環、切子玉、丸玉、管玉、小玉、鉈、刀子、鉄鎌、鎌、鉄斧、馬具など多数ある。B石室は玄室長2.3m、床幅1.0mを測る。出土遺物は耳環、管玉、丸玉、小玉、刀子、鉄鎌など多数の報告がある。

4号墳からは、鉄鎌6点、刀子2点、鉄刀3点の計11点である。1009～1013は鉄鎌。1009は鎌により2本が付着している。1010～1012は断面長方形である。1013は基部木質が付着している。

(4) 6号墳

墳丘は、最大径19mが推定される円墳である。主体部は基底石を1段残し削石と川原石を敷いている。出土遺物は須恵器、銅鏡片、耳環、粟玉、切子玉、丸玉、小玉、刀子、鉄鎌、鎌、鉄がある。

6号墳からは、鉄鎌1点、鉄刀4点の計5点である。

(5) 8号墳

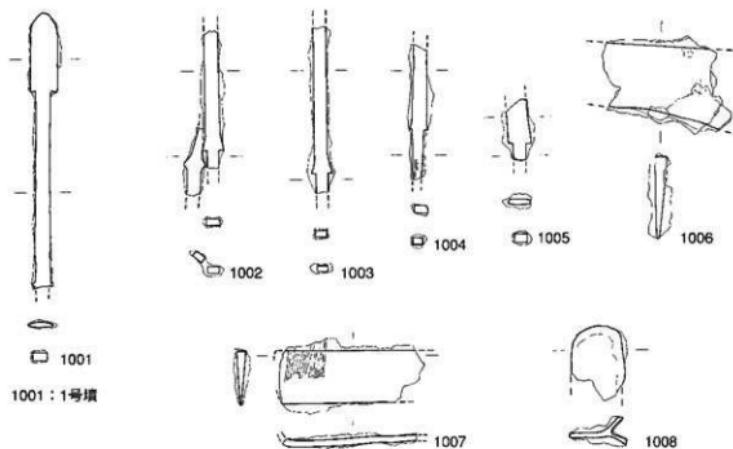
墳丘規模は、最大径14mを測る円墳である。主体部はA・B2つの石室をもつ。A石室は玄室長4.1m、玄室幅2.2mを測る。床面には角砾と玉石を敷く。出土遺物は須恵器、耳環、トンボ玉、粟玉、丸玉、鉈、刀子、直刀、鉄鎌、鉄斧、鎌など多数ある。B石室は、A石室に直行する形で検出した。規模は、全長2.8m、幅1.3mを測る。床面に玉石を敷く。出土遺物は須恵器、耳環、小玉、刀子、鉄片がある。

8号墳からは、鉄鎌4点、釘1点、刀子4点、鞘じり1点の計10点である。

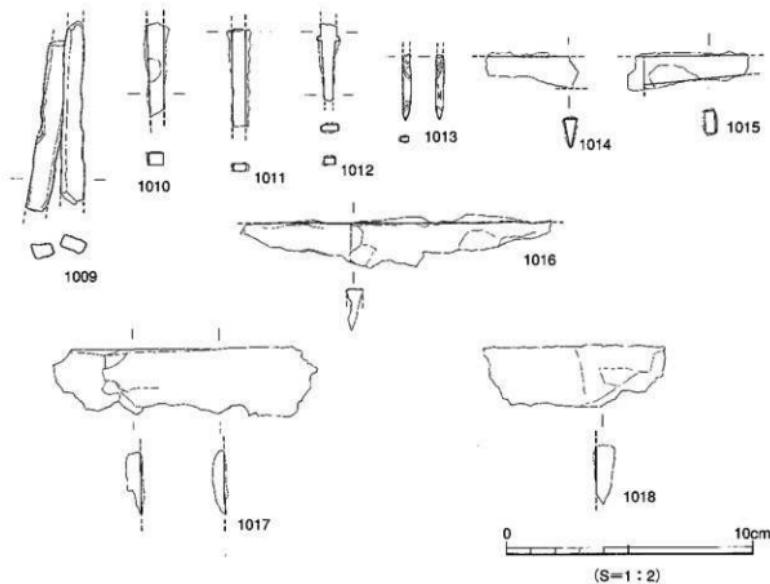
(6) 寄贈品(平成元年東山古墳群3次調査)

鉄鎌・刀子・鉄・馬具の23点である。

東山薦が森古墳群1次・2次

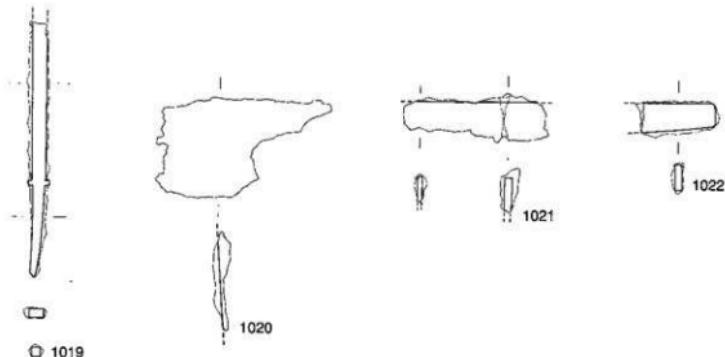


第53図 東山薦が森古墳群1次調査地1号墳・3号墳出土鉄製品実測図

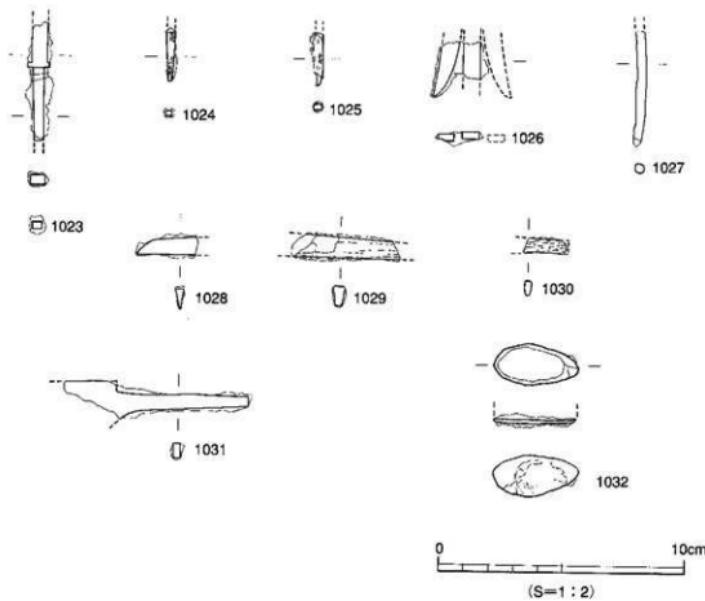


第54図 東山薦が森古墳群1次調査地4号墳出土鉄製品実測図

東山鳩が森古墳群1次・2次

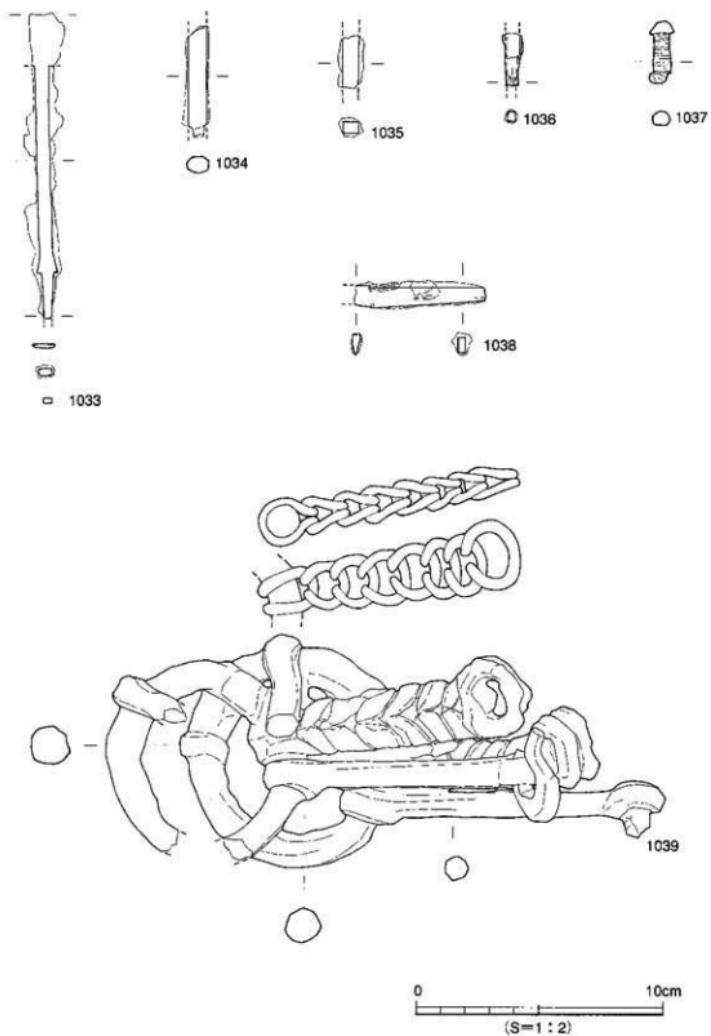


第55図 東山鳩が森古墳群1次調査地6号墳出土鉄製品実測図

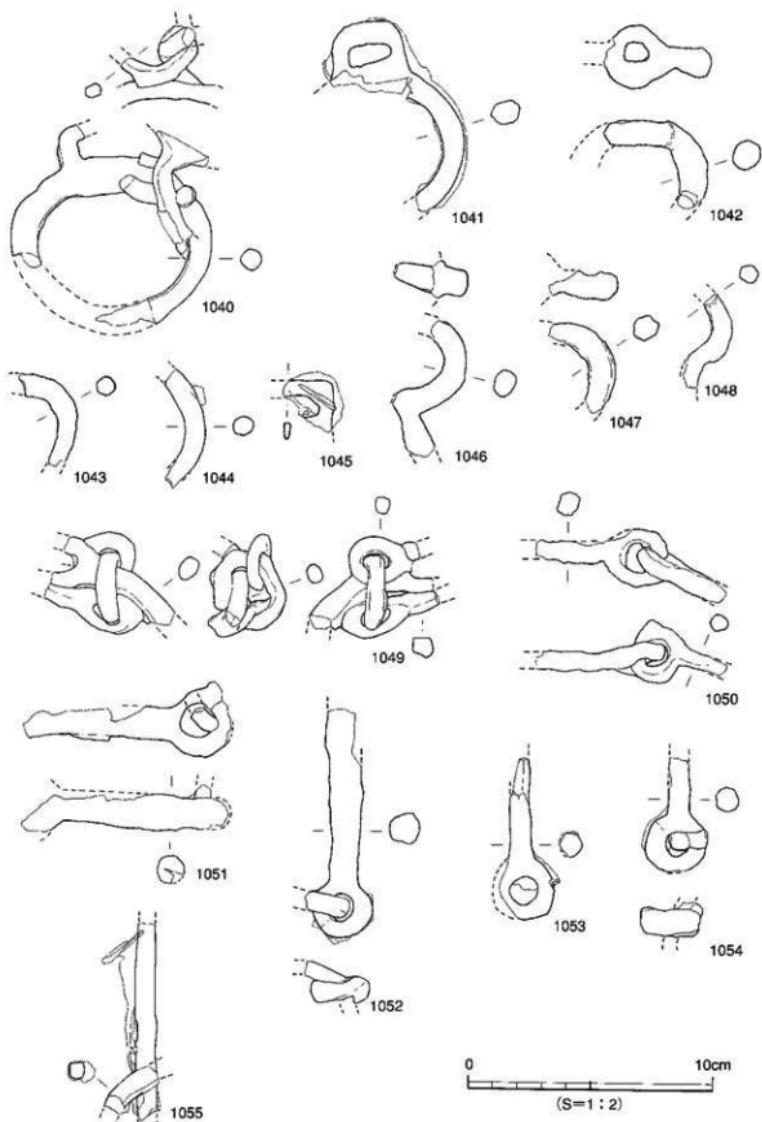


第56図 東山鳩が森古墳群2次調査地8号墳出土鉄製品実測図

寄贈品



第57図 寄贈鉄製品実測図(1)



第58図 寄贈鉄製品実測図(2)

## 遺物観察表

表27 東山薦が森古墳群1次調査地1号墳 出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	残存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1001	鐵	茎部欠損	鉄 製	11.3	1.1	0.4	10.21		29

表28 東山薦が森古墳群1次調査地3号墳 出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	残存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1002	鐵	範被部	鉄 製	5.6	0.9	0.3	8.58	2個体	29
1003	鐵	範被部	鉄 製	6.9	0.9	0.3	6.39		29
1004	鐵	範被部	鉄 製	5.4	0.9	0.7	5.46	木質付着	29
1005	鐵	範被部	鉄 製	2.5	1.1	0.6	2.06		29
1006	刀		鉄 製	4.7	4.0	1.0	25.84		29
1007	鐵		鉄 製	5.9	2.2	0.3	13.25	木質付着	29
1008	鉈先		鉄 製	3.1	2.3	0.7	7.95		29

表29 東山薦が森古墳群1次調査地4号墳 出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	残存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1009	鐵		鉄 製	7.6	1.5	0.6	17.59	2個体	29
1010	鐵		鉄 製	3.9	0.7	0.5	3.81		29
1011	鐵	範被部片	鉄 製	4.0	0.9	0.4	3.30		29
1012	鐵		鉄 製	3.1	0.9	0.6	2.40		29
1013	鐵	茎先端	鉄 製	2.6	0.4	0.4	0.45	木質付着	29
1014	刀子		鉄 製	3.7	1.4	0.4	8.39		29
1015	刀子	茎部	鉄 製	4.9	1.4	0.4	4.05	木質付着	29
1016	刀		鉄 製	12.5	2.2	1.3	36.06		29
1017	刀		鉄 製	10.7	2.8	0.6	31.43		29
1018	刀		鉄 製	7.4	2.4	0.9	25.74		29

表30 東山薦が森古墳群1次調査地6号墳 出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	残存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1019	鐵	鐵身部欠損	鉄 製	10.6	0.6	0.4	8.48	長茎	30
1020	刀		鉄 製	7.1	4.1	0.8	21.59		30
1021	刀子		鉄 製	5.6	1.9	0.7	8.77		30
1022	刀子	茎部	鉄 製	3.3	1.4	0.4	3.61		30

表31 東山薦が森古墳群2次調査地8号墳 出土遺物観察表 鉄製品

(1)

番号	器種	残存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1023	鐵		鉄 製	4.9	0.7	0.4	5.20	根巻痕	30
1024	鐵	茎部	鉄 製	1.2	0.3	0.2	0.61	木質付着	30
1025	鐵	茎部	鉄 製	2.2	0.5	0.4	0.47	木質付着	30

## 遺物観察表

表31 東山薦が森古墳群2次調査地8号墳 出土遺物観察表 鉄製品

(2)

番号	器種	残存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1026	鎌	施被部	鉄 製	2.3	0.7	0.3	2.46		30
1027	剣		鉄 製	4.8	0.4	0.4	1.62		30
1028	刀子		鉄 製	2.5	1.1	0.4	1.23		30
1029	刀子	茎 邵	鉄 製	4.4	1.2	0.5	5.07	木質付着	30
1030	刀子		鉄 製	1.8	0.6	0.3	0.88	木質付着	30
1031	刀子		鉄 製	7.4	1.5	0.3	7.43		30
1032	サヤシリ		鉄 製	3.5	1.7	0.6	4.98		30

表32 寄贈品遺物観察表 鉄製品

番号	器種	残存状態	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1033	鎌	先端欠損	鉄 製	13.6	1.4	0.6	20.85	木質付着	32
1034	鎌		鉄 製	4.6	0.8	0.8	6.57		32
1035	鎌		鉄 製	2.2	0.7	0.5	3.01		32
1036	鎌	茎 邵	鉄 製	2.2	0.8	0.4	1.69	木質付着	32
1037	鉢	完形	鉄 製	2.6	1.0	0.6	2.33		32
1038	刀子		鉄 製	5.2	1.1	0.8	6.95	木質付着	32
1039	轡		鉄 製	22.6	9.6	1.6	553		31
1040	轡		鉄 製	7.9	1.6	1.1	62.05		31
1041	轡	立間付銛板片	鉄 製	7.9	4.3	1.0	20.81		31
1042	轡		鉄 製	4.3	3.2	1.2	18.48		32
1043	轡		鉄 製	3.8	1.8	0.8	6.48		32
1044	轡		鉄 製	4.9	1.4	1.1	8.76		31
1045	轡		鉄 製	2.3	2.1	0.7	6.73		31
1046	轡		鉄 製	5.7	2.3	1.1	16.01		32
1047	轡		鉄 製	3.8	1.2	1.0	11.71		32
1048	轡		鉄 製	4.0	1.1	0.8	6.07		32
1049	轡		鉄 製	4.3	4.9	0.9	40.28		32
1050	轡		鉄 製	8.0	2.5	0.8	22.51		32
1051	轡		鉄 製	8.4	3.1	1.1	30.13		32
1052	轡		鉄 製	9.6	2.7	1.3	35.18		32
1053	轡		鉄 製	6.5	2.5	0.9	16.88		32
1054	轡		鉄 製	4.7	2.6	1.0	18.57		32
1055	轡		鉄 製	8.1	2.2	0.9	25.14		32

## 第5章 考察 愛媛県内出土の渡来系遺物 ～出作・市場南組窯型須恵器の型式分類と分布～

### 1. はじめに

日本各地では、近年の発掘調査によって渡来系遺物、特に陶質土器や朝鮮系軟質土器などが数多く出土し、それによって日本列島と中国大陆や朝鮮半島との交流が盛んに行われていたことが徐々に明らかになりつつある。そのため、近年は渡来系遺物が特別展や研究会・シンポジウムなどのテーマとして取り上げられることが多く(註1)、その背景には大陸や半島における発掘調査の進展や、それに伴ってお互いの地域間交流の研究の活発化が主な要因として挙げられる。

愛媛県内においても例外ではなく、こうした渡来系遺物はむしろ瀬戸内地方でも屈指の出土点数を誇っていることが最近の研究の結果で明らかとなっている。これまでに県内出土の陶質土器については定森秀夫氏(註2)・三吉秀充氏(註3)らによって、また非陶邑系須恵器については定森氏(註4)・梅木謙一氏(註5)・三吉氏(註6)によって研究が行われている。

本稿では、愛媛県内出土の渡来系遺物、特に4～6世紀の朝鮮半島系の土器と土製品について整理を行い、若干の考察を行うものである。具体的には、伊予市市場に所在する市場南組1号窯跡(第59図29)から出土した須恵器に関連した須恵器を「市場南組1号窯跡関連資料」(略称「市場関連資料」)として取り上げ、比較検討する。そのほか陶質土器・朝鮮系軟質土器・算盤玉形筋鉢車については章末の一覧表にて集成する。

なお「渡来系遺物」の範疇には、中国大陆や朝鮮半島で生産されて日本列島へ搬入された遺物のほかに、それらを模倣して、あるいは製作技術の伝播などの結果として列島内で製作されたものも含んでいる。

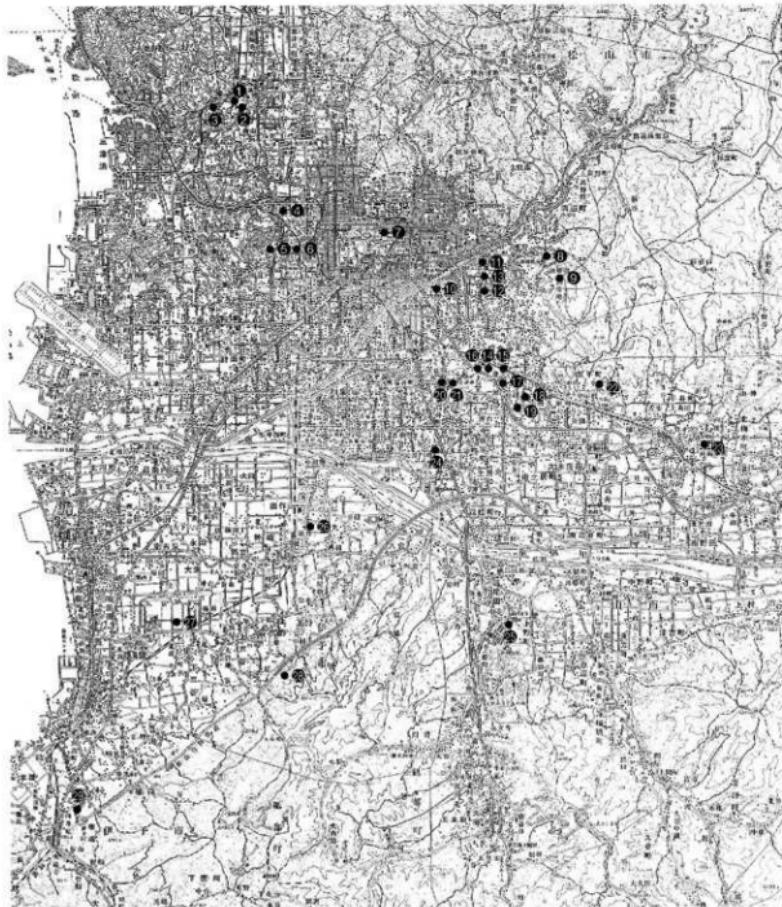
### 2. 伊予市市場南組1号窯跡

まず、市場南組1号窯跡について下記に簡単に紹介する。

本窯跡は松山平野南西部の標高約63mの丘陵尖端に位置し、伊予灘までの直線距離は北西方向へ約2kmである。北西方向には森川によって形成された沖積平野が広がり、遠く北方向には松山平野全体を眼下に望むことができる。窯跡発見の経緯としては、1991年に土地所有者の向井孝光氏によって整地作業中に偶然発見され遺物が採集された。その後長井數秋氏によって窯本体の確認が行われ(註7)、さらにその東約50mの地点で同時期と推定される窯跡を確認したことから、それぞれ1号窯、2号窯と命名されている。なお、ここで採集された遺物は1号窯の灰原または物原から出土したものと考えられている。

本窯跡の本格的な発掘調査は行われていないが、1・2号窯跡の中間地点を1995年に四国縦貫自動車道建設工事に伴い財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センターによって発掘調査が行われた(註8)が、窯跡及び窯跡に伴うと考えられる遺構は検出されなかった。その際に表土及び盛土内から須恵器片を探集し、報告書中では器台受部1点が掲載されている。これは長井氏が報告された遺物と同形態、同時期のものと推定される。

以上のように、現在のところ市場南組窯跡関連資料としては、1号窯跡の灰原または物原出土の向井氏所蔵資料及び長井氏所蔵資料、前述の県埋文センターが発掘調査し、現在愛媛県教育委員会が



第59図 遺跡位置図 S=1:100,000

- ①船ヶ谷遺跡2次調査地 ②船ヶ谷遺跡4次調査地 ③船ヶ谷向山古墳 ④美沢遺跡 ⑤松環古照遺跡
- ⑥辻町遺跡2次調査地 ⑦東雲神社遺跡 ⑧東野お茶屋台古墳群 ⑨烟寺竹ヶ谷古墳群 ⑩泰鷲小学校構内遺跡
- ⑪椿味高木遺跡3次調査地 ⑫椿味四反地遺跡5次調査地 ⑬椿味四反地遺跡7次調査地 ⑭筋達F遺跡
- ⑮筋達H遺跡 ⑯筋達L遺跡 ⑰福音小学校構内遺跡 ⑱北久米淨蓮寺遺跡3次調査地 ⑲旗立C遺跡
- ⑲東山古墳群4次調査地 ⑳東山古墳群5次調査地 ㉑五郎兵衛谷古墳 ㉒小野周辺 ㉓北井門遺跡
- ㉔土壇原古墳群 ㉕出作遺跡 ㉖片山・太郎丸遺跡 ㉗猿ヶ谷2号墳封土内 ㉘市場南組1号墓跡

所蔵する資料がある。総じて器種としては、高坏・器台・壺・瓶・甌または把手付鍋・甌・土鍤がある。土鍤以外はすべて破片である。

### 3. 出作・市場南組窯型須恵器

筆者はかつて市場南組1号窯跡出土須恵器すべてが非陶邑系須恵器ではなく陶邑系須恵器も含んでいた点に注目し、同窯跡で生産された須恵器の諸特徴を器種ごとに抽出し、他の2遺跡出土資料を援用することで陶邑系須恵器との区別を明確にした(註9)。その2遺跡とは、伊予郡松前町出作遺跡(註10)と伊予市片山・太郎丸遺跡(註11)であるが、同窯跡出土資料が本格的な発掘調査により得られた資料ではないため、本来の器種構成から欠落していると考えられる器種について2遺跡出土資料で補完することとした。

その結果、3遺跡出土資料のなかの非陶邑系須恵器をさらにⅠ類(市場南組1号窯跡で生産されたと推定される須恵器)とⅡ類(未確認の同系統窯の生産品と推定される須恵器)に分した。そして陶邑系須恵器はⅢ類と命名した。特にⅠ類は、これまでの研究史を踏まえ(註12)、「出作・市場南組窯型須恵器」(略称「出作・市場型須恵器」)と呼称することとした。

またこれらの非陶邑系須恵器の分布は、三吉氏らの研究により愛媛県内にとどまらず近畿・中国・九州地方にまで広がっていることが明らかとなっている。本稿では、筆者が未だ実見していない岡山県以西の資料については省き、以下に市場関連資料の各器種について特徴を記す。

### 4. 各器種の特徴

#### (1) 高坏(第60~62図)

高坏は、松山平野で31点、今治平野で3点、兵庫県で6点出土している。

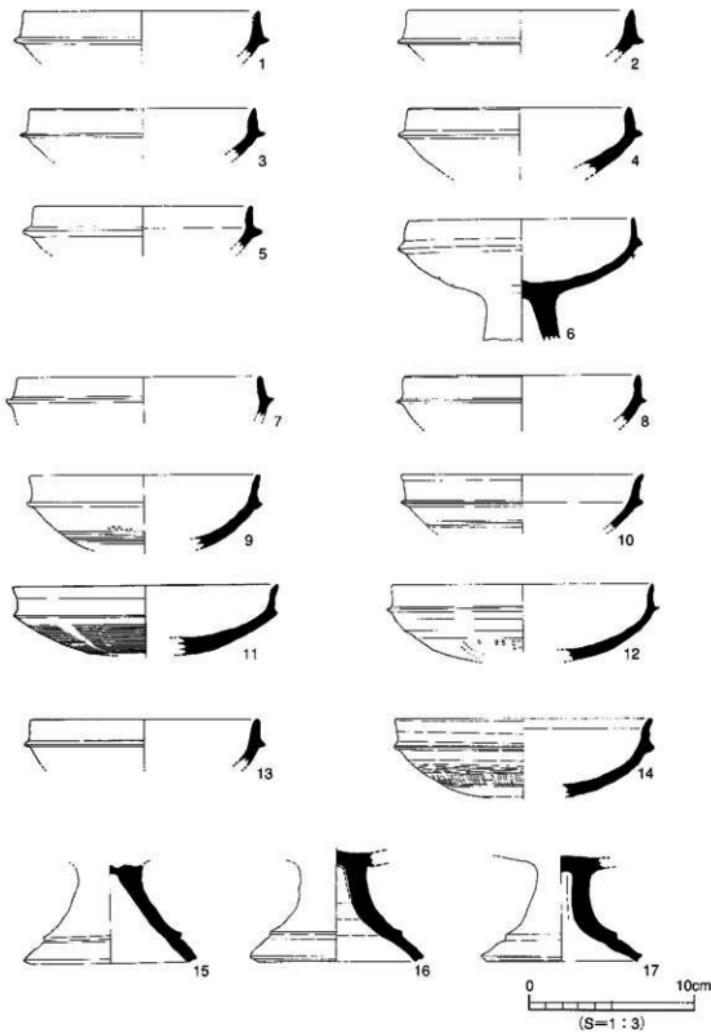
坏部は口縁端部の形態でA・B類の2種に分類できる。まず坏部Aは口縁端部が内傾または直立するもので、それに対し坏部Bは口縁端部が外傾する。端部は、前者は比較的丸くおさめるのに対して後者は尖り気味である。いずれも体部と口縁部が突堤によって界されており、一見有蓋に見えるが無蓋か有益かは不明である。調整は、いずれも坏部外面に格子タタキを施し、カキ日またはナデ消している。

坏部片は14点あり、そのうち坏部Aが8点(1~8)と坏部Bが6点(9~14)に分類できる。このうち船ヶ谷遺跡4次調査地出土の1~4は他の出土品に比べて厚手で、Ⅱ類の可能性がある。さらに9~12は坏部Bとしたが、口縁端部が直立したのち屈曲して外傾するもので、今後の出土例の増加によりさらに細分化できる可能性がある。

脚部は脚裾部の形態でa・b類の2種に分類できる。まず脚部aは基部からゆるやかに開き、裾部近くで大きく内湾し、端部は断面「コ」の字形におさめる。また基部から「ハ」の字形に直線的に開くものもある。一方、脚部bは基部からゆるやかに開き、端部を尖り気味に丸くおさめる。

脚部片は14点あり、脚端部の形態が不明な2点(18・28)を除き、脚部aが11点(15~17・19~26)、脚部bが1点(27)ある。坏部と同様に船ヶ谷遺跡4次調査地出土の2点(24・25)は、他の出土品に比べて基部が太く異質な印象を受けるので、Ⅱ類の可能性がある。

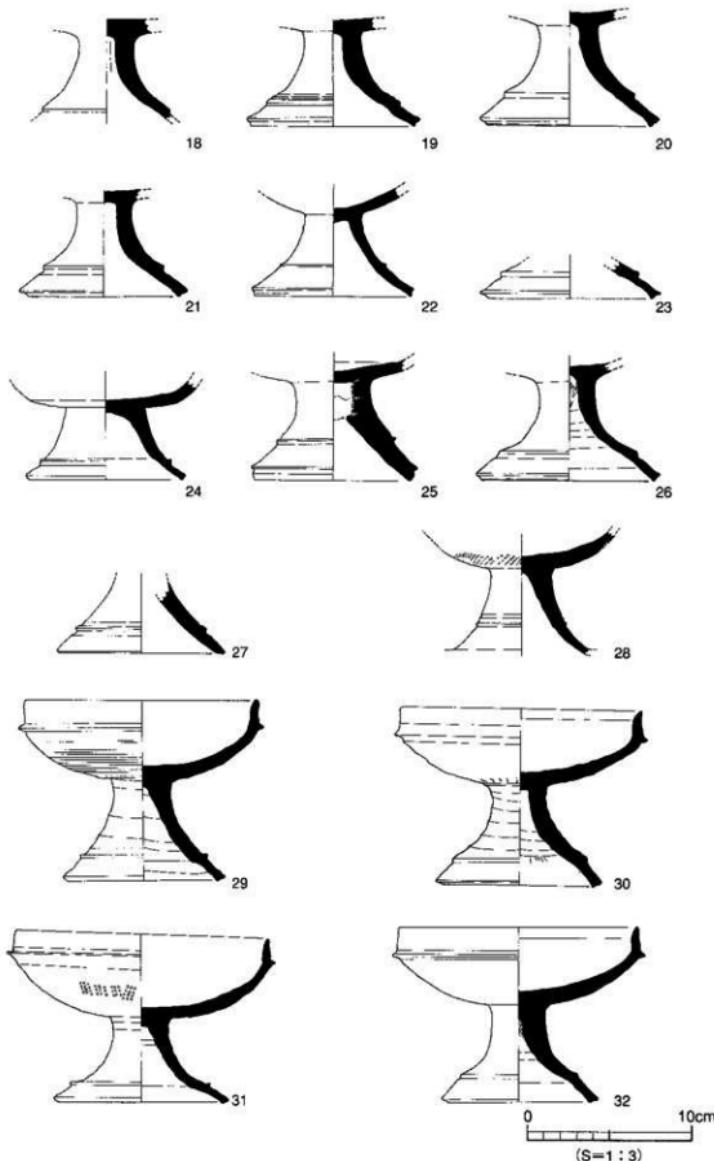
高坏の完形品は12点(29~40)あり、A a類が8点(29~36)、B a類が3点(37~39)、B b類が1点(40)ある。このうちB a類の2点(38・39)は脚端部の付近に一条の突堤を巡らせて端部



- 1~4 船ヶ谷遺跡4次調査地 5 東山古墳群5次調査地 6 五郎兵衛谷古墳  
 7 土壇原古墳群V遺跡7号墳 8 土壇原古墳群V遺跡8号墳  
 9 出作遺跡 10・15・16 片山・太郎丸遺跡 11 汗町遺跡2次調査地  
 12 土壇原古墳群16号墳 13 高橋湯ノ窪遺跡3次調査地 14 西岡本遺跡3次調査地  
 17 松環古照遺跡

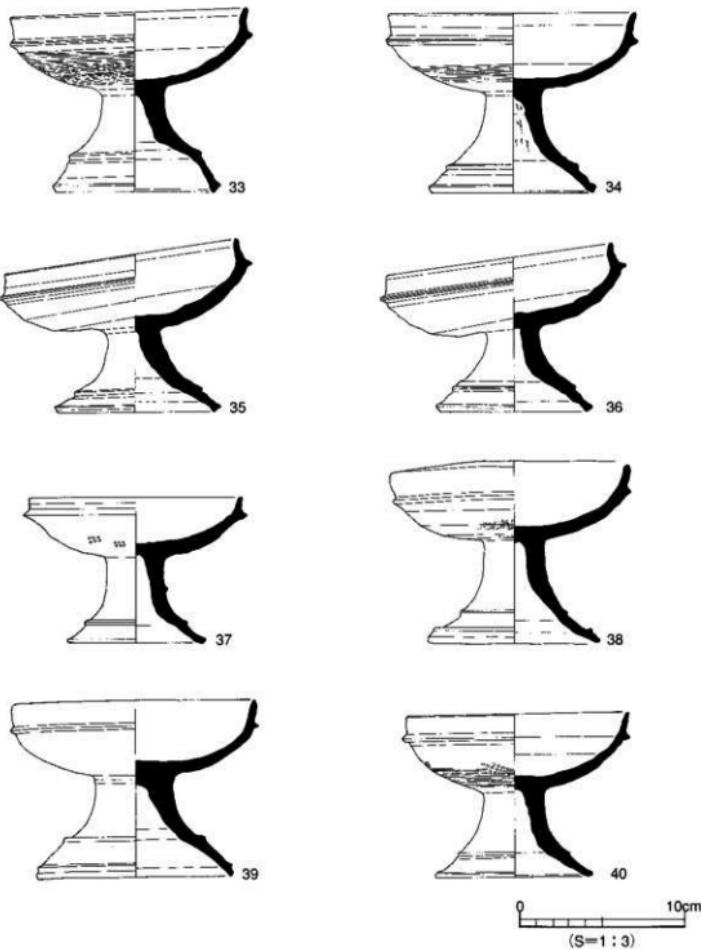
第60図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(1) 高坏(1)

愛媛県内出土の渡来系遺物



18・27 松環古窯跡遺  
19 土壇原古墳群11号墳  
20・21 土壇原古墳群11号墳  
22 土壇原古墳群1号シスト  
23 土壇原古墳群V遺跡7号墳  
24・25 船ヶ谷遺跡4次調査地  
26 高横湯ノ塗遺跡3次調査地  
27 北井門遺跡  
28 出作遺跡  
29・31 出作遺跡  
32 東山古墳群9号墳

第61図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(2) 高环(2)



33~36・40 西岡本遺跡3次調査地 37 出作遺跡 38 伊予市図書館蔵  
39 高橋湯ノ塗遺跡3次調査地

第62図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(3) 高坏(3)

は丸くおさめており、断面「コ」の字状の脚部分類aとは若干異なる様相を見せており、今後の細分化の可能性を残しておきたい。

### (2) 器台(第63~67図)

器台は大型品(1類)が松山平野で8点、西条平野で2点、岡山県で3点、中型品(2類)が松山平野で1点、小型品(3類)が今治平野で1点出土している。

器台は、すべて高环形器台と推定され、大型品(1類)と中型品(2類)・小型品(3類)がある。まず1類は口縁端部の形態でA・B類の2種に分類できる。環部片は5点(41~45)あり、そのうち環部Aが4点(41~44)と環部Bが1点(45)ある。また脚部片は4点(46~49)あり、基部から緩やかに開き脚端部付近で大きく屈曲して開く脚部a(46~48)と、基部から端部に至るまで直線的に「ハ」の字状に開く脚部b(49)に2分類できる。文様帶は基部から端部にかけて櫛描き波状文→二条突帯→櫛描き波状文→二条突帯→櫛描き波状文→二条突帯→無文帯→一条突帯、のパターンで構成され、端部はやや尖り気味か、丸くおさめる。波状文はほとんどの場合一区画に一条であるが、二条の場合もある(49)。透かしは長方形透かしを交互に配置する。1類の完形品は4点(50~53)あり、Aa類が2点(50・51)、Ab類が2点(52・53)ある。

次に2類は松山平野に完形品が1点ある(54)。環部は底部からやや渋曲気味に立ち上がり、端部を折り曲げ尖らせて開くA類となる。環部外面には格子タタキ痕がみられる。脚部は基部から直線的に伸びたのち端部近くで大きく外反し端部は丸くおさめる。1類と異なり、透かしを有せず環部と脚部の接合部に断面三角形の突帯を巡らしているのが特徴である。

3類は今治平野に完形品が1点(55)のみで、環部はゆるやかな塊状をなし、口縁端部を外方に折り曲げ尖らせて開くA類となる。環部外面には格子タタキ痕がみられる。脚部は基部から外反気味に開き、脚端部近くで大きく外反し端部は丸くおさめるa類となる。環部と脚部の境に断面三角形の突帯を有しない点と、方形透かしを有する点で2類とは異なる。

### (3) 壺(第68~79図)

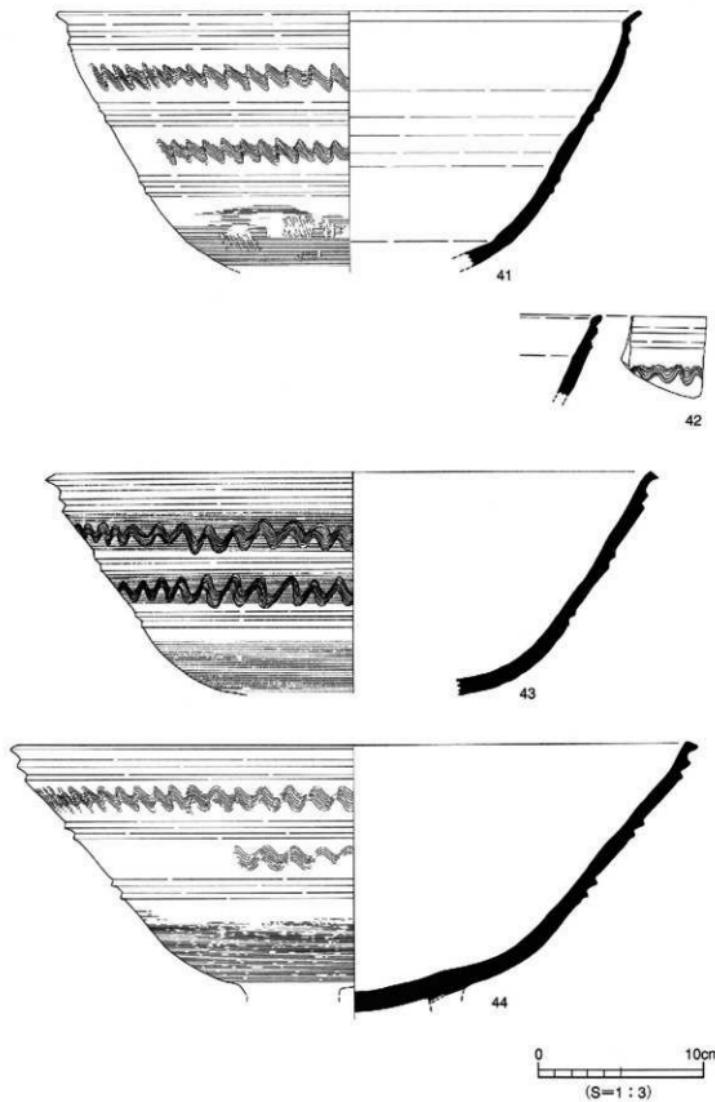
松山平野で50点(56~78、80~106)、大阪府で2点(79、大阪市瓜破遺跡出土資料)ある。大阪市瓜破遺跡出土資料は、北井門遺跡出土資料(60)と類似しているが、未報告資料のため図示していない。

全体形状や口縁端部の形態から5分類できるため、A~Eを付して分類を行った。壺Aは、松山平野に口縁部及び全体形状がわかる資料に7点(56~62)がある。56は頸部から直立気味に立ち上がり、外面に取り付く突帯付近で外反し、端部は尖り気味に丸くおさめる。頸部と肩部の境には、突帯が巡る。57・58はほぼ同形態で体部は球形に近い形態をなし、底部は丸底である。体部外面には格子タタキの痕跡を残し、内面は同心円の当て具痕を丁寧にナデ消す。62は頸部に波状文を一条施すものである。61は口縁端部が外反せず直立気味に丸くおさめるものである。

壺Bは(63~76)がある。口縁部は外反気味に立ち上がり、外面に取り付く突帯付近でやや内湾し、端部は断面「コ」の字形におさめる。明確な突帯ではないが、頸部と肩部の境には弱い段が巡る。

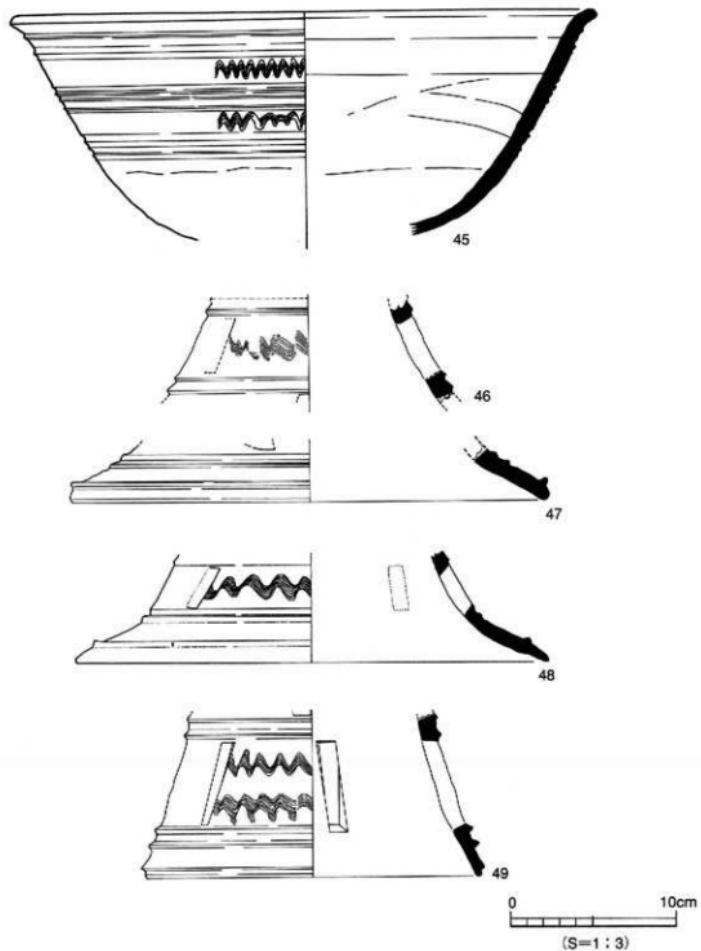
壺Cは松山平野に口縁部及び全体形状がわかる資料に12点(77・78・80~89)があるほか、大阪府八尾市八尾南遺跡資料1点(79)がある。全体形状はやや肩の張る扁球形を呈し、底部は平底状で、

考 察



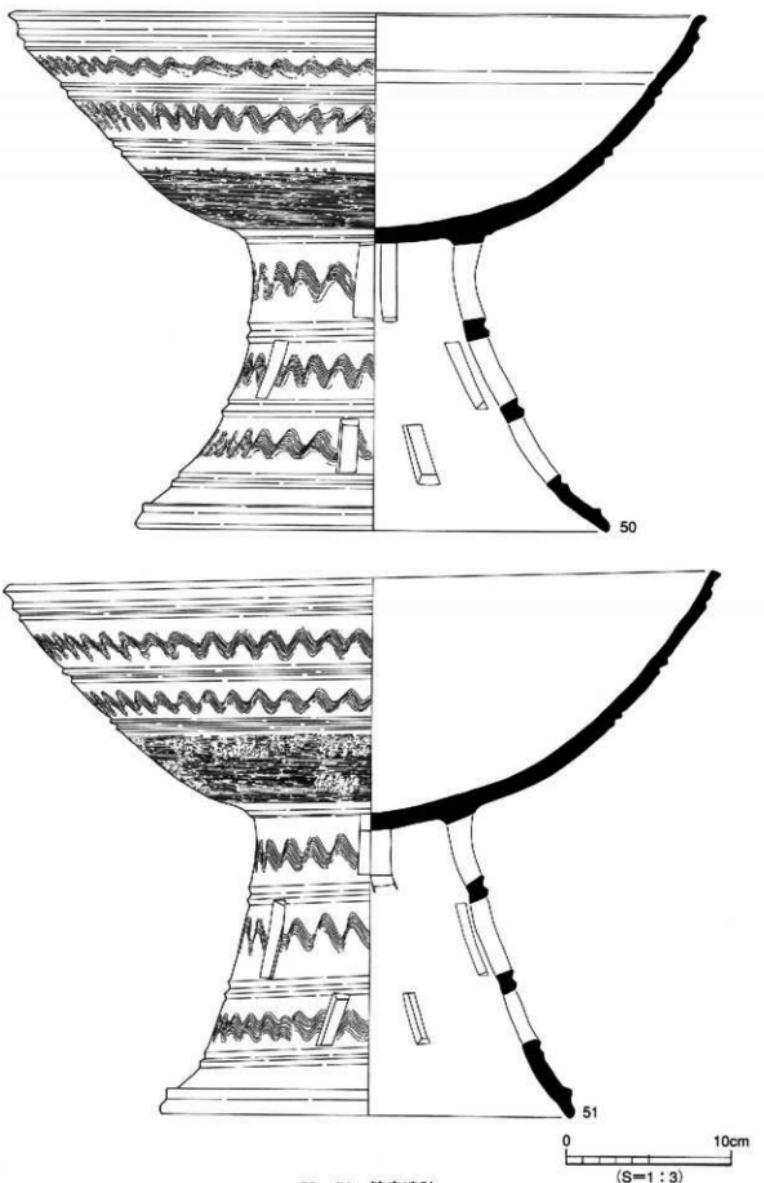
41 土塙原古墳群16号墳 42 船谷遺跡2次調査地  
43 祭ヶ岡古墳 44 津寺遺跡

第63図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (4) 器台 (1)



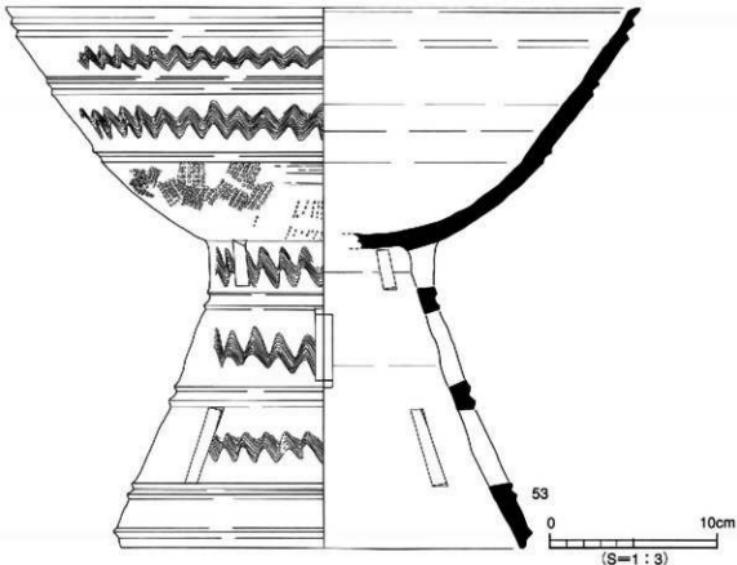
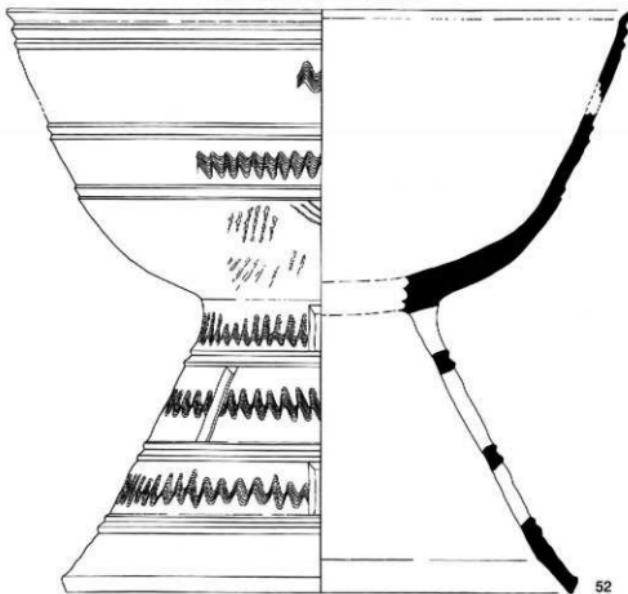
45 出作遺跡 46・47 土壇原古墳群17号墳 48 祭ヶ岡古墳  
49 船ヶ谷遺跡4次調査地

第64図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (5) 器台 (2)

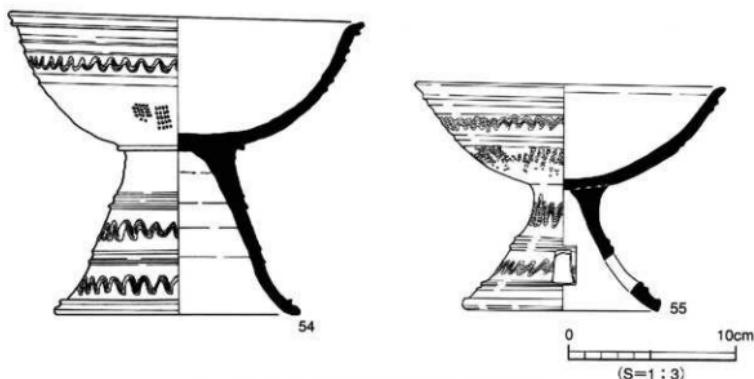


50・51 津寺遺跡

第65図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (6) 器台 (3)



52 東野お茶屋台9号墳 53 土塙原古墳群V遺跡6号墳  
第66図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(7) 器台(4)



54 出作遺跡 55 高橋湯ノ窯遺跡3次調査地  
第67図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(8) 器台(5)

全体に厚手のつくりである。頭部は「く」の字状に直線的に立ち上がり、端部は断面「コ」の字形におさめる。端部直下に一条の突帯が巡り、頭部との間に波状文を施す。頭部と肩部の境に突帯を有する。底部付近には格子タタキの痕跡が残り、胴部付近はカキ目調整により消している。肩部の二条の波状文はカキ目調整後に施され、沈線で区画する。内面は同心円の当て貝痕をナデ消す。80~82の3点は梅木氏により、調整段階において若干の差異が認められるものの同一工人の手によるものと推定されている(註13)。

壺Dは出作遺跡で1点出土している(90)ほか、松山平野内で15点(91~104)出土している。肩の張る肩部から頭部が内傾したのち大きく外反し、口縁部は短くほぼ直立し鉗状に突帯を張り出した二重口縁状をなす。端部は断面「コ」の字形におさめる。体部は格子タタキ整形後、カキ目調整を施す。肩部の張り具合から全体形状は甕ともいえるものであるが、ここでは壺として分類した。

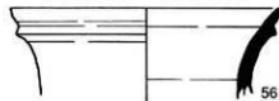
壺Eはいわゆる短頭壺と呼べるもので、出作資料に1点(105)、太郎丸資料に1点(106)ある。いずれも短い頭部をもち、端部は丸くおさめる。

#### (4) 鮎(第80図)

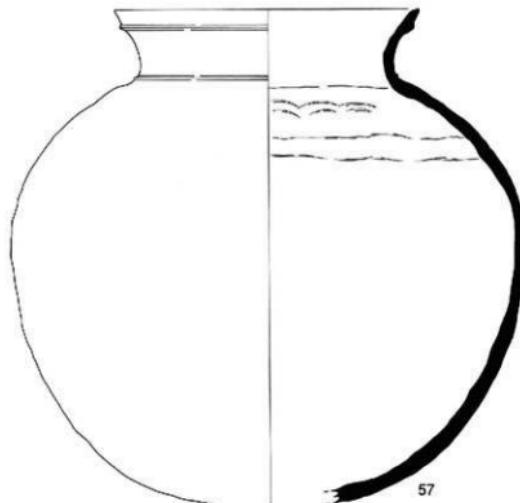
鮎は、完形品・破片を含め松山平野で7点(107~112・114)、兵庫県で1点(113)出土しており、いずれもやや肩の張る扁球形の体部を有する。口縁部はやや外反気味に立ち上がったのち外面の一条突帯からは屈曲して内湾気味に立ち上がり、端部はやや尖り気味におさめる。口縁部突帯以下に一条の波状文を施す。107~113の文様構成などは前述の壺Cとほぼ同一である。109は焼け歪んでいるため全体形状が把握しにくいが、口縁部を沈線と突帯で区画し二条の波状文を有する。肩部には一条または二条の波状文を施し、沈線で区画する。底部調整は110のみヘラケズリを施す他は、平行タタキ(107・108)のものと格子タタキ(109・111~114)のものとがある。

ただし114のみ体部が球形に近く、口縁部が直線的に立ち上がる点、円孔周辺にも波状文を有する点など不一致の部分がみられるため、II類の可能性がある。

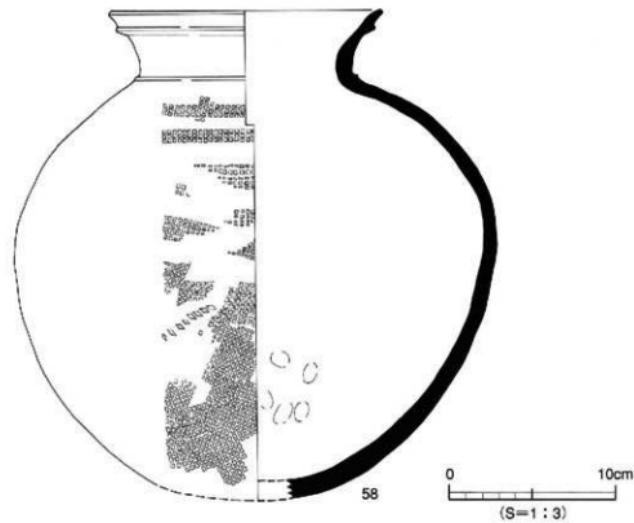
愛媛県内出土の渡来系遺物



56



57

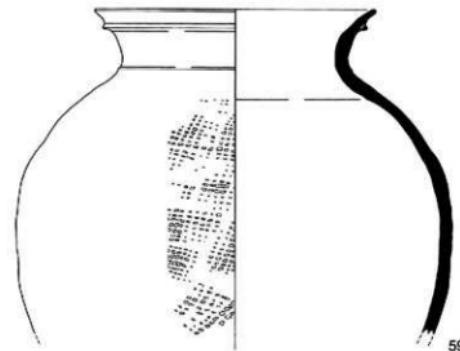


58

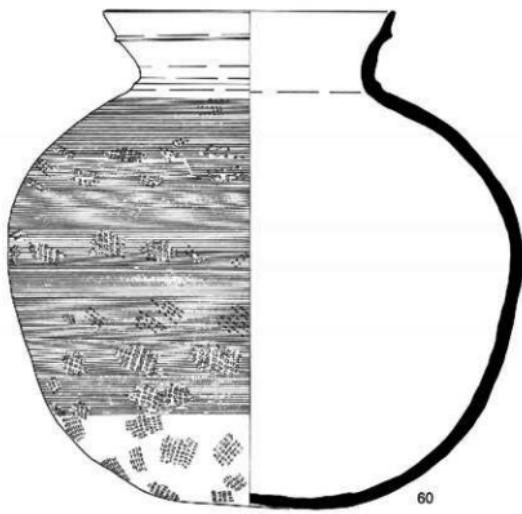
0 10cm  
(S=1:3)

56~58 出作跡

第68図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(9) 壺(1)



59

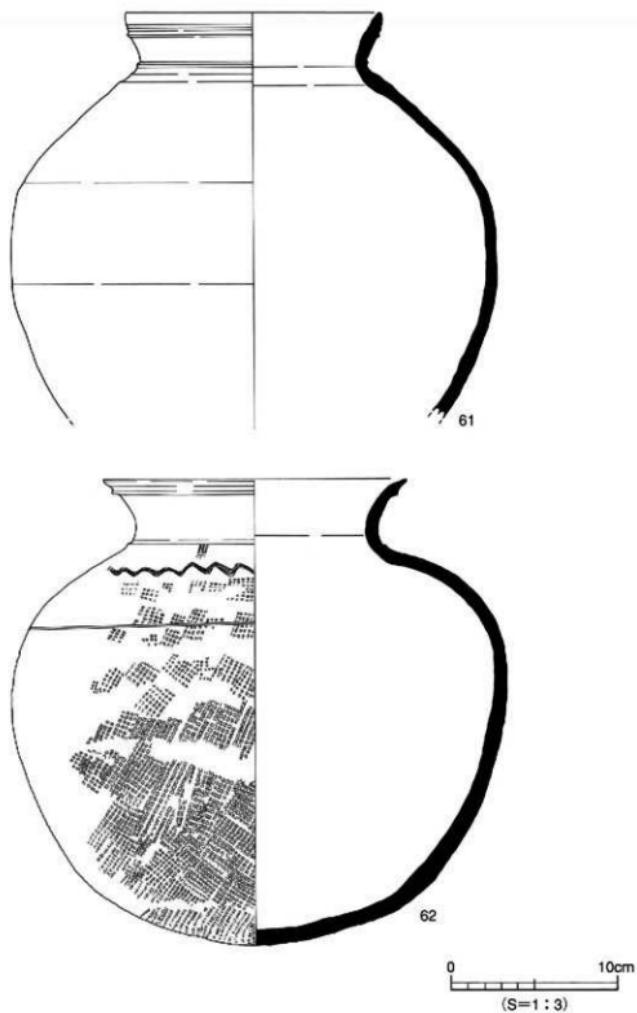


60

0 10cm  
(S=1:3)

59 筋連H遺跡 60 北井門遺跡

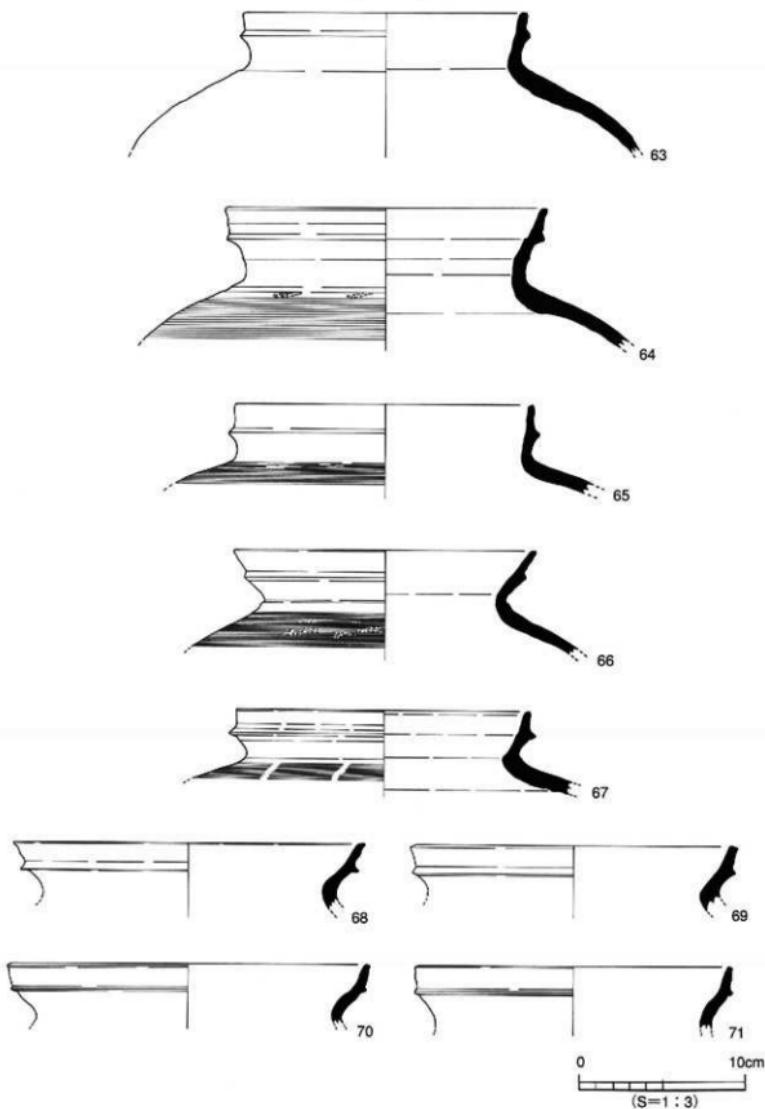
第69図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (10) 壺 (2)



61 出作遺跡 62 船ヶ谷遺跡4次調査地

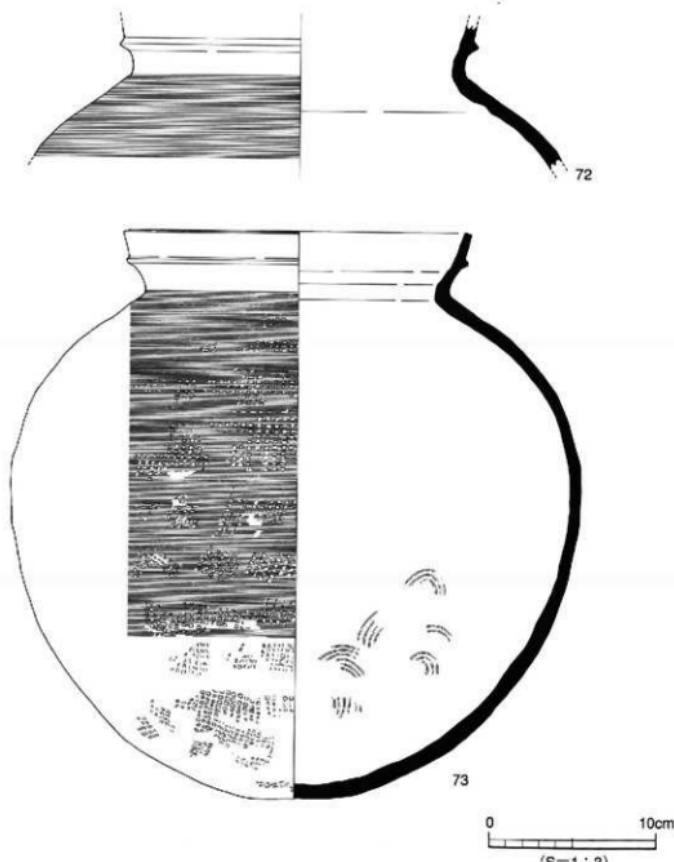
第70図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(11) 壱(3)

考 察



63・64 出作遺跡 65・66 船ヶ谷遺跡4次調査地  
67 北久米淨連寺遺跡3次調査地 68 旗立C遺跡 69 片山・太郎丸遺跡  
70・71 土壙原古墳群17号墳

第71図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(12) 壱(4)

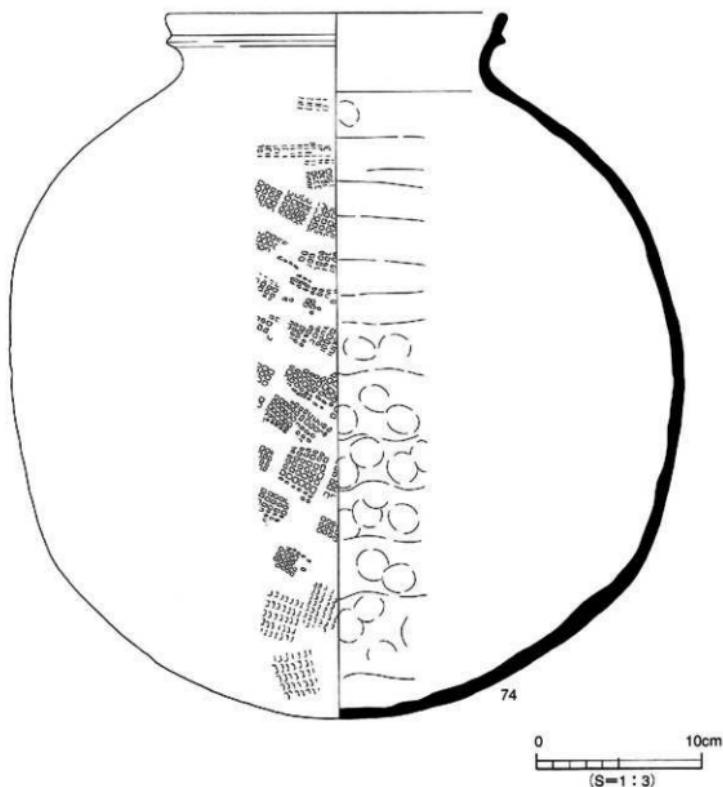


72 片山・太郎丸遺跡 73 船ヶ谷遺跡4次調査地

第72図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(13) 壺(5)

## (5) 壺または把手付鍋(第81・82図)

松山平野で口縁部～胴部片が4点(115～118)、把手部片が2点(119・120)出土しているほか、完形品が2点(121・122)出土している。いずれも体部外面には格子タタキ整形後に横方向のカキ目を施し、胴部中位付近の把手が取り付く位置に沈線が一条巡る。把手部は牛角状をなし、いずれも上面から切り込まれ下面まで貫通している。口径は20cm以上を測り、口縁部は折り曲げ外方に開き、端部に一条の沈線を施す。体部は横方向のカキ目を施し、内面はナデ調整されている。底部は平底である。以上から、把手付鍋という形態のものである。ただし、121・122ともに内外面に二次焼成の



74 福音小学校構内遺跡

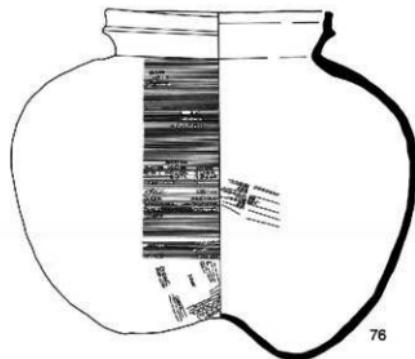
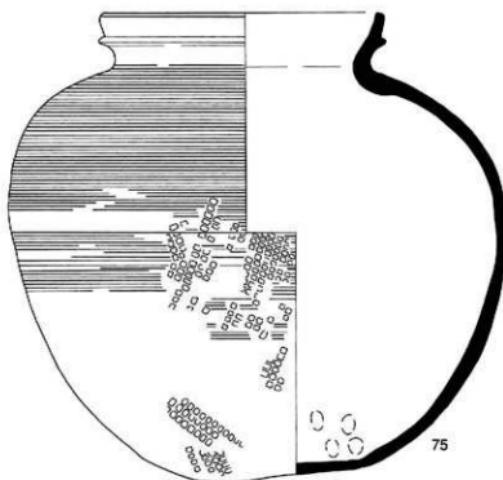
第73図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(14) 壺(6)

痕跡がみられないため、未使用か、鍋とは別の用途に使用されたものと推定される。

瓶は全体形状をうかがえる資料がないため確認はないが、市場南組1号窯跡出土資料から推定して、逆「ハ」の字状の直線的な体部に棒状の把手部をもつものと推定される。

#### (6) 把手付壺(第83図)

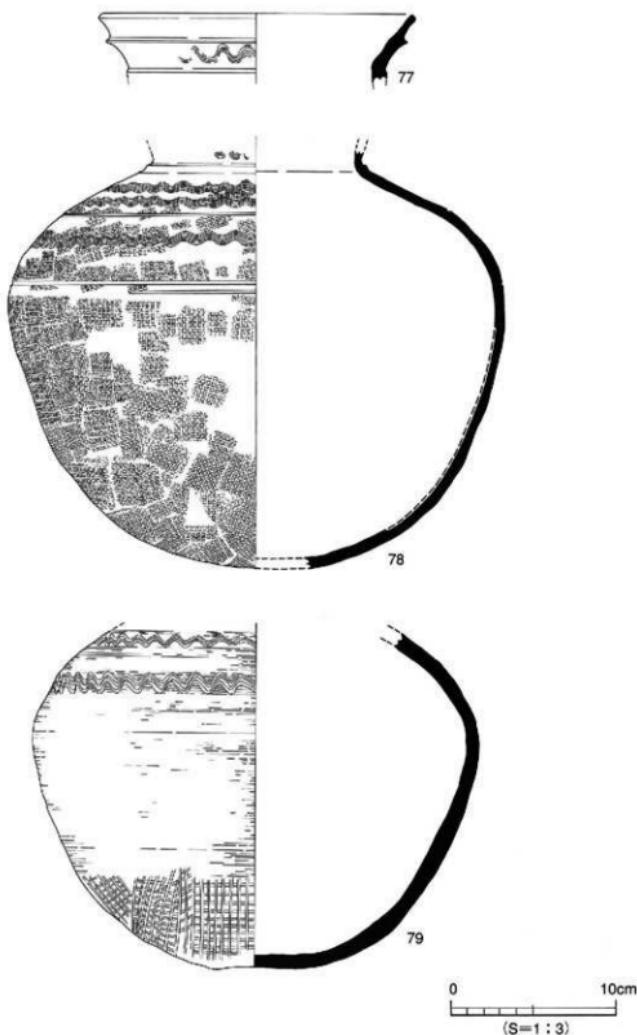
松山平野で8点(123~127・129~131)、今治平野で1点(128)出土している。そのうち123~128が口径10cm以上の大型品(1類)で、129~131が10cm未満の小型品(2類)である。いずれも平底の底部から緩やかに立ち上がり、口縁部付近でやや内湾し端部は尖り気味におさめる。突帯に挟まれた文様帶に波状文を一条施す。底部付近はケズリ痕跡を残す。把手の断面形態は1類が円形または楕円形(a)と扁平(b)があり、2類は円形または楕円形(a)のみである。



0 10cm  
(S=1:3)

75 福音小学校構内遺跡 76 東山古墳群9号墳

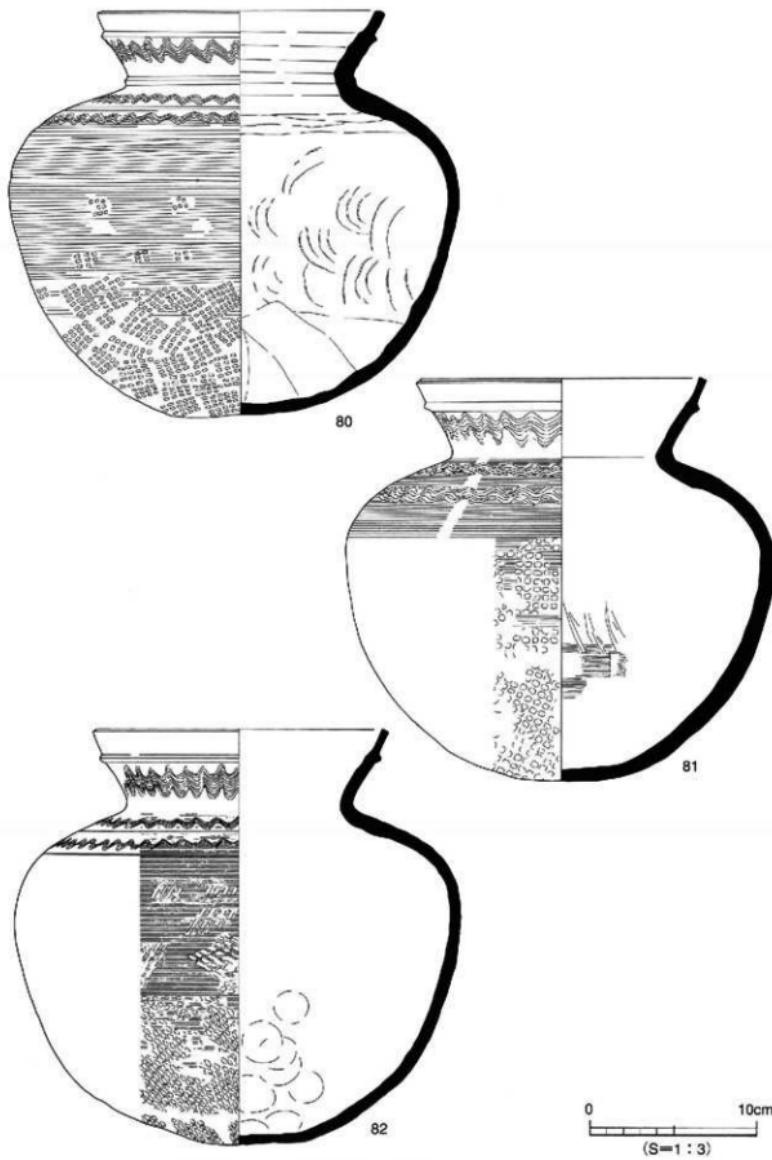
第74図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (15) 壺 (7)



77 土壇原古墳群V遺跡5号墳

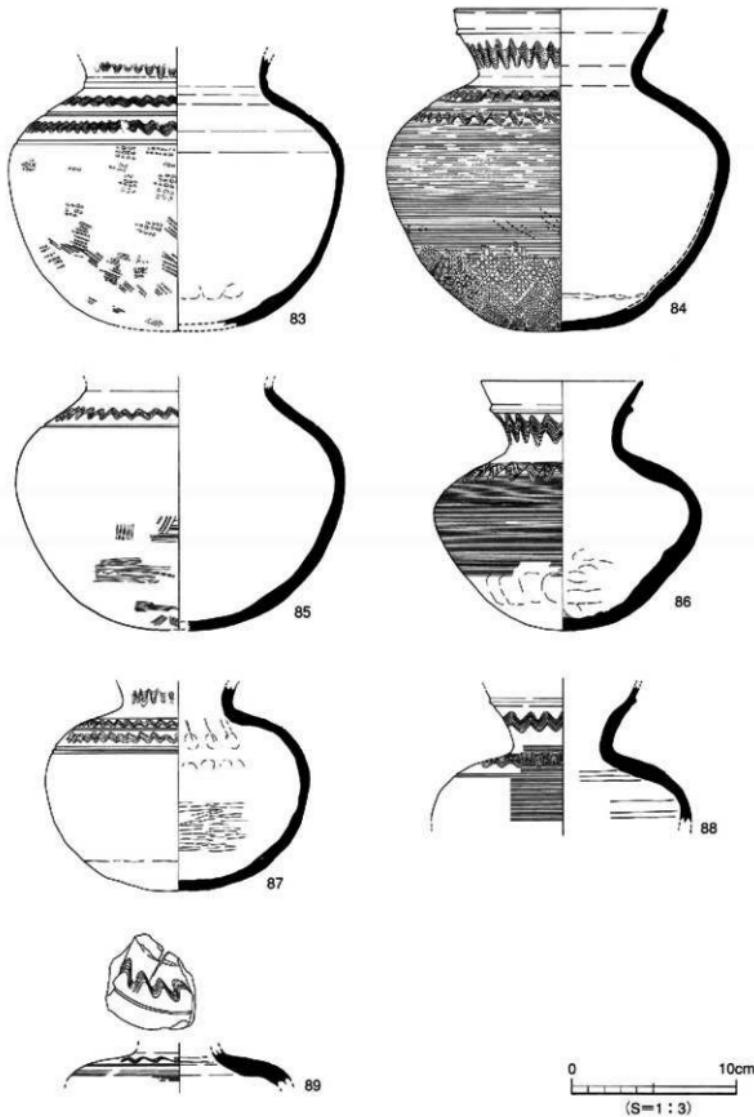
78 土壇原古墳群V遺跡12号墳 79 八尾南遺跡

第75図 市場南組1号窓跡関連資料実測図 (16) 壺 (8)



80 出作遺跡 81 東山古墳群5次調査地 82 東野お茶屋台9号墳

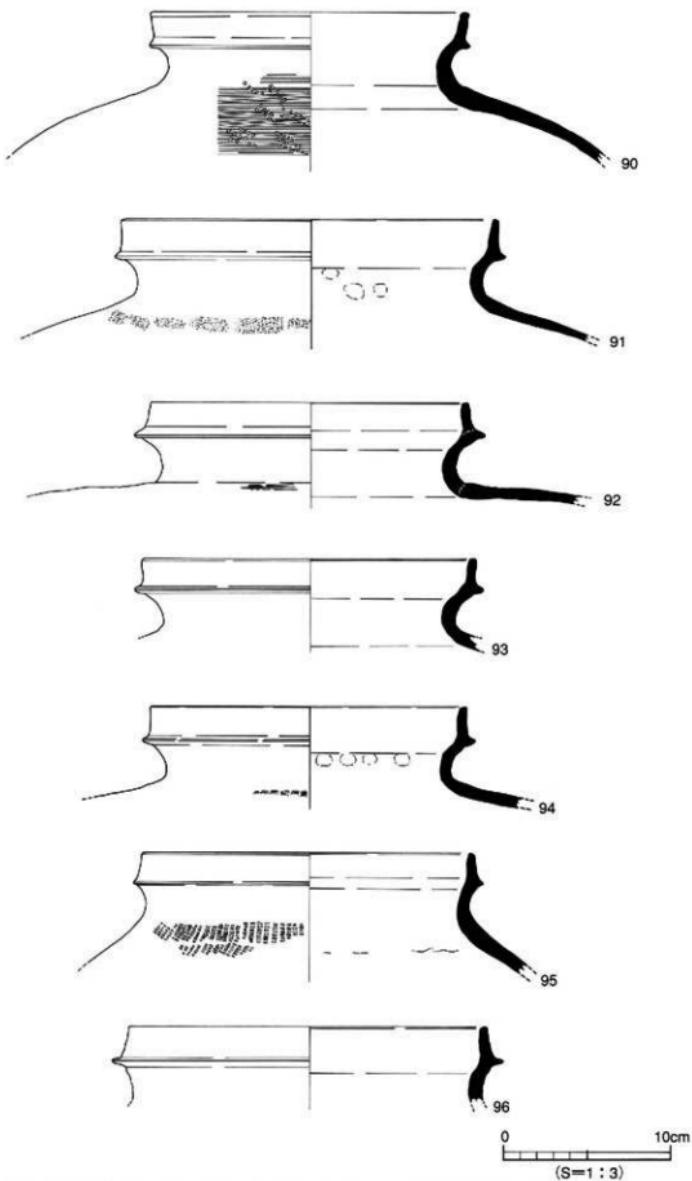
第76図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (17) 壺 (9)



83・86・87 船ヶ谷遺跡4次調査地 84 土原古墳群V遺跡9号方形周溝墓  
85 福音小学校構内遺跡 88 東雲神社遺跡 89 植味四反地遺跡5次調査地

第77図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(18) 壱(10)

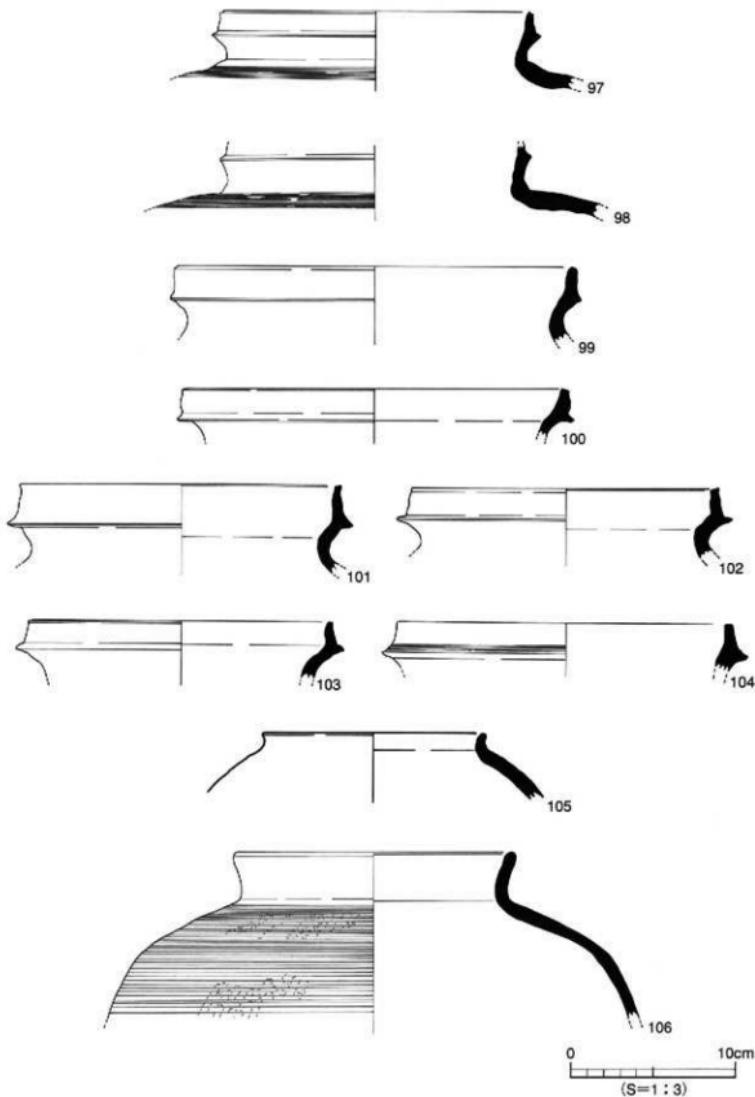
愛媛県内出土の渡来系遺物



90 出作遺跡 91・95 土壇原古墳群16号墳 92 土壇原古墳群V遺跡8号墳  
93 土壇原古墳群V遺跡5号墳 94・96 土壇原古墳群17号墳

第78図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (19) 壺 (11)

考 察



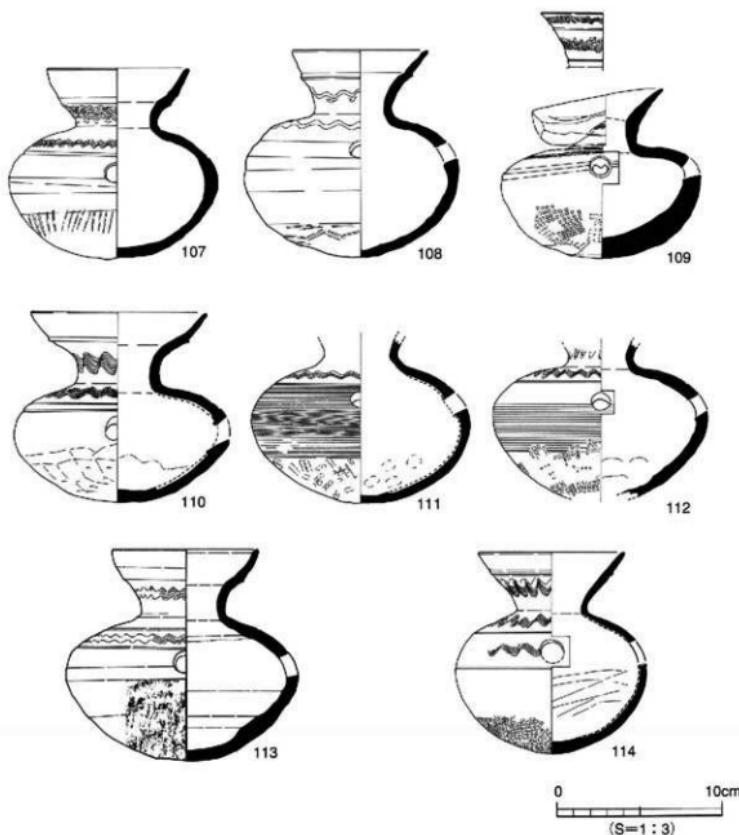
97・101・102 土壇原古墳群17号墳 98・99 土壇原古墳群15号墳

100 土壇原古墳群11号墳 103 土壇原古墳群V遺跡7号墳

104 煙寺竹ヶ谷5号墳 105 出作遺跡

106 片山・太郎丸遺跡

第79図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (20) 塚 (12)



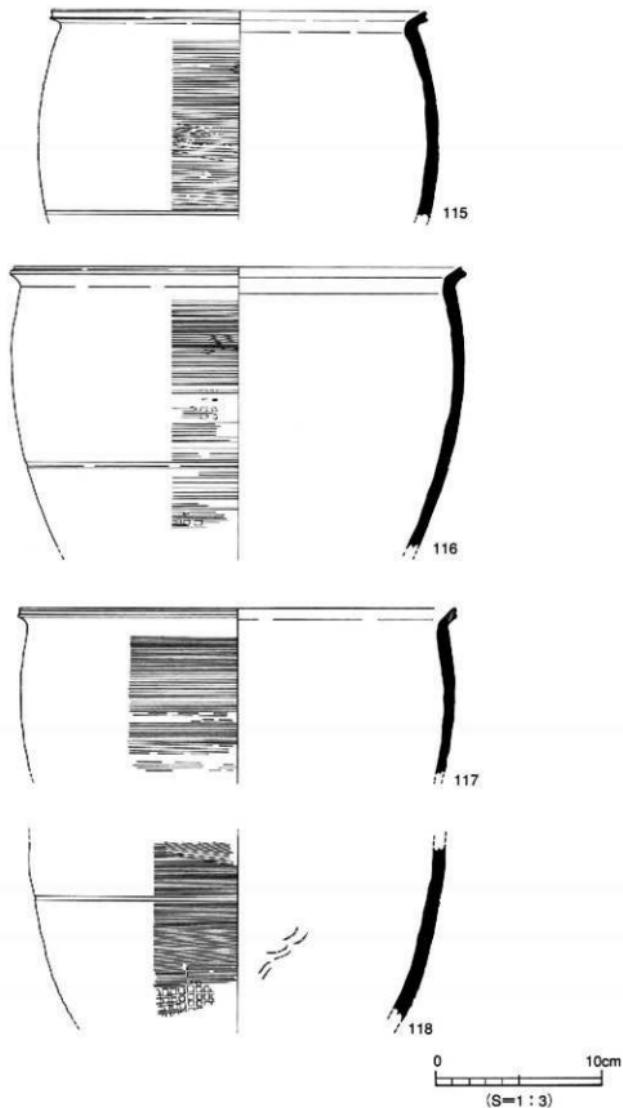
107・108 出作遺跡 109 片山・太郎丸遺跡  
 110・111 船ヶ谷遺跡4次調査地 112 土壇原古墳群17号墳  
 113 黒石山古墳群 114 土壇原古墳群16号墳  
 第80図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(21) 遺

この把手付瓈は市場南組1号窯跡からは出土していない。ただし、形態からは陶邑系須恵器と考えられるものの他の器種と同様に灰白色の色調を呈していることなどから、123・124・127~129・131について胎土分析を実施した結果、市場南組窯跡との結果が得られた。そのため、製作技術は陶邑系工人の手によるが、胎土は他の器種と同様地元の粘土を使用したものと推定される。

#### (7) 瓢(第84~88図)

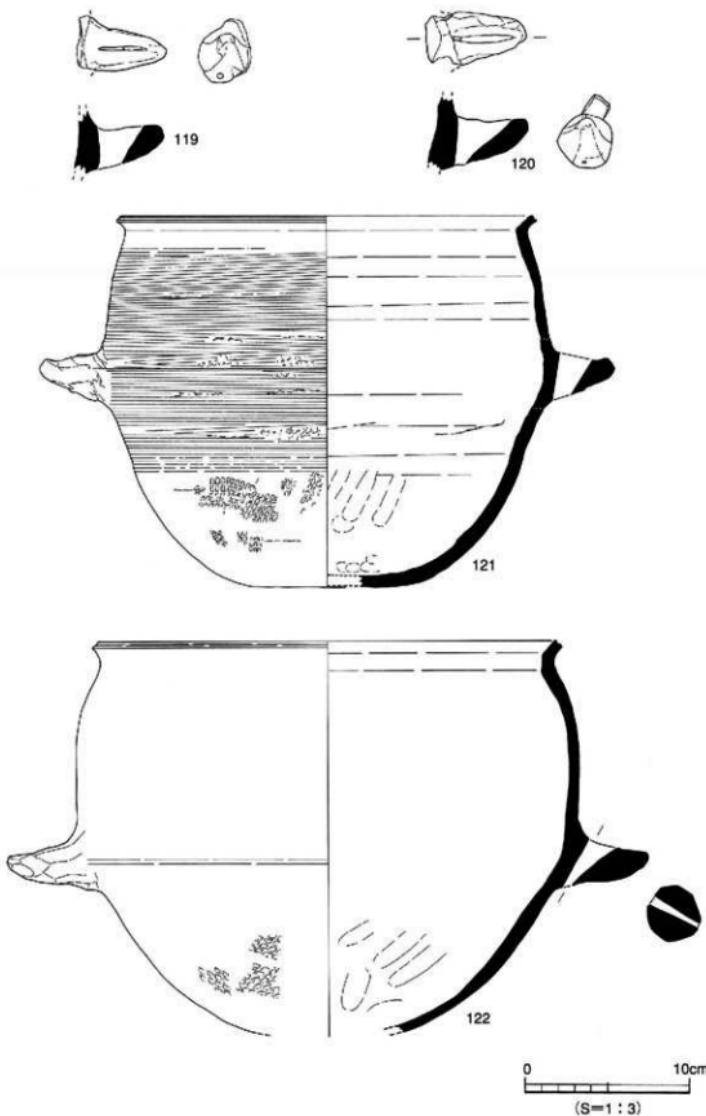
口縁端部の形態から2分類できるため、甕A・Bとして分類を行った。

考 察



115・116 片山・太郎丸遺跡 117・118 船ヶ谷遺跡4次調査地

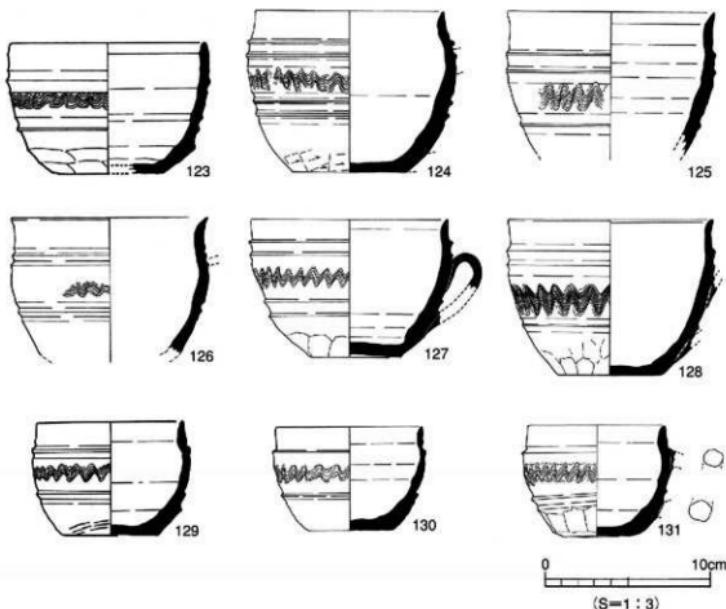
第81図 市場南組1号窯跡関連資料実測図(22) 把手付鍋(1)



119 出作遺跡 120・122 北井門遺跡

121 船ヶ谷遺跡4次調査地

第82図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (23) 把手付鍋 (2)



123・129 出作遺跡 124・125 船ヶ谷遺跡4次調査地

126 福音小学校構内遺跡 127 土壇原古墳群13号墳

128 高橋湯ノ窪遺跡3次調査地 130 片山・太郎丸遺跡

131 土壇原古墳群17号墳

第83図 市場南組1号窯跡間連資料実測図(24) 把手付墳

甕Aは端部を丸く、または尖り気味におさめるもので、いずれも口縁部が大きく外反し、端部直下には断面三角形の突帯を貼り付ける。甕Aは13点（132～144）ある。いずれも口縁部が大きく外反し、端部直下には断面三角形の突帯を貼り付け、端部は丸くおさめる。143と144は波状文の有無で異なる点もみられるが、ほぼ同形態をなすものである。

甕Bは口縁部は肩部からほぼ直立して長く伸び、突帯付近で大きく外反し端部に至る。口縁端部を断面「コ」の字形におさめるもので、4点（145～148）ある。148は口縁部が短めに立ち上がり、口縁端部を上下に拡張する。

#### (8) 土鍤

市場南組1号窯跡資料に12点報告がある。形態は所謂竹輪形を呈し、いずれも長さ10cm前後、径4cm前後を測り、中央の円孔は径1cm前後である。外面には指による成形痕が明瞭に残る。現在のところ、同窯跡以外の遺跡からは確認されていない。



132



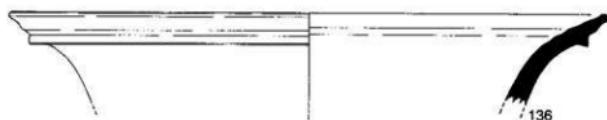
133



134



135



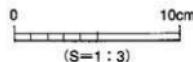
136



137

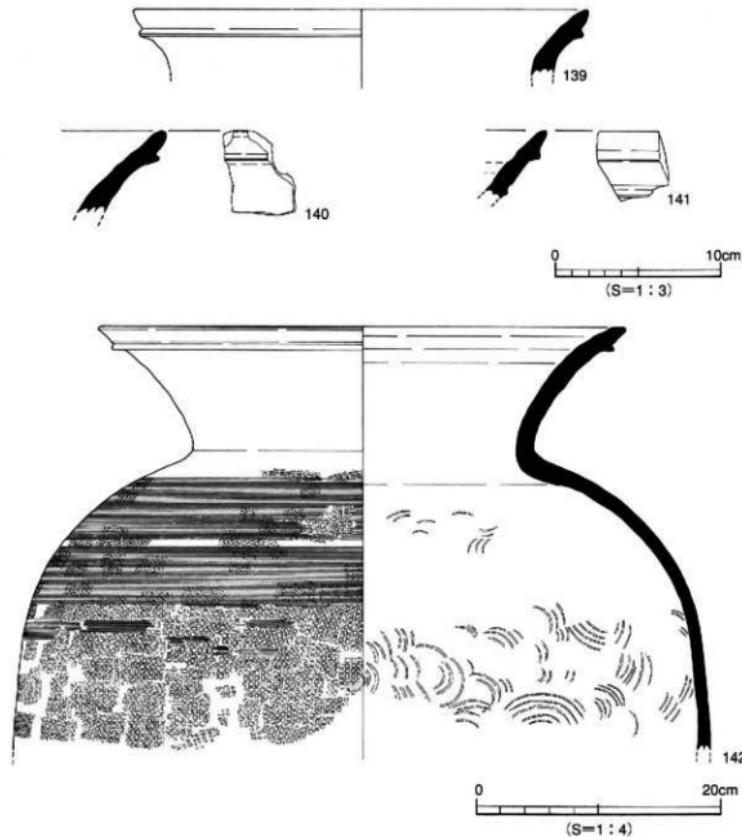


138



132~135 片山・太郎丸遺跡 136~138 土壇原古墳群12号墳

第84図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (25) 麋 (1)



139 土壇原古墳群17号墳 140 土壇原古墳群L5坑  
141 土壇原古墳群12号墳 142 土壇原古墳群16・17号墳

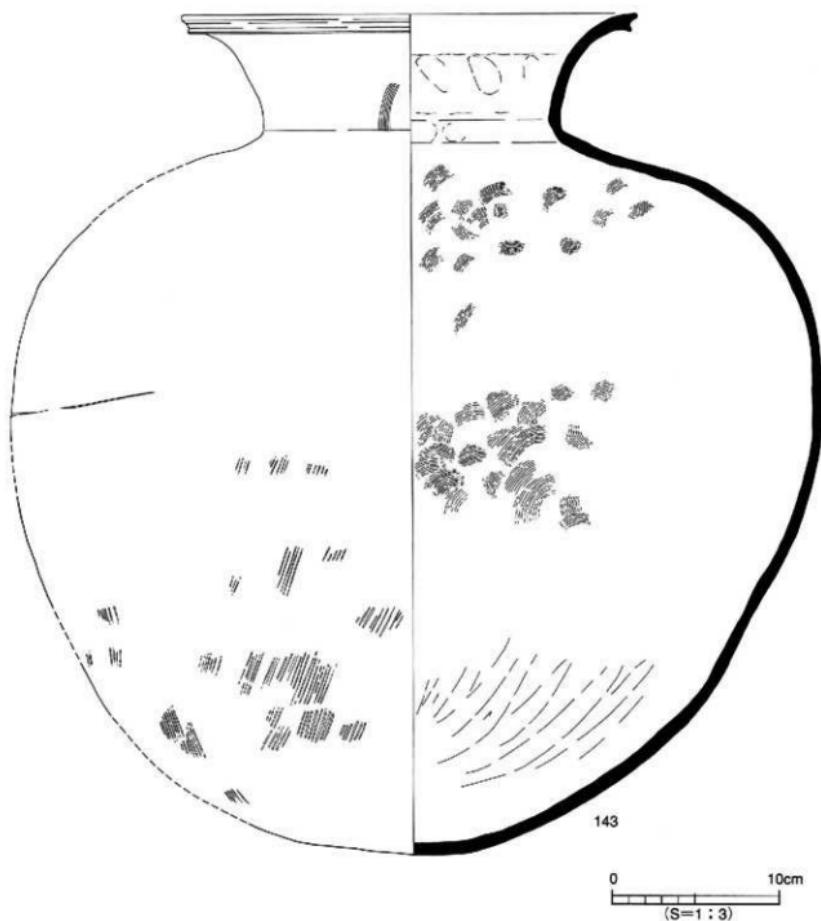
第85図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (26) 製 (2)

## 5. 出作・市場型須恵器の特徴

以上の須恵器を器種ごとに特徴を列記してみると下記のとおりである。

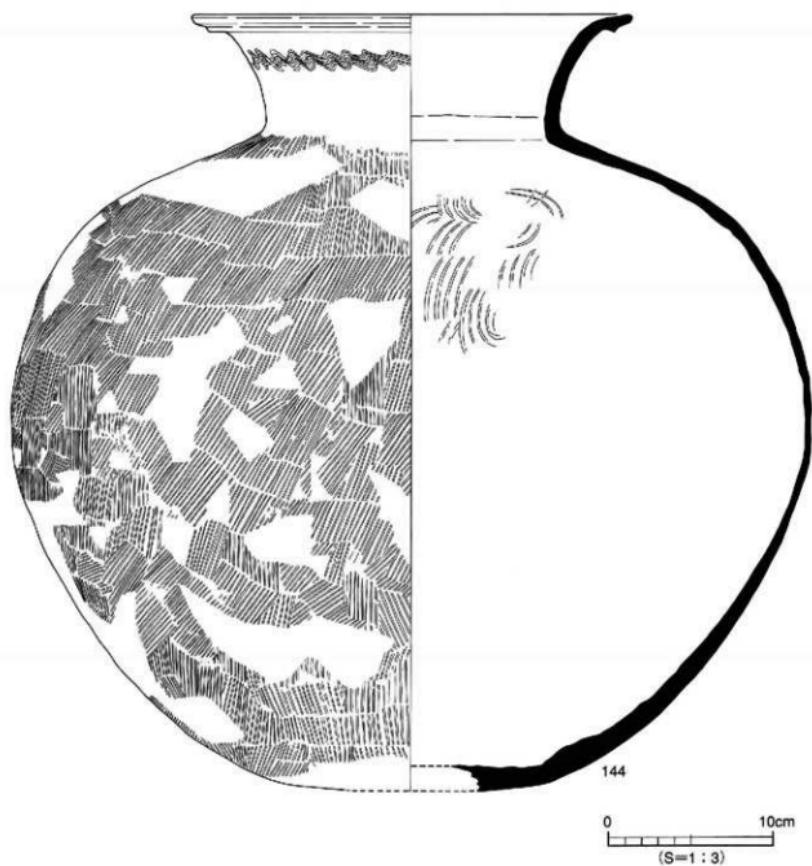
### (1)高环

まず高环は、口径が13~15cm前後と大きく、环部外面に格子タタキ痕を残すこと、脚部の柱部と裾部を一条の突帯で区分する、透かしを持たない、脚端部を「コ」の字形におさめる点などが挙げられ、同時期の陶邑系須恵器と容易に区別が可能である。特に格子タタキ痕を残すことは最大の特徴で、後述する器台と同様な製作方法により製作されたことが考えられる。この形態などから、I類のものとII類のものとがあることが考えられる。

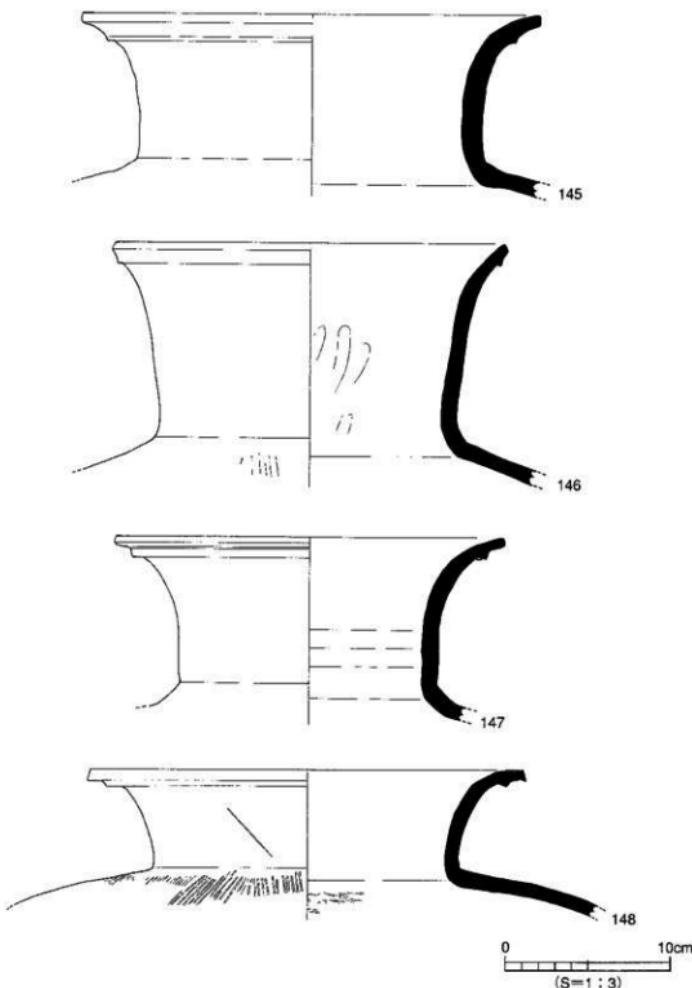


143 土壇原古墳群12号墳

第86図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (27) 瓢 (3)



144 土塙原古墳群13号墳  
第87図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (28) 瓢 (4)



145 片山・太郎丸遺跡 146 土壇原古墳群16号墳

147 土壇原古墳群V遺跡7号墳

148 土壇原古墳群12号墳

第88図 市場南組1号窯跡関連資料実測図 (29) 麦 (5)

## (2) 器台

器台もまた坏部外面に格子タタキ痕を残すことで同時期の陶邑系須恵器と容易に区別が可能である。さらに器台脚端部の製作方法が高坏の脚端部のそれと類似している。1類と3類とは類似点が認められるが、2類のみが脚部の透かしを有しない点、坏部と脚部の接合部に断面三角形の突帯を巡らせている点などで区別され、II類の可能性がある。

## (3) 壺

壺Aはほぼ球形の胴部に格子タタキ痕を残す点と、口縁端部下に一条の突帯を巡らすとともに頸部と肩部の境にも明瞭な突帯を巡らしている点が特徴である。市場南組1号窯跡から肩部に波状文を巡らす壺が出土しているが、同タイプのものが船ヶ谷遺跡4次調査地で出土した62である。

壺Bは口縁端部の突帯付近で内湾し、端部を断面「コ」の字形におさめる点で壺Aと区別される。前述した高坏の脚部を反転させると壺Bの口縁部と類似することから、何らかの規則が働いているものと推定される。

壺Cは全体に厚手のつくりで、口縁端部下に突帯を巡らし内湾気味におさめており、端部は断面「コ」の字形をなしている。頸部と肩部の境に明瞭な突帯を巡らし口縁部に一条、肩部に一条または二条の波状文を施し沈線で区画する。壺の大小があるにしても波状文の施される位置に規則性が見られる点は重要である。

壺Dは形態的に壺Bと類似する点が多いが、短い頸部が内傾したのち大きく外反している点と、口縁部が短くほぼ直立し二重口縁状をなしている点が挙げられる。こうした形態の壺は市場南組1号窯跡からは出土しておらず、II類の可能性がある。

## (4) 越

越は扁球形の体部に、口縁部はやや外反しながら立ち上がり、外面の一条の突帯からは屈曲して湾曲気味に立ち上がり、端部はやや尖り気味におさめる。口縁部突帯以下に波状文を施し、また肩部に一条または二条の波状文を施し沈線で区画する。こうした文様構成などから類推すると、越は壺Cの系譜を引くものといえる。ただし、稀にII類の可能性があるものも含まれている。

## (5) 把手付鍋

把手付鍋は、口縁部を「く」の字形に折り曲げ、やや削張りの体部に平底の底部を有する。把手部は牛角状を呈し、上面に切り込みをもつ。

## (6) 把手付焼

ほとんどのものが二条突帯・一条波状文の組み合わせで施文される。こうした文様構成は陶邑系須恵器にもあるため、III類と考えられる。ただし、前項でも触れたように市場南組窯跡周辺の地元の粘土を使用して製作された可能性が考えられる。

## (7) 壺

口縁部やL字縁端部の形態からA・Bの2種類に分類できるが、いずれもIII類と考えられる。

## (8) 土錐

土錐は、竹輪形を呈しており、特徴的な形態から容易に判別が可能である。

## 6. まとめ

本稿は、市場南組1号窯跡の関連資料を集成し、器種ごとに特徴を抽出した結果、Ⅰ類は、高杯・器台1類・壺A・壺B・壺C・匙・把手付鍋・土錐、Ⅱ類は、器台2類・壺D・Ⅲ類は、壺E・瓶・把手付碗・甕A・甕Bに分類することができた。ただし、器種によってはⅠ類のみだけでなく、Ⅱ類の可能性があるものも含まれており、今後の類例の増加によってさらに細分が可能となるであろう。

また本稿では触れなかったが、現在のところⅠ類が松山平野のみならず近畿・中国・九州地方にまで広く分布している理由に明快な解答を持ちえていないが、他の渡来系遺物との関係から生産地と消費地との関係が明らかとなるであろう。

本稿をまとめるにあたって、下記の方々に多大なるご教示・ご指導を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

阿部敬生・井出耕二・岡田敏彦・岡戸哲紀・亀田修一・小林利晴・定森秀夫・柴田昌児・田中清美・谷若倫郎・宮田尚夫・長井数秋・西岡誠司・平井泰男・正岡睦人・三辻利一・三吉秀充・向井孝光・森下大輔・山内英樹・米田敏幸・渡部明夫(順不同・敬称略)

また遺物整理や図面作成などに際して松山市埋蔵文化財センターの職員及び作業員の方々に貴重な時間を割いてご協力を頂きました。厚く感謝申し上げる次第です。

## [註]

- 1)主なものとしては、第5回歴博国際シンポジウム「古代東アジアにおける倭と加耶の交流」2002 国立歴史民俗博物館、日本考古学協会2003年滋賀大会「渡来人の受容と生産組織」、2003 日本考古学協会、平成13年度春季特別展「韓国より渡り来て」2001 滋賀県立安土城考古博物館、平成13年度秋季特別展「渡来文化の波」2001 和歌山市立博物館などがある。松山市考古館でも平成14年度特別展「海を渡ってきた ひと・もの・わざ」2002、平成15年度特別展「渡来人の足跡」2003を開催している。
- 2)定森秀夫1995「陶質土器・初期須恵器からみた瀬戸内と朝鮮」「古代工芸と交流6」名著出版
- 3)三吉秀充2003「伊予出土陶質土器に関する基礎的研究」「古文化総覧」第49集 古文化研究会
- 4)定森秀夫1993「出作遺跡の非陶系須恵器・陶質土器」「出作遺跡I」松前町教育委員会
- 5)梅木謙一1994「松山平野における非陶系須恵器に関する考察」「東山古墳群-4・5次調査-」松山市教育委員会・財團法人松山市生涯学習振興財团埋蔵文化財センター
- 6)三吉秀充2002「伊予出土の陶質土器と市場南組窯系須恵器をめぐって」「陶質土器の受容と初期須恵器の生産」愛媛大学考古学研究室
- 7)長井数秋1992「松山平野の須恵器編年」「愛媛考古学」12 愛媛考古学協会
- 1994「伊予市市場南組1号窯跡出土の須恵器」「ソーシャル・リサーチ」第20号 ソーシャル・リサーチ研究会
- 8)作田一耕ほか2000「市場南組窯跡」「四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ-伊予市編Ⅲ-」財團法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 9)山之内忠郎 2004「愛媛県における初期須恵器の一様相」「韓式系上器研究Ⅳ」韓式系土器研究会
- 10)谷若倫郎ほか1993「出作遺跡I」松前町教育委員会
- 11)森 光晴1993「下二谷片山・太郎丸埋蔵文化財調査報告書」伊予市教育委員会
- 12)本稿では研究史について触れなかったため、註9文献を参考にされたい。
- 13)前掲5文献中より。

## 考 察

No	遺跡名	陶質土器	出作・市場型 須恵器	朝鮮系 軟質土器	算盤玉形 紡錘車
1	松山市船ヶ谷遺跡2次調査地	×	◎	○	×
2	松山市船ヶ谷遺跡4次調査地	◎	◎	◎	×
3	松山市船ヶ谷向山古墳	×	○	×	×
4	松山市美沢遺跡	×	○	×	×
5	松山市松環古照遺跡	×	○	×	×
6	松山市辻町遺跡2次調査地	×	○	◎	×
7	松山市東雲神社遺跡	×	○	×	×
8	松山市東野お茶屋台古墳群	×	◎	×	×
9	松山市烟寺竹ヶ谷古墳群	×	○	×	×
10	松山市素鷺小学校構内遺跡	×	○	×	×
11	松山市樽味高木遺跡3次調査地	×	×	○	×
12	松山市樽味四反地遺跡5次調査地	×	○	○	×
13	松山市樽味四反地遺跡7次調査地	×	×	○	○
14	松山市筋違F遺跡	×	○	○	×
15	松山市筋違H遺跡	×	○	×	×
16	松山市筋違L遺跡	×	×	◎	×
17	松山市福音小学校構内遺跡	×	◎	×	×
18	松山市北久米淨蓮寺遺跡3次調査地	×	◎	×	×
19	松山市旗立C遺跡	×	○	×	×
20	松山市東山古墳群4次調査地	×	○	×	×
21	松山市東山古墳群5次調査地	×	○	×	×
22	松山市五郎兵衛谷古墳	×	○	×	×
23	松山市小野周辺	◎	×	×	×
24	松山市北井門遺跡	×	◎	○	×
25	松山市・砥部町上坡原古墳群	◎	◎	×	×
26	伊予郡松前町出作遺跡	×	◎	×	×
27	伊予市下三谷片山・太郎丸遺跡	○	◎	○	○
28	伊予市猿ヶ谷2号墳封土内	◎	×	×	○
29	伊予市市場南組窯跡	×	◎	×	×

表33 松山平野の古墳時代朝鮮半島系遺物出土遺跡一覧  
 (凡例) ◎…複数器種の土器 ○…1器種の土器 ×…なし



写真1 高坏(船ヶ谷遺跡4次調査地)



写真2 高坏(船ヶ谷遺跡4次調査地)



写真3 壺A(船ヶ谷遺跡4次調査地)



写真4 壺B(船ヶ谷遺跡4次調査地)





写真5 壺C(土塙原古墳群V遺跡12号墳)  
愛媛県教育委員会蔵



写真6 壺C(船ヶ谷遺跡4次調査地)



写真7 Tatai(船ヶ谷遺跡4次調査地)



写真8 把手付鍋(船ヶ谷遺跡4次調査地)

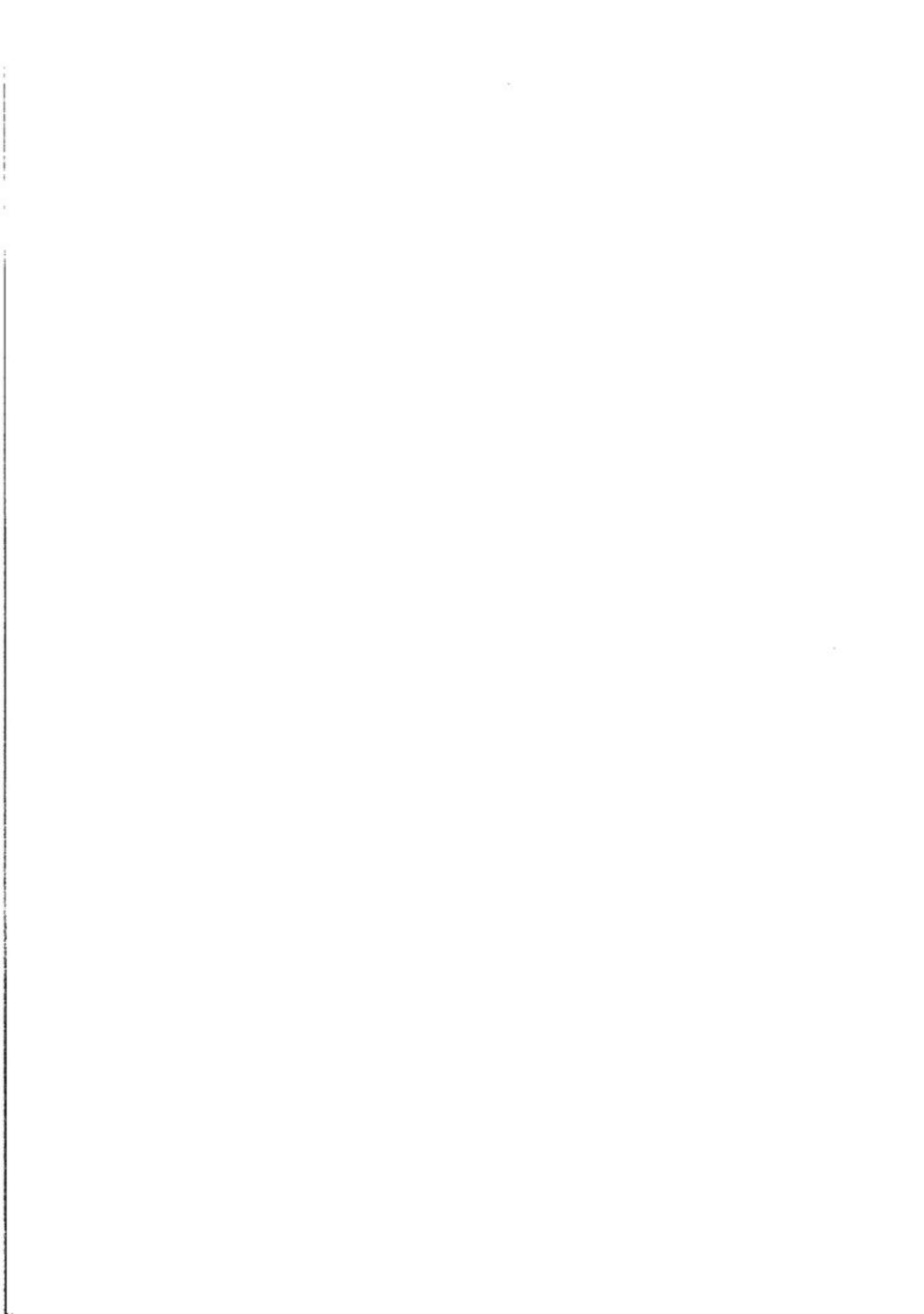




写真9 把手付壺(船ヶ谷遺跡4次調査地)



写真10 壺(土塙原古墳群12号墳)  
愛媛県教育委員会蔵



写真11 陶質土器 長頸壺(松山市小野周辺)



写真12 陶質土器 長頸壺(朝倉村樹之本古墳)  
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター蔵





写真13  
陶質土器  
(伊予市猿ヶ谷2号墳封土内)  
愛媛県歴史文化博物館蔵



写真14  
陶質土器  
小型器台  
(船ヶ谷遺跡4次調査地)



写真15  
陶質土器  
高环・短颈壺  
(朝倉村城ヶ谷古墳・朝倉村)  
朝倉村教育委員会蔵





写真16 陶質土器 短頸壺(宇和町伊勢山大塚古墳)  
宇和町歴史民俗資料館蔵



写真17 陶質土器 高壺(宇和町伊勢山大塚古墳)  
個人蔵



写真18 陶質土器 台付長頸壺(宇和町伊勢山大塚古墳) 写真19 陶質土器 長頸壺(宇和町伊勢山大塚古墳)  
宇和町歴史民俗資料館蔵 個人蔵



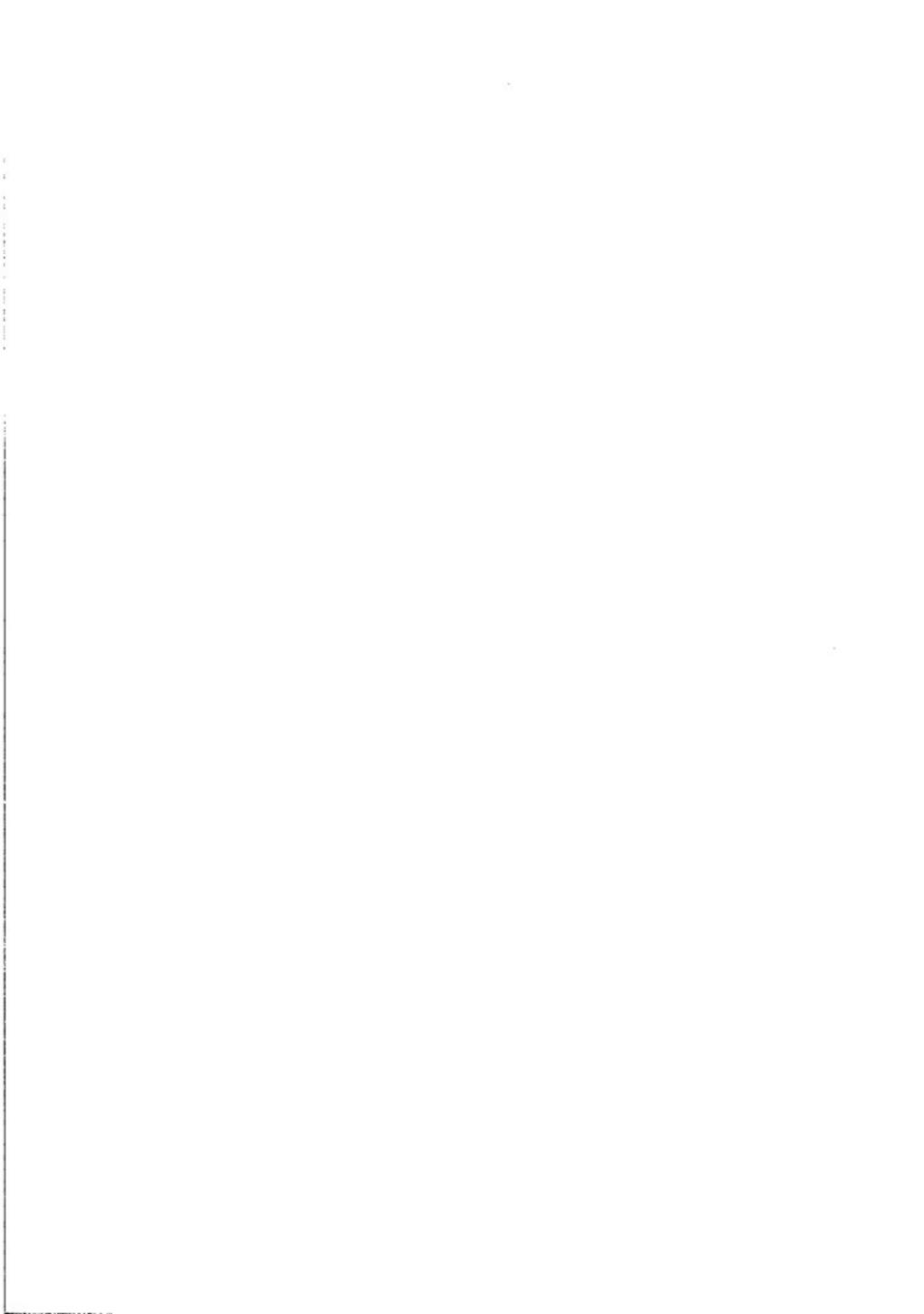




写真20 陶質土器 長頸壺(宇和町)  
宇和町歴史民俗資料館蔵



写真21 陶質土器 环付壺(上)玉川町別所 <下>土塙原古墳群9号墳  
<上>玉川町教育委員会蔵 <下>愛媛県教育委員会蔵



写真22 陶質土器 壺(宇和町岩木) 個人蔵



写真23 陶質土器 壺(底部)





写真24 朝鮮系軟質土器(船ヶ谷遺跡4次調査地)



写真25 朝鮮系軟質土器(船ヶ谷遺跡4次調査地)



写真26 算盤玉形紡錘車

[手前] 索<sup>シ</sup>合<sup>ハ</sup>2号墳封土内<左>伊予市片山・太郎丸遺跡<右>若道B遺跡  
<手前>愛媛県歴史文化博物館蔵<左>伊予市教育委員会蔵<右>



## 第6章 まとめ

本調査では、古墳を6次調査1区から2基（24号墳、25号墳）、2区から5基（20号墳、26号墳、27号墳、28号墳、29号墳）の計7基を検出した。

ここでは古墳の構築方法、出土遺物、時期と変遷について考える。以下、調査成果を項目別に記述する。

### 1. 石室の構築方法

墳形は、24号墳、20号墳、26号墳、27号墳が円形、28号墳、29号墳は方形であり、25号墳は小石室で削平を受け墳形が確定できなかった。

主体部は、24号墳、20号墳、27号墳は横穴石室、28号墳、29号墳は木棺痕跡は確認できなかったが木棺直葬と考えられる。また、石室の構築方法が調査できたのは、4基（24号墳・25号墳・20号墳・27号墳）で、その構築方法は墓壙構築の地山成形の差により二つに分けられる。一つは、竪穴状に掘窪めるもの（24号墳・25号墳）、もう一つは、斜面の地山を「L」字状（20号墳・27号墳）に切り取るものである。

#### 1) 竪穴状の墓壙をもつ石室

24号墳は、尾根線に直行する方向に正方形状の墓壙を掘窪め、閉塞部は尾根線に近い標高の高い方向に階段状に掘窪めた所で行われる。玄門部で段を降りる構造である。

25号墳は、小石室である。尾根に直行する方向に「コ」の字状に地山を切り取る。

#### 2) 断面が「L」字状の墓壙をもつ石室

20号墳は、斜面に位置し尾根に平行する方向に地山を「L」字状に切り取る。玄室と羨道部の床面は同一の高さである。27号墳は、斜面に位置し尾根に平行する方向に「L」字状の墓壙を掘窪める。玄室と羨道部の床面は同一の高さである。

このように本調査では、二つの墓壙の構築方法を検出するにいたった。

### 2. 遺物

古墳7基からは、須恵器、土師器、鉄器、耳環、ガラス玉が出土した。24号墳では、主体部から須恵器、鉄鎌、刀子、ガラス玉、菅玉、勾玉、周溝内から須恵器、鉄鎌が出土した。鉄鎌は、石室内と周溝内から先端部の形状が判別できるものが5点あり、それぞれ、法量と形状に違いが見られ興味深いものである。

25号墳からは、須恵器と耳環が出土した。須恵器の壺形土器は、奥壁中央部玉石上面で正置の状態で出土し、壺の頸部から口縁部が欠失していた。出土状況からは埋葬時の状態をとどめていると判断でき、壺は口頸部を打ち欠いたものを副葬した、打ち欠き土器と考えられる。

20号墳からは、須恵器、土師器、耳環が出土した。このうち土師器の鉢形土器が完形品で1点出土した。

27号墳からは、須恵器、土師器、鉄器が出土した。須恵器の口縁部と高台部が欠失しており、打ち欠かれた土器の可能性を考えられる。

29号墳からは、鉄鋸と鉄刀が出土した。鉄鋸の出土は松山平野では報告例のない大変貴重なものであり、鉄製武具を研究する上での基礎資料となるものである。また、鉄刀は「く」の字状に折り曲げられている。折り曲げられた鉄刀の出土例は、松山市土壇原遺跡10号墳から1点あり、29号墳出土が松山平野では二例目となる。今後、古墳の副葬品、集落出土品など鉄製の折り曲げ行為について注目するものである。

### 3. 時期と変遷

本調査で検出した古墳の時期は、出土した遺物からすると、24号墳・25号墳は6世紀後半、20号墳は7世紀後半から8世紀、27号墳は7世紀前半、28号墳・29号墳は5世紀以降となり26号墳は出土遺物がなく主体部構造も不明のため時期は確定できていない。

そして、古墳の時期と立地関係を見ると、最も古い5世紀以降の28号墳・29号墳は丘陵中腹の斜面にあり方墳で主体部は木棺直葬と考えられる。次の、6世紀後半の24号墳・25号墳は丘陵の高い位置にあり、円墳で尾根に直行する方向の石室を構築している。つづく、7世紀前半の27号墳は丘陵中腹の斜面にあり、円墳で主体部は尾根に平行する方向に石室を構築する。7世紀後半から8世紀の20号墳は、丘陵中腹の斜面あり、円墳で主体部は尾根に平行する方向に石室を構築するのである。

よって、古墳は時期により立地と主体部に違いが見られ、石室構造にも違いが見られるのである。

### 4. 位置付け

ここでは、東山古墳群1次～6次調査で検出した古墳を概観し、本調査で確認した7基の古墳について位置付けを行いたい。

東山古墳群内ではこれまでに確認された古墳は29基がある。そのうち、本格的に調査された古墳は、中期から終末までの13基である。墳形には円墳10基、方墳2基があり、主体部には横穴式石室7基、竪穴系横口石室3基、竪穴式小石室1基、木棺2基がある。

中期以降の古墳は、東山28・29号墳の2基である。両墳は丘陵中腹にあり、墳形は方墳である。主体部は木棺直葬と考えられる。東山29号墳の主体部からは鉄鋸と折り曲げられた鉄刀が出土した。

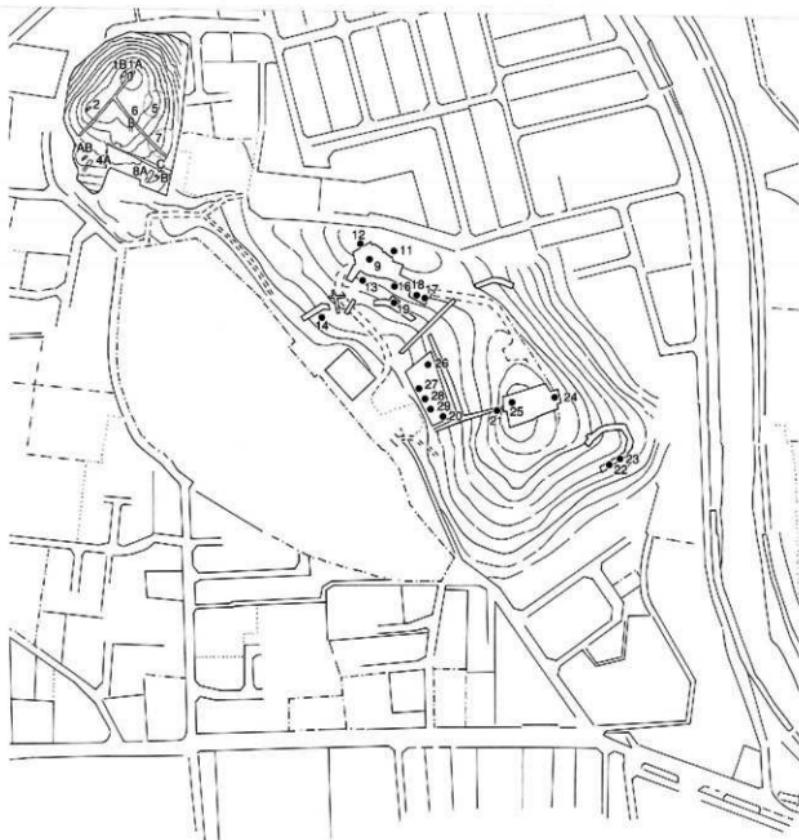
後期古墳は11基ある。6世紀中は東山鳩が森2号墳である。東山鳩が森2号墳は丘陵頂上部に位置し、墳形は円墳で、主体部は横穴式石室である。出土遺物には玉類と腕輪、耳環の装飾品、鐵鎌、鐵斧、馬具などの鉄製品と人骨が出土し、埴輪からは円筒埴輪が出土した。6世紀後半は東山24・25号墳の2基である。両墳は丘陵尾根付近にあり、墳形は24号墳が円墳、25号墳は不明である。主体部は24号墳は竪穴系横口石室、25号墳は竪穴式小石室である。24号墳の開口方向は南側にあり、標高の高い方向に開口している。6世紀末～7世紀初頭は東山鳩が森1・4・8号墳の3基である。1・4号墳は丘陵頂上部に位置し、8号墳は丘陵中腹に位置する。墳形は円墳である。主体部は横穴式石室である。出土遺物には、4・8号墳から多数の玉類と鉄製品、装飾品が出土している。7世紀前半は東山27号墳がある。27号墳は丘陵中腹にあり、墳形は円墳である。主体部は横穴式石室である。7世紀後半は東山19・20号墳2基である。両墳は丘陵中腹に位置し、墳形は円墳である。主体部は横穴式石室である。

調査結果、中期古墳は丘陵中腹に位置し墳形は方墳である。後期古墳は、墳形が円墳で1墳丘に複数の主体部をもつものがあり、上部には横穴式石室と竪穴系横口石室がある。竪穴系横口石室は頂上部付近に構築することが明らかになった。今後調査が行われていない主体部の調査が進めばより一層時期と立地の関係と石室構造が明確になるであろう。

## 5. 結び

東山古墳群では、公園整備に伴って4度の発掘調査を行い、古墳時代中期から終末期までの墳墓が多数検出され、松山平野における有数の群集墳であることが明らかとなった。主たる成果は、群集墳の推移を示し、横穴式石室の築造に地域色を見出したことである。くわえて、前回の報告（『東山古墳群－4・5次調査』）で取り上げた非陶邑系須恵器は、胎土分析等により地方窯が存在することを明らかにし、本報告の第5章考察では愛媛県内出土の渡来系遺物を検討することで、東山古墳群出土遺物が「出作・市場型須恵器」であることを明らかにした。この結果は、5世紀後半の東山古墳群の埋葬者が平野内の交流を含めて、朝鮮半島文化との接觸を持ち得たことを示すものである。

なお、本書では東山古墳群に関連すると考えられる同時期集落の南中学校構内遺跡を報告に加えた。東山古墳群の被葬者像を明らかにするためにも、今後は周辺集落の分析が必要になろう。



第89図 東山古墳群調査地位置図 (S=1:2,500)

表34 東山古墳群 古墳一覧表

番号	古墳名	番号	立地	形	面	幅	奥	半径	深	支承石	裏	支承石	規	道	幅	即	左	右	土	道	備	参考
			m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m
東山古墳群																						
1号A	近畿型I	43.40	風水穴切	円	11	22×3	22×1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
2号	丘陵上	42.60	60円	円	13	~	新江戸石	23×1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3号	丘陵中腹	41.60	~	円	12	~	新江戸石	22×1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4号A	丘陵中腹	38.60	60円~穴切	円	13.7	○	新江戸石	33×1.55~1.65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
5号	丘陵中腹	42.00	~	(円)	14.0	~	~	23×1.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6号	丘陵中腹	42.20	70後	円	19	○	新江戸石	42×1.8~1.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7号	丘陵中腹	39.20	~	丸底(15)	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
東山古墳群																						
8号A	丘陵中腹	38.60	60円~穴切	円	14	~	新江戸石	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
古墳群																						
少室墓																						
東山古墳群																						
9号	丘陵中腹	41.60	~	円	10~12	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
4号圓丘																						
欠番																						
11号	丘陵斜上	43.80	~	円	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
12号	丘陵中腹	42.80	~	円	~	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
13号	丘陵中腹	39.80	~	円	12~14	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
14号	丘陵中腹	33.20	~	円	~	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
15号	丘陵中腹	42.20	~	円	12~14	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
16号	丘陵中腹	38.20	~	円	7	○	木造舟	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
17号	丘陵中腹	37.80	~	円	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
18号	丘陵中腹	38.60	~	円	~	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
東山古墳群																						
5号圓丘																						
20号	丘陵中腹	33.20	~	円	12	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
21号	丘陵中腹	41.40	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
22号	丘陵中腹	34.80	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
23号	丘陵中腹	34.80	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
光山古墳群																						
24号	丘陵斜上	44.80	60後	円	10	○	笠置石	21.0×1.35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25号	丘陵斜上	44.60	~	~	~	~	~	笠置石	22.6×1.35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26号	丘陵中腹	34.00	~	円	11	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
27号	丘陵中腹	31.00	70後	円	8.43	○	新江戸石	21.7×0.95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28号	丘陵中腹	31.20	中間2段	方	~	○	人面石	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~
29号	丘陵中腹	31.00	~	方	○	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~

【文献】西元前年頃 1984 「東山古墳群の構造と埋蔵文化財」、『山陽新聞』、1月15日付。栗田光秀、1990「西山古墳群」、『山陽新聞』、1月15日付。

## 附章 南中学校構内遺跡(1次調査)の調査

松山市教育委員会社会教育課は、昭和50年4月～5月に市立南中学校構内で、運動場増設に伴う事前の埋蔵文化財の発掘調査を行った。調査の結果、古墳時代中期の集落跡を確認し、竪穴式住居址1棟、掘立柱建物跡1棟と、弥生時代～古墳時代の土器・石器を検出した。以下、調査内容を記す。

南中学校は、松山平野中央部の沖積地、標高22～23mに立地する。構内は「163 南中学校遺物包蔵地」に指定され、周辺には弥生時代～古代の遺跡が分布している。本調査の対象地は、中学校構内のグランド南東部にあたり、面積は南北10m、東西15mの150m<sup>2</sup>である。調査では、西側で竪穴式住居址(SB1)と、東側で掘立柱建物跡(掘立1)を検出した(写真1)。

竪穴式住居址SB1は写真2で、住居址の約2分の1を検出し、平面形態は四角形を呈する。検出面から床面までの深さは浅く、住居内からは土器・石器が出土している(第91図1～11)。

1～8は土器で、1は甕、2～8は高杯になり、5世紀後半に比定される。9・10は弥生土器で、9は前期の壺底部、10は後期の壺ないし鉢の底部になる。11は砥石で、四面に砥面が見られ、石材は石英粗面岩である。住居址の時期は出土品から5世紀後半とする。

掘立柱建物跡1号(掘立1)は写真3で、1間四方の建物である。出土品は第91図12～14で、12・13はコシキ、14は高杯で、5世紀後半に比定される。建物の時期は出土品から5世紀後半とする。

この他に、調査区内からは上師器の高杯脚部(15)やコシキの握り手部(16)が出土し、いずれも5世紀後半とみられる。

以上から、南中学校構内の南には、古墳時代中期の集落跡が存在し、竪穴式住居と掘立柱建物とで構成されていたことが判明した。

遺 蹤 名：南中学校構内遺跡(1次調査地)

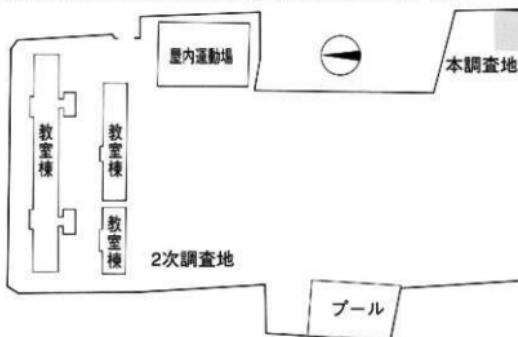
調 査 地：松山市東石井町678番地内(松山市立南中学校構内)

調 査 期 間：昭和50年4月30日～同年5月15日

調 査 面 積：150m<sup>2</sup>

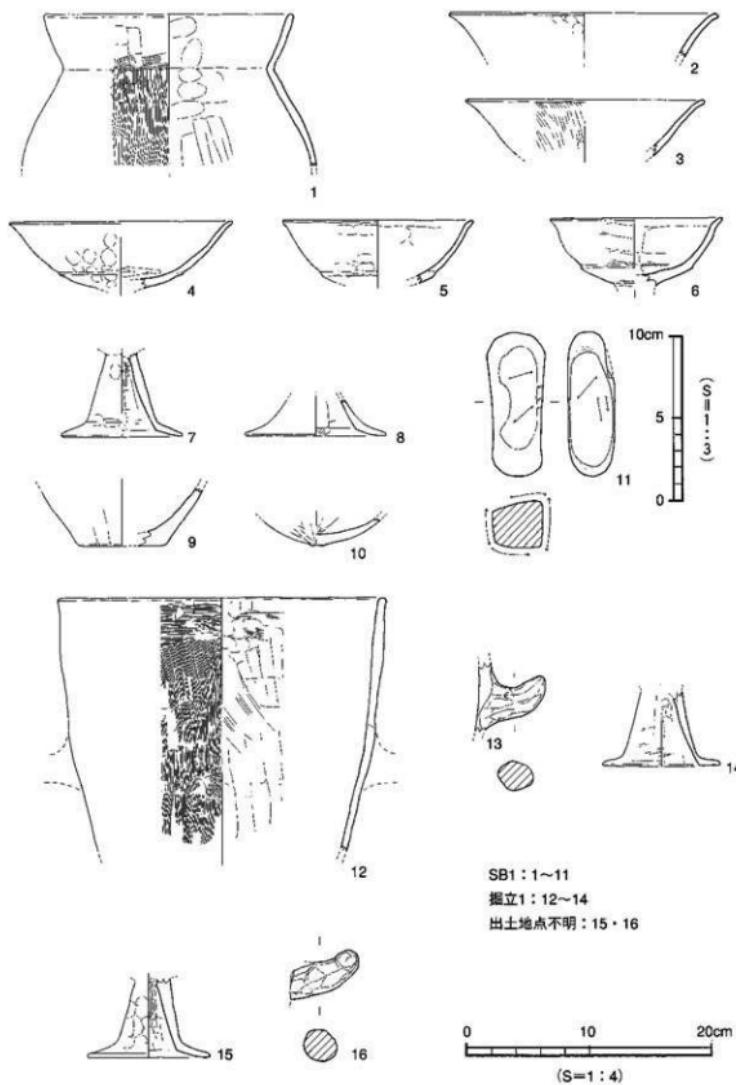
調 査 担 当：森 光晴

(註)今回の報告では、記録類が充分でなく、詳細な報告をすることが出来なかった。



第90図 調査位置図 (S=1:2000)

南中学校構内遺跡（1次調査）の調査



第91図 出土遺物実測図

## 南中学校構内遺跡（1次調査）の調査

表1 出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		(外面) 色調 (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
1	甕	口径(20.4) 残高 12.3	口縁部は内凹して立ち上がる。 端部は丸い。	①ナデ ②ハケ	ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1~3) 金 ○	SB1	
2	高壺	口径(22.0) 残高 3.5	外反する口縁部は、端部が直をなす。	ナデ	ナデ	乳茶褐色 乳茶褐色	石・長(1) ○	SB1	
3	高壺	口径(19.4) 残高 4.6	外反する口縁部は、端部が丸い。	ミガキ(マツツ)	ミガキ(マツツ)	淡褐褐色 淡橙褐色	密 金 ○	SB1	
4	高壺	口径 18.3 残高 5.5	外反する口縁部は、端部付近で、ゆるやかに折り曲がる。	ナデ	ナデ	乳白色 橙褐色	石・長(1) ○	SB1	
5	高壺	口径(15.6) 残高 5.1	外反する口縁部は、端部付近で、ゆるやかに折り曲がる。	ナデ	ナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1~2) 金 ○	SB1	
6	高壺	口径(14.1) 残高 5.6	口縁部と口縁部境は段をなす。	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	密 金 ○	SB1	
7	高壺	底径(10.0) 残高 6.9	柱脚部境の内面は積をなす。	ナデ	ナデ(T工具)	淡黄褐色 淡黄褐色	密 金 ○	SB1	
8	高壺	底径(13.6) 残高 3.1	柱脚部境の内面は積をなす。	マツツ(ミガキ) ④ケズリ ⑥ヨコナデ	ナデ	棕茶色 棕茶色	密 ○	SB1	
9	甕	底径(7.2) 残高 4.6	平底の底部。	ナデ	ナデ	淡黄色 茶褐色	石・瓦(1~2) 赤色 安山岩 ○	SB1	
10	鉢	底径(1.2) 残高 2.1	突出する小さい底部。	マツツ	マツツ	淡黄色 淡灰色	石・長(1~2) ○	SB1	
12	甕	口径(27.0) 残高 20.2	直立する口縁部は、端部が直をなす。	ハケ	ハケ→ナデ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~2) 金 ○	掘立1	
13	甕	残高 5.4	握手部は角柱状で、端部が上方を向く。	ナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) ○	掘立1	
14	高壺	底径(9.6) 残高 5.2	柱脚部境の内面は積をなす。	ナデ(工具痕) ④ケズリ ⑥ヨコナデ	ナデ	淡褐色 淡褐色	密 ○	掘立1	
15	高壺	底径(10.0) 残高 6.4	柱脚部境の内面は積をなす。	④ナデ ⑥ヨコナデ	ナデ	黄茶色 黄茶色	密 ○	地点不明	
16	甕	底径 2.5	握手部は円柱狀で、端部が上方を向く。	ナデ	ナデ	淡褐褐色 淡褐褐色	石・長(1~3) ○	地点不明	

表2 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	現存	材質	法 量				備 考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
11	砥石	完存	石英粗面岩	8.7	3.6	2.8	125	SB1	

南中学校構内遺跡（1次調査）の調査



写真1  
調査地全景（西より）



写真2  
SB1（西より）

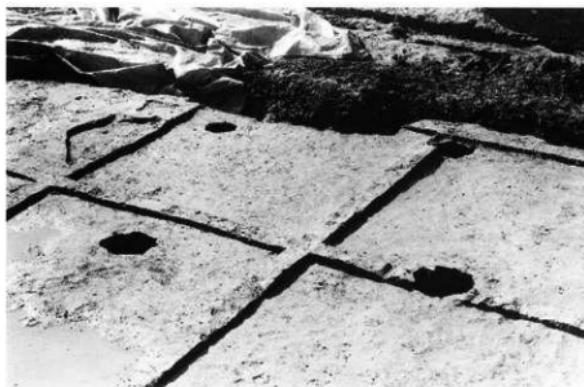


写真3  
掘立1（南より）

# 写 真 図 版

### 写真図版データ

1. 遺構は、主な状況については、4×5判や6×7判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、35mm判で補足している。ただし、3次調査は35mmカラー・ネガを基にした。一部の撮影には高所作業車・やぐらを使用した。

なお、東山古墳群の現況は、2003年12月に撮影したものである。

#### 使用機材：

カメラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパー・アンギュロン90mm他
アサヒペンタックス67		ペンタックス67 55mm他	
ニコンニューFM2		ズームニッコール28~85mm他	
フィルム	白 黒 プラスXパン・ネオパンSS		
カラー	エクタクロームEPP		

2. 遺物は、4×5判で撮影した。巻頭原色図版の写真のほかは、すべて白黒フィルムで撮影している。

#### 使用機材：

カメラ	トヨビューア-45G
レンズ	ジンマーS 240mm F5.6他
ストロボ	コメット/CA32・CB2400
スタンド等	トヨ無影撮影台・ウェイトスタンド101
フィルム	白 黒 プラスXパン・ネオパンアクロス
カラー	エクタクロームEPP

3. 単色図版は、白黒プリントを等倍で使用できるように焼き付けている。

#### 使用機材：

引伸機	ラッキーMD・90MS
レンズ	エル・ニッコール135mm F5.6A・50mm F2.8N
印画紙	イルフォードマルチグレードIVRCペーパー

4. 製版 写真図版175線

印刷	平版オフセット印刷
用紙	マットコート135kg
製本	アジロ綴

【参考】 『埋文写真研究』vol. 1~13  
『報告書制作ガイド』

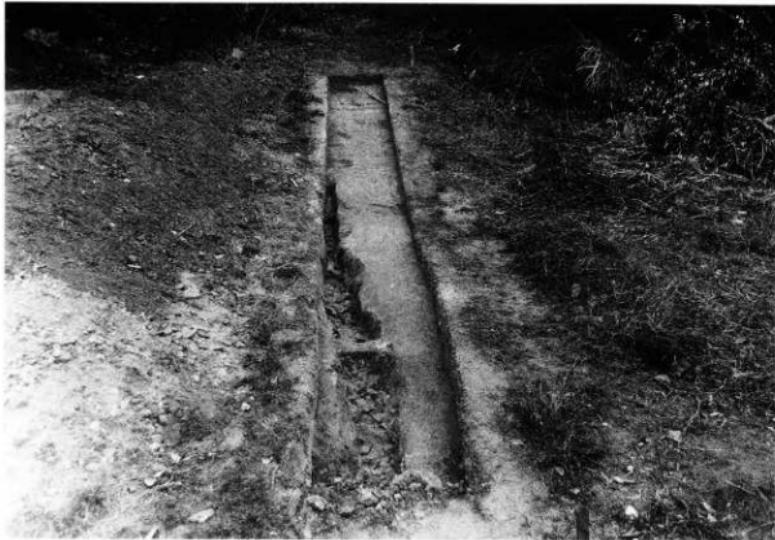
[大西朋子]



1. 東山古墳群遠景（南西より）



2. 3次調査地現況（南より）



1. AT1区 完振状況(1) (西より)



2. AT1区 完振状況(2) (西より)



1. AT2区 完掘状況(1) (西より)



2. AT2区 完掘状況(2) (北東より)



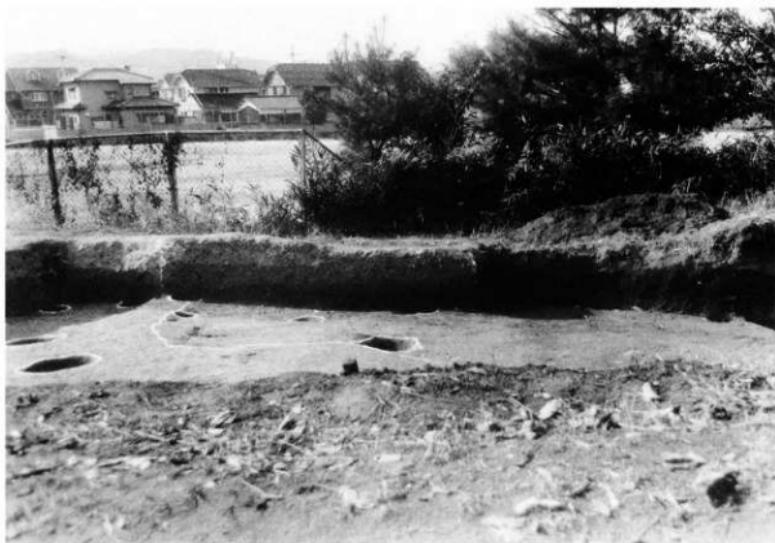
1. AT3区 完掘状況(西より)



2. AT4区・AT5区 東西ベルト土層状況(北より)



1. BT3区 完掘状況(北東より)



2. BT4区・BT5区 完掘状況(北東より)

東山古墳群6次調査

図版六



1. 6次調査地1区現況（北より）



2. 6次調査地2区現況（南東より）



1. 1区検出状況（北より）



2. 1区 完掘状況（北より）



1. 24号墳石室完掘状況（西より）



1. 24号墳石室・周溝完掘状況(北より)



2. 24号墳床面検出状況(1)(東より)



1. 24号墳床面検出状況(2)(東より)



2. 24号墳閉塞状況(1)(南より)



1. 24号墳閉塞状況(2)(東より)



2. 24号墳閉塞石除去後状況(東より)



1. 25号墳検出状況(奥)(東より)



2. 25号墳床面検出状況(西より)



1. 25号墳遺物出土状況(西より)



2. 25号墳床面検出状況(西より)

東山古墳群6次調査

図版一四



1. SK101・SK102完掘状況(北東より)



2. SK101完掘状況(北東より)



1. SK102 完掘状況(北東より)



2. SK102 遺物出土状況(北東より)



1. SX101・SX102 完掘状況(北より)



2. SX101遺物出土状況(北より)



1. SX102 完掘状況(1) (南より)



2. SX102 完掘状況(2) (東より)



1. 2区 検出状況(西より)



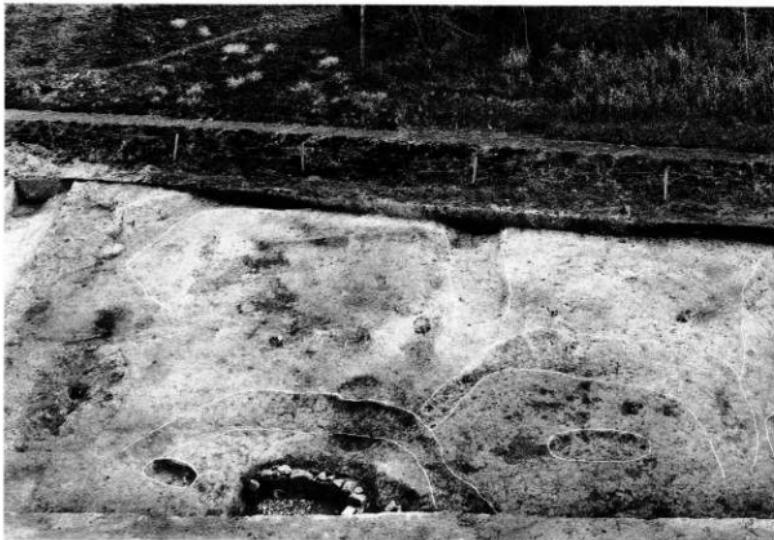
2. 2区 完掘状況(西より)



1. 20号墳石室内遺物出土状況（南より）



2. 20号墳床面検出状況（南より）



1. 26号墳・27号墳・28号墳完掘状況(西より)



2. 27号墳完掘状況(西より)



1. 27号墳周溝内遺物出土状況(東より)



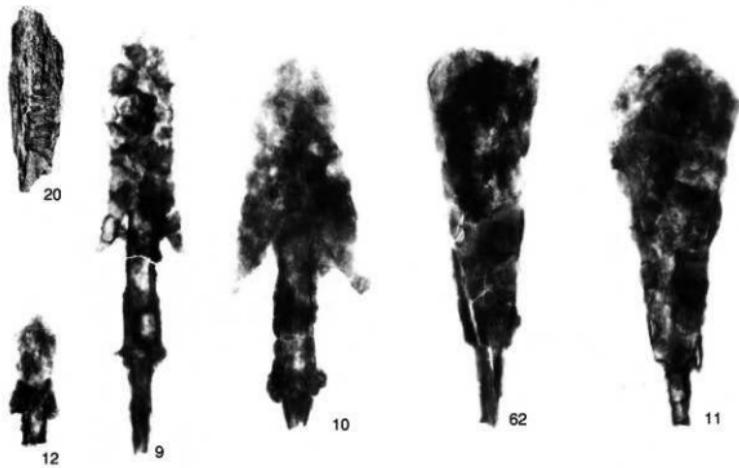
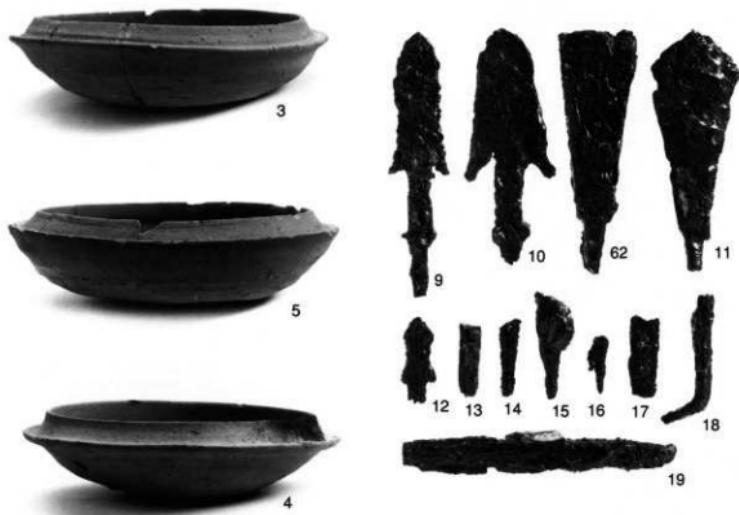
2. 29号墳完掘状況(南より)



1. 29号墳鉄鉢出土状況(西より)



2. 29号墳鉄刀出土状況(北より)



1. 24号墳主体部・周溝内(62)出土遺物



1. 25号墳(63~65)、SK102(67)、SK103(68,69)、SX101(70,71,99)出土遺物



107



108



114



117



120



118

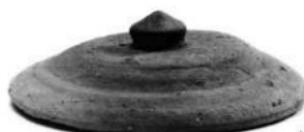


121



122

1. SX101出土遺物



123



126



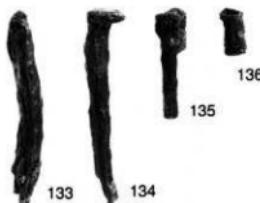
128



132



130



133

134

135

136



137



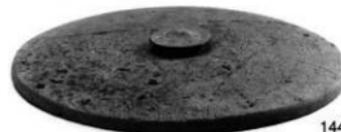
139



140



141



144

1. 20号墳(123・125・126)、27号墳石室内(128・130・132～136)、葬道部(137)、周溝内(139～141・144)出土遺物



146

1. 29号墳出土遺物



147



171

169



170



172



173

1. 29号墳(147)、その他出土地点不明(169~173)、出土遺物



1. 東山廬が森古墳群1号墳(1001)、3号墳(1002~1008)、4号墳(1009~1018)出土遺物



1. 東山鷺が森古墳群1次調査地6号墳(1019~1022)、2次調査地8号墳(1023~1032)、出土遺物



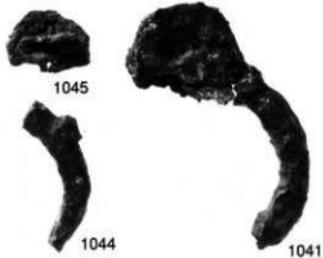
1039



1040



1041



1045

1041

1. 寄贈品(1)

寄贈品

圖版三



1. 寄贈品(2)

# 報告書抄録

ふりがな	ひがしやまこふんぐん						
書名	東山古墳群Ⅱ						
副書名	3次調査・6次調査						
巻次							
シリーズ名	松山市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第97集						
編著者名	高尾和長・山之内志郎・梅木謙一						
編集機関	松山市教育委員会 (財)松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター						
所在地	市教委:〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1 田 089-948-6605 埋文:〒791-8032 松山市南斎院町乙67-6 田 089-923-6363						
発行年月日	西暦 2004年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村名 遺跡番号	北緯 ° °'	東經 ° °'	調査期間	調査 面積	調査原因
ひがしやま 東山3次調査地	まつやま ひがしやまいちらう 松山市東石井町乙 3 9番地1ほか	38201	33° 48' 45"	132° 47' 02"	19881026~ 19881120	500m <sup>2</sup>	公園整備
ひがしやま 東山6次調査地	まつやま ひがしやまいちらう 松山市東石井町乙 3 9番地1ほか	38201	33° 48' 45"	132° 47' 02"	19921101~ 19930331	1,100m <sup>2</sup>	公園整備
ひがしやま じ こ ねい 南中学校構内 1次調査地	まつやま じ こ ねい 松山市東石井町 6 7 8番地	38201	33° 48' 10"	138° 46' 44"	19750430~ 19750515	150m <sup>2</sup>	運動場増設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
東山3次調査地	古墳	古墳時代	周溝・溝・柱穴	土師器	
東山6次調査地	古墳	弥生時代前期 ~古墳時代後期	土坑・周溝・主体部	縄文土器・弥生土器・上師器・須恵器・鉄製品	鉄鋸・折り曲げ鉄刀の出土
南中学校構内 1次調査地	集落	古墳時代	竪穴式住居址・掘立柱建物跡	弥生土器・土師器・石器	

松山市文化財調査報告書 第97集

## 東山古墳群Ⅱ

—3次調査・6次調査—

---

平成16年3月31日 発行

編集

松山市教育委員会

〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1

発行

T E L (089) 948-6605

財團法人 松山市生涯学習振興財團

埋蔵文化財センター

〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6

T E L (089) 923-6363

印刷

明星印刷工業株式会社

〒790-0056 松山市土居田町500番地

T E L (089) 971-7111

---

